

足原田遺跡

—コメリHC山梨万力店建設地点—

2019.10

株式会社コメリ
山梨市教育委員会
昭和測量株式会社



調査区全景 西から



調査区全景 東から



TR4 SD4 遺物出土状況 西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 南西から



TR11 S15 床面遺物出土状況 北西から



TR4 SK3 遺物出土状況 西から



TR9 漆付着土器（漆バレット）出土状況 東から



TR11 SD32 上面礫出土状況 南から

序

本書は店舗建設工事に伴って行われた足原田遺跡発掘調査の成果をまとめた報告書です。調査地隣接地では平成15～18年度にかけて4回の発掘調査が行われ、平安時代の集落跡や古墳時代の谷が発見され、それらに伴う多数の遺物も出土しています。今回は店舗建設予定地や水路敷設予定地など1800㎡の範囲で調査を行いました。

調査では古墳時代から中世にかけての溝状遺構・流路跡、古墳時代の竪穴建物跡、中世の掘立柱建物跡などの遺構が検出されました。当地での古墳時代の竪穴建物跡の検出は初めてのことであり、過去の調査により想定された古墳時代の集落の存在に繋がる新たな発見となりました。

古墳時代前期から中世の土器片が多数出土しましたが、中でも古墳時代前期の流路跡のひとつでは、多数の土師器片が流路上面にまとめて廃棄されていました。また同流路跡からは管玉も1点出土しており、当地において祭祀行為が行われていたことを推察できます。奈良・平安時代の特徴的な遺物として漆付着土器(漆パレット)が出土しましたが、当時の生業を考える上で貴重な資料と言えます。そのほか中世の遺物として青磁が検出されたほか、輪の羽口や鉄滓などの鍛冶関連遺物も確認されました。当時の青磁は舶来品であり、周辺に屋敷地や寺社などの存在した可能性を示します。鍛冶関連遺物は過去の調査でも出土しており、当地で鍛冶関連の生業が盛んに行われていたことが改めて示されました。

最後になりますが、株式会社コメリ及び調査を担当していただいた昭と測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます、序といたします。

令和元年10月









山梨市教育委員会
教育長 澤田隆雄

例言

1. 本報告書は、山梨県山梨市万力 839 外に所在する足原田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査はコメリ HC 山梨万力店建設に伴うものである。試掘調査は山梨市教育委員会が実施した。発掘調査と整理・報告書刊行業務は、株式会社コメリと山梨市教育委員会および昭和測量株式会社の間で三者協定を締結し、山梨市教育委員会の指導・監督・助言のもと昭和測量株式会社が行った。
3. 発掘調査は平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 15 日まで行った。整理・報告書刊行業務は平成 31 年 3 月 22 日～令和元年 10 月 31 日にかけて実施した。
4. 本報告書の編集は泉英樹（昭和測量株式会社）が行った。執筆は第 1 章第 1 節を井上顕吾（山梨市教育委員会）が、第 4 章第 1 節を西願麻以（山梨県立博物館）が担当し、その他は泉が行った。
5. 本調査に関わる費用は株式会社コメリが負担した。
6. 発掘調査および報告書刊行にあたって次の方々の御指導と御協力を賜った。厚く感謝の意を表したい。
和田浩志・橋本哲也（株式会社コメリ）、三澤達也・雨宮弘聡・井上顕吾（山梨市教育委員会）、森原明廣・西願麻以（山梨県立博物館）、一之瀬敬一（山梨県立考古博物館）、熊谷晋祐・北澤宏明（山梨県埋蔵文化財センター）、猪股喜彦（笛吹市教育委員会）、坂本美夫
7. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会で保管している。

凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、原則として各図に表示した。
2. 遺構平面図の方位は、原則として各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
3. 遺構全体図および遺構平面図の X・Y 数値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅲ系に基づく座標数値で、単位はメートルである。
4. 断面図・土層図中の数値は、海拔高度（T.P.）を示す。
5. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
6. 挿図第 1 図は、国土地理院発行の 1/25,000 地形図「塩山」を使用した。
7. トレンチ（調査区）・遺構について以下の記号を使用し、種別ごとに連番で番号を付した。
トレンチ：TR 竪穴建物・竪穴状遺構：SI 掘立柱建物：SB 土坑：SK 小穴：Pit
溝状遺構・流路・氾濫堆積範囲：SD または SR 不明遺構：SX
8. 遺物番号は出土地点にかかわらず連番で付した。挿図・写真図版・遺物分布図・観察表および本文中の番号はそれぞれ対応している。
9. 遺構平面図における一点鎖線は視乱、破線はサブトレンチ・試掘坑・推定線である。また竪穴建物床面の破線は硬化範囲である。分かりづらい場合は図中に注記した。
10. 遺構挿図・遺物挿図で使用したトーンの凡例は以下の通りである。

焼土範囲		炭化物範囲		石断面					
須恵器 (断面)		灰釉陶器 (断面)		煤・油煙・ 炭化物		黒色処理・ 黒漆		赤彩・赤漆	

本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	6
第1節 調査の方法	6
第2節 基本層序	6
第3節 遺構と遺物	9
第4章 総括	102
第1節 足原田遺跡出土須恵器に付着した茶色被膜の表面観察	102
第2節 漆付着土器（漆パレット）について	104
第3節 各時期の様相	104

挿図目次

第1図 遺跡位置図・分布図	4	第19図 TR9(4)	48
第2図 トレンチ設定図	7	第20図 TR9(5)	49
第3図 遺構全体図（西半部）	32	第21図 TR9(6)	50
第4図 遺構全体図（東半部）	33	第22図 TR9(7)	51
第5図 TR1	34	第23図 TR10(1)	52
第6図 TR2(1)	35	第24図 TR10(2)	53
第7図 TR2(2)・TR3	36	第25図 TR11(1)	54
第8図 TR4(1)	37	第26図 TR11(2)	55
第9図 TR4(2)	38	第27図 TR11(3)	56
第10図 TR4(3)	39	第28図 TR11(4)	57
第11図 TR4(4)	40	第29図 TR11(5)	58
第12図 TR5・6	41	第30図 TR11(6)	59
第13図 TR7(1)	42	第31図 TR11(7)	60
第14図 TR7(2)	43	第32図 TR11(8)	61
第15図 TR8	44	第33図 TR11(9)	62
第16図 TR9(1)	45	第34図 TR11(10)	63
第17図 TR9(2)	46	第35図 TR11(11)	64
第18図 TR9(3)	47	第36図 TR11(12)	65

第37図	TR11(13)	66	第53図	TR7(2) 出土遺物	82
第38図	TR11(14)	67	第54図	TR7(3)・TR8 出土遺物	83
第39図	TR12	68	第55図	TR9(1) 出土遺物	84
第40図	TR13	69	第56図	TR9(2) 出土遺物	85
第41図	TR14	70	第57図	TR9(3)・TR10(1) 出土遺物	86
第42図	TR1・TR2(1) 出土遺物	71	第58図	TR10(2) 出土遺物	87
第43図	TR2(2)・TR3(1) 出土遺物	72	第59図	TR11(1) 出土遺物	88
第44図	TR3(2)・TR4(1) 出土遺物	73	第60図	TR11(2) 出土遺物	89
第45図	TR4(2) 出土遺物	74	第61図	TR11(3) 出土遺物	90
第46図	TR4(3) 出土遺物	75	第62図	TR11(4) 出土遺物	91
第47図	TR4(4) 出土遺物	76	第63図	TR11(5) 出土遺物	92
第48図	TR4(5) 出土遺物	77	第64図	TR12 出土遺物	93
第49図	TR4(6) 出土遺物	78	第65図	出土遺物の様相(古墳時代)	105
第50図	TR4(7) 出土遺物	79	第66図	出土遺物の様相 (奈良・平安時代～中世)	106
第51図	TR4(8) 出土遺物	80			
第52図	TR6・TR7(1) 出土遺物	81			

表目次

表1 周辺の遺跡	5	表2 遺物観察表	94
----------	---	----------	----

写真図版目次

図版1	調査区全景・TR1	図版19	TR11(5)
図版2	TR2	図版20	TR11(6)
図版3	TR3	図版21	TR11(7)
図版4	TR4(1)	図版22	TR12
図版5	TR4(2)	図版23	TR13・14
図版6	TR4(3)	図版24	調査風景
図版7	TR5・6	図版25	TR1・2・3 出土遺物
図版8	TR7(1)	図版26	TR4(1) 出土遺物
図版9	TR7(2)	図版27	TR4(2) 出土遺物
図版10	TR8	図版28	TR4(3) 出土遺物
図版11	TR9(1)	図版29	TR4(4) 出土遺物
図版12	TR9(2)	図版30	TR6・7 出土遺物
図版13	TR9(3)	図版31	TR8・TR9(1) 出土遺物
図版14	TR10	図版32	TR9(2)・TR10(1) 出土遺物
図版15	TR11(1)	図版33	TR10(2)・TR11(1) 出土遺物
図版16	TR11(2)	図版34	TR11(2) 出土遺物
図版17	TR11(3)	図版35	TR11(3)・TR12 出土遺物
図版18	TR11(4)		

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

山梨県山梨市万力地内において、商業施設の建設が計画された。開発予定地区は足原田遺跡に該当しており、隣接地では平成15～18年度にかけて山梨県土木部による西関東連絡道路建設事業に伴う発掘調査（第1～4次調査）が行われ、平安時代の集落跡や古墳時代の谷などの遺構や、それらに伴う多数の遺物が発見されている。

平成29年11月27日に文化財保護法93条に基づき埋蔵文化財発掘の届出が株式会社コメリより山梨市教育委員会に提出され、平成30年2月20日から3月30日にかけて山梨市教育委員会による試掘確認調査が行われた。試掘確認調査では開発予定地内全体に幅2mのトレンチを31本、テストピットを7ヶ所設定し、調査をしたところ竪穴住居跡、ピット、溝状遺構などが検出され、古墳時代を主体とする遺物も出土した。その後、開発予定地区内の遺跡の保護について株式会社コメリと山梨市教育委員会で協議を行った結果、今回の発掘対象地である1800㎡に対して記録保存調査を行うこととなった。

株式会社コメリは昭和測量株式会社に調査を委託し、平成30年8月24日に山梨市教育委員会を含めた三者協定を結び山梨市教育委員会が調査の監理をすることとした。8月30日に文化財保護法92条の届出が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され10月1日から調査に着手する運びとなった。

第2節 発掘作業の経過

発掘調査は、平成30年10月1日から平成31年3月15日まで行った。

調査範囲は東西方向に流れる用水路で南北に分断されており、用水路の南側の調査区をTR1～7、用水路の北側をTR8～14とした。着手前の現況はモモ・ブドウなどの果樹畑である。着手時点ではTR8～14の範囲に未収穫のブドウ畑や柿畑があり、ブドウ棚なども未撤去であった。発掘調査はその収穫と撤去を待って、TR1～7の調査を先に行い、埋め戻した後にTR8～14の調査を行うこととした。また、既に休耕地となっていた範囲については雑木・雑草が広範囲で背丈以上に伸びており、作業や測量に必要なスペースを確保するため、開発範囲内で全面的な草刈りを行った。

調査にあたっては、調査区（トレンチ）ごとに山梨市教育委員会の立会による段階確認を受け、監督と指導を仰ぎつつ作業を進めた。以下に調査経過の概略を記す。

平成30年

- 10月 1日（月） 調査区の設定、基準点の仮設、草刈り、駐車スペース整備など環境整備。
- 10月 2日（火） 0.45㎡バックホウによる表土掘削を開始。
- 10月 5日（金） 仮設ハウス・トイレ搬入・設置。
- 10月 9日（火） TR1より発掘作業員（12名）による掘削調査を開始。
- 10月10日（水） バックホウによる表土掘削を終了（TR1～7まで）
- 11月 7日（水） TR1～3の調査を終了。
- 11月28日（水） 用水路北側のTR8～14の調査区設定。
- 11月30日（金） TR4～6の調査を終了。
- 12月 4日（火） バックホウによる表土掘削開始（TR8・9）。
- 12月 5日（水） TR7の調査を終了。
- 12月 7日（金） TR8・9の表土掘削が終了し、調査区を仮囲い。
- 12月10日（月） TR1～7の埋め戻し開始。
- 12月11日（火） 山梨県立考古博物館一之瀬氏、山梨県埋蔵文化財センター熊谷氏・北澤氏来場。

- 12月15日(土) TR1～7の埋め戻し完了。
- 12月26日(水) TR8の調査が終了。
- 平成31年
- 1月8日(火) TR10～14の仮設基準点設置。バックホウ搬入。
- 1月9日(木) 午前、TR8の埋め戻し。午後よりTR10以降の表土掘削開始。調査区仮囲い。
- 1月11日(金) バックホウによる表土掘削終了(TR10～14)。調査区仮囲い。
- 1月16日(水) TR9の調査を終了。
- 1月28日(月) TR12～14の調査を終了。
- 2月8日(金) 元山梨県埋蔵文化財センター坂本美夫氏来場。
- 2月10日(日) フィールドミュージアムウォークの参加者10名が現場見学。出土遺物と写真パネルを展示。現場ではTR11で竪穴建物の現状展示。
- 3月6日(水) ドローンによる空中写真撮影(TR9～14)。
- 3月9日(土) 10:00より現場説明会。出土遺物・写真パネルによる展示を行った他、竪穴建物の現状展示。参加者約100名。説明会終了後、掘り残した遺構を完掘。記録作業を行って全ての調査を完了。
- 3月15日(金) 埋め戻し完了(TR9～14)。仮設ハウス・トイレ・仮囲いをすべて撤去、現場撤収。

第3節 整理等作業の経過

整理・報告書刊行業務は、平成31年3月22日から令和元年10月31日の期間で、山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課の事務所内にて行った。

遺物の水洗・注記を平成31年3月22日から開始し、4月16日までに終了した。その後、接合・復元と選別作業を進めつつ、遺物実測とそのトレース作業を令和元年5月7日から7月26日まで行った。遺物写真撮影は7月2日から7月20日まで行った。これらの過程で6月24日には山梨市教育委員会が来社し、報告書掲載遺物の選定や整理作業について指導と助言を得ている。また現場の調査写真や遺構図についても並行して作業を進め、8月20日までに整理やパソコンによるトレース作業を終了した。自然科学分析については、遺物の水洗・注記の過程で須恵器短頸壺の蓋の内面に漆状の付着物を確認し、6月12日に山梨県立博物館にその同定を依頼した。その後、遺物観察表の作成や報告書の挿図・図版の編集、本文執筆と作業を進め、10月31日までに報告書を刊行した。

〔調査体制〕

調査顧問 新津健(昭和測量株式会社研究顧問)

調査担当 泉英樹・浅川晃一(昭和測量株式会社)

測量(調査区設定) 米山広男・曾根孝・渡辺和成・中山楓・廣瀬芳仁(昭和測量株式会社)

空中写真撮影 深沢洋樹・吉田泰司(昭和測量株式会社)

発掘作業員 朝倉仁恵・石原大・岩崎誠至・岡崎正・長田秋文・小澤美幸・河野次雄・鬼島章・小林芳子・武井みち子・千葉美奈・筒井聡・出井光・内藤敏夫・中澤保・弘内茂明・広瀬ありさ・藤巻浩太郎・原田隆邦・松本榮一・望月一正・矢崎真佐美・横内光夫

整理作業員 朝倉仁恵・今福ともみ・尾川正美・小澤美幸・栗田かず子・小宮山みや子・齊藤里美・佐野香織・千葉美奈・広瀬ありさ・藤原由香・藤巻浩太郎・三木一恵

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境（第1図）

足原田遺跡は、甲府盆地北東部の山梨県山梨市万力に所在する。甲府盆地を南西方向に流れる笛吹川の右岸で、その扇状地の西縁にあたる場所に立地し、棚山（標高 1,171m）山塊の一角である通称万力ヤマジの麓である。笛吹川は富士川水系に属する河川で、秩父山系を源として甲府盆地南側で釜無川と合流して富士川となる。古くから氾濫を繰り返し、その流路には幾多の変遷があったことが推測されている。近年では明治 40 年 8 月の台風による記録的な大雨で大きな洪水被害を引き起こし、笛吹川自体も大きく流路が変化している。

現況地盤の標高は 322 ～ 325m を測り、南西方向に緩やかに傾斜する地形である。調査前の現況は傾斜地を段状に造成し、モモ・ブドウの栽培を主とした果樹畑であった。

第2節 歴史的環境（第1図）

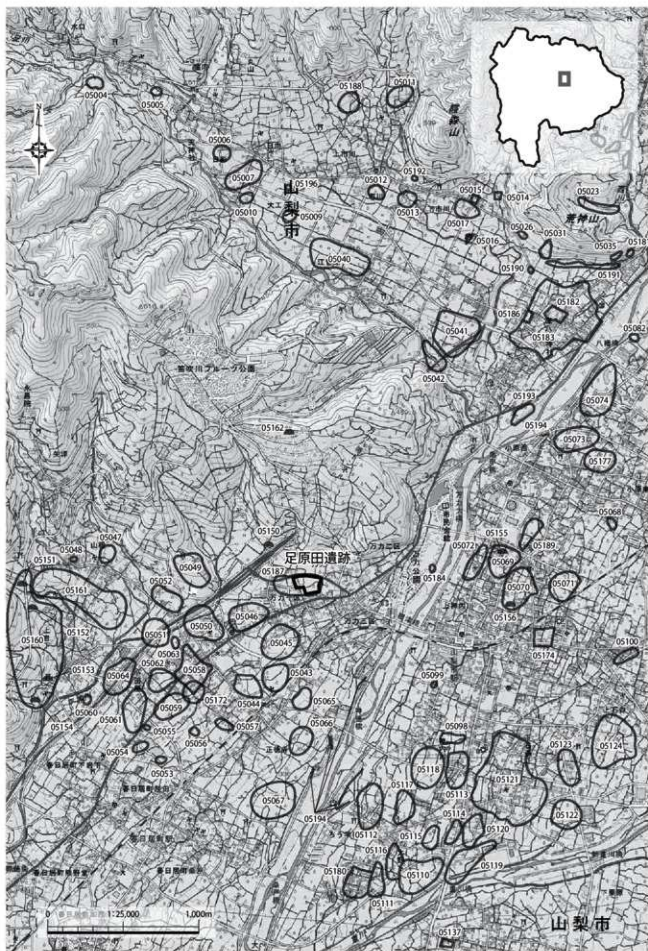
山梨市内において埋蔵文化財包蔵地として周知されている遺跡は 316 地点にのぼる（令和元年 8 月現在）。その中の過半数を奈良・平安時代の遺跡が占める。足原田遺跡周辺地域では近年、西関東道路が建設されており、その建設に伴って発掘調査が行われ多くの成果を得ている。今回の調査では古墳時代前期、奈良・平安時代、中世とみられる遺構・遺物を検出しており、近接する遺跡の当該時期の成果と足原田遺跡の既往の調査成果を中心に歴史的環境を述べたい。

古墳時代では足原田遺跡の北西 300m の地点に長源寺前古墳（05150）が位置する。昭和 57 年に岩下古墳群に包括され市指定史跡となっている。墳丘上には大形の石材が 2 枚露出する。主体部に横穴式石室を持ち、露出する 2 枚の石は天井石とみられている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、石室幅が 2m を測ることから、山梨市域においては大形の規模をもつ古墳と推定されている。南西 750m の地点には延命寺遺跡（05050）が所在する。古墳時代前期末の竪穴建物 2 軒を検出しており、東海地域に起源をもつパラススタイル壺なども出土した。山梨市史は足原田遺跡との関連性を指摘する。

奈良・平安時代では調査区周辺は『和名類聚抄』に記された山梨郡の山梨郷に比定される地域である。前述の延命寺遺跡で 9 世紀中葉から 10 世紀後半の遺物が出土し、竪穴建物も検出している。その西側に隣接して千原田遺跡（05051・別称：中沢遺跡）が所在する。竪穴建物 6 軒と溝 1 条を検出している。そのうちの 1 軒と溝は古墳時代前期で、他の 5 軒はすべて奈良時代である。県内では平安時代まで継続しない奈良時代の集落はほとんどみつかっておらず、その意義が注目される。南に約 2km の地点には高畑遺跡（05111）が所在する。8 世紀前半とみられる漆紙付着土器が出土しており、公的な工房が存在した可能性が指摘されている。また、平安時代後期の竪穴建物 3 軒が検出されている。

中世では調査地周辺は万力郷に比定される地域である。東に 800m の地点、現在の万力公園内に「雁行堤」（05184）がある。差出の磯の南側から万力集落にかけて川沿いに水害防備林（万力林）が広がり、その中に堤防遺構の一部が現在も遺存する。万力の地名は『甲斐国志』によれば、中世の甲斐の三大水防難所の当地を護ってきたことを祝す意味とされ、数々の記録から中世にさかのぼることが確認できる。今回の調査でも調査区全体で氾濫の痕跡を確認したが、古くから笛吹川の氾濫に対して、物理的にも精神的にも向き合ってきた地域であることが窺い知れる。

足原田遺跡の既往の調査としては、西関東道路と国道 140 号とのアクセス道路の建設に伴い、山梨県埋蔵文化財センターが平成 15 ～ 18 年度に今回の調査区の北側に隣接する地点で発掘調査を行っている。検出された主な遺構は古墳時代前期の土器捨て場とされる谷と平安時代末に位置づけられる竪穴建物である。土器捨て場から出土した古墳前期の大量の土器は大規模な集落の存在を予測させるものであったが、当該期の竪穴建物は検出されなかった。今回の調査で古墳前期の竪穴建物が検出されたことは大きな成果の一つである。



第1図 足原田遺跡位置図及び遺跡分布図

表1 周辺の遺跡

遺跡№	遺跡名	種別	所在地	時代	遺跡№	遺跡名	種別	所在地	時代
05004	馳平遺跡	散布地	水口字馳平	縄文	05073	八王子遺跡	集落跡	小原東字八王子	縄文
05005	形山遺跡	散布地	水口字形山	縄文・中世	05074	立石遺跡	集落跡	小原東字立石	縄文・奈良・平安
05006	小揚遺跡	散布地	堀内字小揚	縄文・平安	05082	権現窪経塚	経塚	七日市町字権現窪	中世・近世
05007	大工北遺跡	散布地	大工字日影	縄文・古墳・平安	05098	前田遺跡	散布地	下神内川字前田	平安
05009	芦原遺跡	散布地	大工字芦原	平安	05099	宮ノ上遺跡	散布地	下神内川字宮ノ上	平安
05010	大工南遺跡	散布地	大工字井ノ久保前	縄文	05100	上手原遺跡	散布地	上石森字上手原	縄文
05011	市川北遺跡	散布地	市川字平山	縄文	05110	天神前東遺跡	散布地	大野字天神前	縄文・平安
05012	市川西遺跡	散布地	市川字植田	縄文	05111	高畑遺跡	集落跡	大野字高畑	縄文・古墳・平安
05013	植田遺跡	集落跡	市川字植田	縄文	05112	榎木田遺跡	散布地	大野字榎木田	平安
05014	於北南遺跡	散布地	市川字於北	平安	05113	宗高北遺跡	散布地	下石森字宗高	平安
05015	神明前遺跡	散布地	市川字神明前	平安	05114	宗高南遺跡	散布地	下石森字宗高	弥生・古墳
05016	犬塚遺跡	散布地	市川字犬塚	平安	05115	宗高西遺跡	散布地	下石森字宗高	古墳
05017	市川東遺跡	散布地	市川字神明前	縄文	05116	天神前北遺跡	散布地	大野字天神前	平安
05023	大久保遺跡	散布地	東字大久保	縄文・平安	05117	市道遺跡	散布地	大野字市道	平安
05026	桶詰裏遺跡	散布地	北字桶詰裏	平安・中世	05118	杉ノ木遺跡	集落跡	下神内川字杉木	古墳
05031	西片山遺跡	その他の遺跡	北字西片山	中世・近世	05119	雲林遺跡	散布地	下石森字雲林	縄文・古墳・平安
05035	中下西遺跡	散布地	東字中下	平安	05120	宗高東遺跡	散布地	下石森字宗高	縄文
05040	江曾原遺跡	集落跡	江曾原字片瀬	縄文・古墳・平安	05121	屋敷添遺跡	散布地	下石森字屋敷添	縄文・平安・中世
05041	上コブケ遺跡	集落跡	北字上コブケ	縄文・平安	05122	上石森塚遺跡	散布地	上石森字塚越	縄文・古墳・平安
05042	兄川河床遺跡	その他	南字兄川 (200M) 河床	旧石器	05123	宮ノ前遺跡	散布地	上石森字宮ノ前	平安
05043	間之田東遺跡	散布地	正徳寺字間之田	平安	05124	上黒木遺跡	散布地	上黒木字上黒木	奈良・平安・中世
05044	天神前遺跡	散布地	正徳寺字天神前	縄文・平安・中世	05137	西条遺跡	散布地	歌田字西条	平安
05045	間之田西遺跡	散布地	正徳寺字間之田	古墳・平安	05150	長源寺前古墳	古墳	上万力字蟹沢	古墳
05046	原ノ前遺跡	散布地	万力字原ノ前	奈良	05151	観音塚古墳	古墳	山之根字天狗前	古墳
05047	長田遺跡	散布地	山根字長田	縄文	05152	山寺古墳	古墳	上岩下字上蟹田	古墳
05048	鷹田遺跡	その他の遺跡	山根字鷹田	中世・近世	05153	天神塚古墳	古墳	上岩下字天神山	古墳
05049	金板遺跡	散布地	落合字金板	縄文・平安	05154	牧洞寺古墳	古墳	上岩下字牧洞山	古墳
05050	延命寺遺跡	集落跡	落合字延命寺	奈良・古墳・平安	05155	平塚古墳	古墳	上神内川字平塚	古墳
05051	千原田遺跡	集落跡	落合字千原田	古墳・平安	05156	稲荷塚古墳	古墳	上神内川字塚越	古墳
05052	地蔵久保遺跡	散布地	落合字地蔵久保	平安	05160	岩下古墳群	古墳群	上岩下	古墳
05053	欠之下遺跡	散布地	正徳寺字欠之下	中世	05161	山根古墳群	古墳群	山根	古墳
05054	花板遺跡	散布地	落合字花板	平安・中世	05162	富士塚	富士塚	上万力字藤塚	近世
05055	落合市道遺跡	散布地	落合字市道	平安	05172	落合館跡	城館跡	落合字屋敷	中世
05056	正徳寺前田遺跡	散布地	正徳寺字前田	平安	05174	城伊庵原敷跡	城館跡	上神内川字幸ノ前	中世
05057	林際遺跡	散布地	正徳寺字林際	平安	05177	安田義定館跡	城館跡	小原西字八王子	中世
05058	原敷遺跡	散布地	落合字原敷	平安・中世	05180	大野野跡	城館跡	大野字三十六	中世
05059	堀之内遺跡	散布地	落合字堀之内	平安	05181	荒神山宮跡	宮跡	東字荒神山	平安・中世
05060	小金田遺跡	散布地	上岩下字小金田	縄文	05182	窪八幡神社	神社	北字仲町	中世
05061	半座池遺跡	散布地	落合字半座池	古墳・平安	05183	窪八幡神社社家坊中	社寺跡	北	中世・近世
05062	田屋之前遺跡	散布地	落合字田屋之前	平安・中世	05184	堤防堤	堤防遺跡	万力字正月林	近世
05063	三牧地遺跡	散布地	上岩下字三牧地	平安・中世	05186	清水陣屋跡	陣屋跡	北字デウノコシ	近世
05064	小武家遺跡	集落跡	上岩下字小武家	平安・中世	05187	足原田遺跡	集落跡	万力字足原田	古墳・平安・中世
05065	三宮寺遺跡	散布地	正徳寺字三宮寺	平安・中世	05188	泉林遺跡	散布地	市川字泉林	縄文
05066	九ツ塚遺跡	散布地	正徳寺字九ツ塚	平安・中世	05189	榎木田遺跡	集落跡	小原西字榎木田	縄文・古墳
05067	五鉢寺遺跡	散布地	正徳寺字五鉢寺	平安	05190	柿川田遺跡	集落跡	北字廻り田	古墳
05068	寺の下遺跡	散布地	小原西字寺の下	縄文・古墳・平安	05191	膳棚遺跡	集落跡	北字中膳棚ほか	平安
05069	平塚遺跡	散布地	上神内川字平塚	平安	05192	神明前遺跡	社寺跡	市川字神明前	中世・近世
05070	塚越遺跡	散布地	上神内川字塚越	古墳・中世	05193	窪八幡神社社地跡	社寺跡	南	平安・中世
05071	松原遺跡	散布地	上神内川字松原	中世	05194	笛吹川堤防跡群	中世・近世	近世・近現代	
05072	日下部病院前遺跡	散布地	上神内川字水上	古墳	05196	堰岡遺跡	集落跡	堀内字堰岡	縄文・平安・中世

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法（第2図）

調査範囲は、開発範囲内を全面的な対象とせず、店舗建物の基礎や雨水貯留施設の敷設部分と用水路の付け替えが予定される部分に限定した。東西約170m、南北約90mの範囲の中に、14本のトレンチ（TR）を設定し、現用水路以南をTR1～7、以北をTR8～14とトレンチ番号を付した。各トレンチが離れており、土層や遺構の平面的な連続性を把握しづらい状況であったため、はじめにサブトレンチを設定して土層確認に努めながら遺構検出面を決定した。検出状況は写真や概略図などで記録した。遺構測量は、土層断面は手実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量にはボール撮影およびドローン空中撮影の写真も使用した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。遺構写真撮影には一眼レフデジタルカメラ（NikonD7000）を使用した。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。各トレンチの調査終了時には山梨市教育委員会による確認を受けた。

整理事業は遺物の水洗、注記、接合と進め、実測遺物の選定にあたっては山梨市教育委員会の確認を受けた。整理事業の過程で確認した漆付着土器の同定は山梨県立博物館に依頼した。遺物実測は手描きで行い、写真撮影は一眼レフデジタルカメラ（同上）を用いた。トレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業にはadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用した。

第2節 基本層序

調査範囲全体の遺構検出面の標高は321.3～324.1mを測る。全体としては北東から南西へ低く傾斜する地形である。基本層序は各トレンチの壁面で観察記録した。近現代の耕作土・水田層はI層とし、近現代以前の水田層または近世から中世の遺物包含層をII層とした。ほとんどのトレンチでI層またはII層直下に氾濫堆積層を確認している。中世～古墳時代とみられる遺物包含層はIII～V層とし、地山はVI層または単に地山とした。必要に応じて小文字のアルファベットを付与して細分した。できるかぎり同じ基本層序で記録するように心がけたが、整合しきれずトレンチ毎の層序となっている部分もある。以下、トレンチ毎に記述する。

TR1（第5図）

地山の上面の標高は322.1～322.5mを測る。I層の下は層厚0.6～0.9mにわたって褐色や灰白色の砂・粗砂が互層状に積み重なる氾濫堆積層である。その直下は地山のVI層で、礫層である。

TR2（第6図）

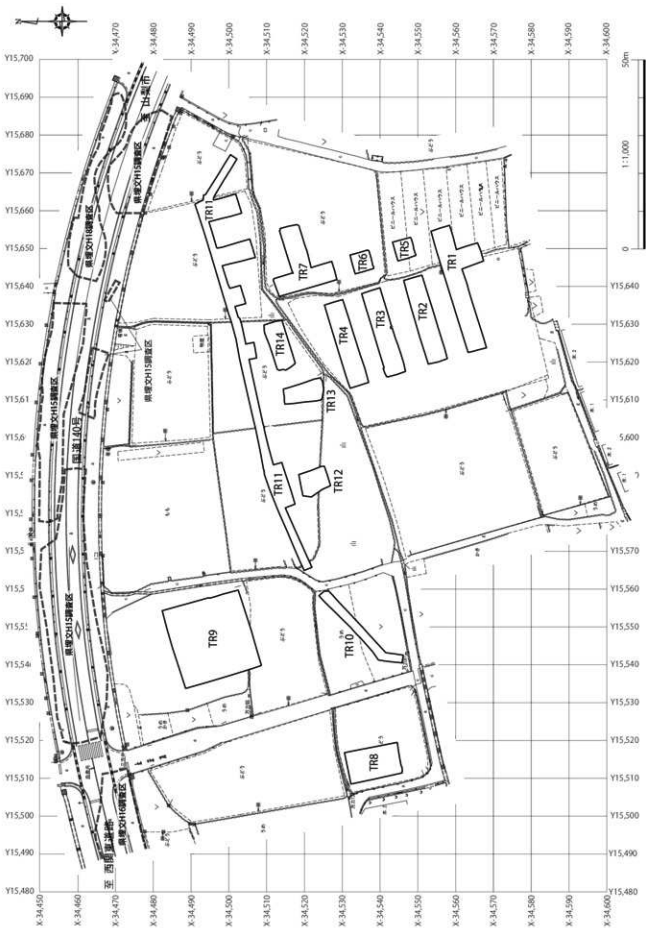
遺構検出面としたVI層上面の標高は322.5～322.7mと概ね平坦である。I・II層の耕作土・水田層の下に黒褐色砂質シルトを基調とするIII～V層が堆積する。VI層は地山で、東半部では砂、西半部は礫層となる。

TR3（第7図）

遺構検出面としたVI層上面の標高は322.2～322.6mを測る。北東隅で古墳時代前期の流路SD4を検出しており、南西部が高く北東へ向かって低い地形である。I・II層下で層厚10cmほどの水平堆積層を複数検出した。自然堆積層と土壌化した層が交互に重なっており、数度にわたって土壌化したようである。III～V層の層序で細分した。IV c層は古墳遺物を含む。西端部では層序が収斂し、I・II層の直下で礫層の地山となる。

TR4（第11図）

下層遺構の検出面としたVI層上面の標高は322.6～322.9mを測る。下層はトレンチの大部分を古墳時代前期の流路SD4が占める。旧地形は東側が高く西側が低くなる。I層下に層厚10cm程度の水平堆積層が複数堆積しており、IV層として細分した。IV a層は暗褐色砂質シルト、IV b層は黒褐色砂で、奈良・平安時代の遺物を包含する。IV c層は灰白色砂で、上層遺構の検出はIV c層上面で行った。IV d層は暗褐色砂質シルト



第2図 定原田遺跡トレンチ設定図

で古墳時代の遺物を包含する。Ⅳd層を剥いだⅤ層上面、またはⅥ層上面で下層遺構のSD4を検出している。トレンチの東端部では層序が取返し、Ⅰ層直下が無遺物層のⅤ層または地山のⅥ層となる。

TR5 (第12図)

遺構検出面としたⅥ層上面の標高は322.5～322.8mを測る。旧地形は北東に向かって低くなる。Ⅰ・Ⅱ層の直下は1.1mにわたって、灰黄色の砂質シルトや細砂などからなる汎濫堆積層となる。

TR6 (第12図)

遺構検出面としたⅥ層上面の標高は322.4～322.7mを測る。南側が低くなる地形である。Ⅰ・Ⅱ層は現耕作土・水田層である。その下に層厚10～20cmの水平堆積層が複数堆積し、Ⅲ～Ⅴ層として細分した。それらを剥いだⅥ層上面で、古墳時代前期の流路SD4を検出した。

TR7 (第13・14図)

遺構検出面のⅥ層上面の標高は323.6～323.9mを測る。TR4・6との比高差は約1mに及ぶ。Ⅱ層の褐色砂質シルトは中世から近世の堆積層か。黒褐色砂質シルトのⅢ層は部分的に遺存しており、Ⅳ層はない。Ⅴ層は無遺物層である。遺構検出はⅡ・Ⅲ層を剥いだⅥ層上面で行った。Ⅵ層はにぶい黄褐色砂を基調とする。

TR8 (第15図)

遺構検出面としたⅥ層上面の標高は323.1～323.3mを測る。Ⅰ層は現耕作土である。Ⅱ・Ⅲ層は灰黄褐色砂を基調とする水平堆積層で、トレンチの北半部に遺存する。中世以降の堆積層とみている。遺構検出はⅢ層を剥いだ地山のⅥ層上面で行った。

TR9 (第22図)

遺構検出面としたⅥ層上面の標高は321.9～322.2mとほぼ平坦である。Ⅰ層は耕作土や造成土である。Ⅱ層は層厚10～20cmの水平堆積層で、中世以降の堆積層とみている。Ⅲ層は黒褐色砂質シルトを基調とし、古墳時代から奈良・平安時代の遺物を含む。Ⅳ・Ⅴ層はない。Ⅵ層の地山は、北半部では礫層で、南半部では礫層の上に黄褐色細砂の安定した地盤が広がる。遺構検出はⅥ層上面で行った。

TR10 (第24図)

遺構検出面のⅥ層上面の標高は321.3～321.6mで、北東側がやや高くなる。Ⅰ層は現耕作土・水田層である。Ⅱ層は層厚10～40cmの灰黄褐色砂で、中世以降の堆積層か。Ⅲ層は層厚10～15cmで、黒褐色細砂で古墳遺物を含む。Ⅳ・Ⅴ層はなく、Ⅵ層の地山は黄褐色細砂を基調とする。遺構検出はⅥ層上面で行った。

TR11 (第27～31・35～38図)

遺構検出面とした地山上面の標高は322.0～324.1mで、北東側が高くなる地形である。TR11の東端部が今回の調査で最も標高が高い場所となる。Ⅰ層は現耕作土および水田層である。Ⅱ層は層厚50cmの褐色砂の水平堆積層で、中世の堆積層とみられる。その下のⅢ層はトレンチの東半部を中心に遺存する。層厚20～30cmで黒褐色砂の基調とする水平堆積層で、古墳時代の遺物を含む。Ⅳ・Ⅴ層はない。地山はにぶい黄褐色砂を基調とし、トレンチの東端部と西端部ではそのすぐ下が礫層となる。遺構検出はⅡ・Ⅲ層を剥いだ地山上面で行い、黄褐色砂の安定した地山面が広がるトレンチ中央部付近を中心に遺構を多く検出した。

TR12 (第39図)

遺構検出面の地山上面の標高は322.1～322.3mである。Ⅰ層は現耕作土・水田層である。Ⅱ層は層厚40cmの灰黄褐色砂質シルトで、中世の堆積層か。Ⅲ層は層厚30cmの暗褐色砂で、その下が地山の礫層となる。

TR13 (第40図)

遺構検出面の地山上面の標高は322.3～322.5mである。Ⅰ層は現耕作土である。その下が層厚50～100cmに及ぶ汎濫堆積層となる。Ⅲ層は層厚20cmの暗褐色砂だが、無遺物である。その下の地山は礫層である。

TR14 (第41図)

遺構検出面とした地山上面の標高は322.9mである。Ⅰ層の現耕作土の直下が礫層の地山となる。

第3節 遺構と遺物

発掘調査は東西約170m、南北約90mの範囲の中に、構造物で攪乱される地点に14本のトレンチを設定して行った。また、調査前の現況は北東側が高く南西側が低い傾斜地を段状に形成した段々畑となっていた。トレンチの間隔や高低差により土層や遺構の連続性が把握しづらい状況であったため、以下はトレンチ毎に調査成果を記載することとする。遺構番号はトレンチにかかわらず遺構種別ごとに通し番号で付与した。記号はトレンチがTR、竪穴建物又は竪穴状遺構がSI、掘立柱建物がSB、土坑がSK、小穴はPit、溝状遺構・流路はSDとした。また複数地点で広範囲にわたって検出した氾濫堆積の範囲はSDとSRを併用している。SXは不明遺構として記載した。

TR1 (第5・42図、図版1・25)

今回の調査範囲では最も南側に位置する。トレンチ規模は33.5m×5.0mで、東側に6.0m×5.0mの張り出し部分がある。現場調査では北壁沿いにサブトレンチを設定して土層観察したが氾濫堆積とみられる砂層を検出したのみで、その直下は地山の礫混じり層となる。遺物はほとんど混入しておらず遺構も遺存しないと推定した。全面的な掘り下げは行わず、サブトレンチで土層を記録して調査終了とした。なおTR2では検出した氾濫堆積の範囲をSR1とした。覆土が類似しておりSR1と同じ氾濫が、TR1全体を地山直上まで覆っているとみられる。検出できた遺構はなく、遺物も少ないが氾濫堆積層で出土したうちの1点を図示した。1は土師器の皿である。器高は低く、口縁部が直線的に立ち上がる平安時代のものである。

TR2

TR1の北側に位置する。トレンチ規模は23.5m×5.0mである。南半部はSR1とした氾濫堆積層の範囲で、その下は礫層の地山となる。北半部東側のVIa層上面で竪穴建物SI1と溝状遺構SD1を検出した。

SI1 (第6・42図、図版2・25)

[位置・重複] TR2の中央部北側に位置する。重複する遺構はない。

[検出状況] カマド痕跡とみられる焼土・炭化物・粘土の範囲と石を検出した。石は地山の礫層の丸いものと明らかに異なり、角張っていて鋭角な割れ口なども遺存する。細長い角柱状で被熱した支柱石とみられるものや袖石としての使用が想定できるものを検出している。竪穴建物の平面形は検出できず、主軸方向・規模は不明である。建物本体はトレンチの北側にあり、建物の南東隅部に位置していたカマドの痕跡のみを検出できたものと推測する。

[覆土] 平面形は検出できなかったが、トレンチの北壁に覆土が遺存する。上層は褐灰色細砂を基調とし、下層に床面とみられる灰黄褐色砂質シルトの硬く締まった薄い層を検出した。

[遺物出土状況] カマドまたはカマドに近接する位置でわずかに出土した。支柱石とみられる角柱状の倒れた石の下から土師器の坏が出土している。

[出土遺物] 出土遺物のうち、3点を図示した。いずれも土師器で、カマドまたはカマドに近接して出土した遺物である。2は台付甕の脚台部とみられるが、透孔が六方に施される。裾部の折り返しはない。3は坏で、内外面をロクロナデし、口縁は直線的に立ち上がる。4は甕で、口縁が短く外方へ折れる。

[時期] 出土遺物から平安時代(11世紀代)とみられる。

SD1 (第6図)

[位置・重複] TR2の東側に位置する。切り合いではSR1に先行する。

[検出状況・覆土] 南東から北西方向に走り、北端はトレンチ外に延び、南端はSR1に切られる。幅1.5m、

遺構検出面からの深さは8cmである。覆土は黄褐色細砂を基調とし礫を多く含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物がなく、不明である。

SR1(第6・7図、図版2)

[位置・重複] TR2の南半部全体と東端部を覆う。切り合いではSD1より新しい。

[検出状況・覆土] 氾濫堆積層の範囲である。北肩の立ち上がりを検出したが、トレンチ内では南肩を検出できなかった。平面規模は不明だが、南側はさらに範囲が延びて、SR1全体を覆っていた氾濫堆積層につながるものとみられる。また東端部で屈曲して北へ延びた先はTR3のSR2につながると推測する。遺構検出面からの深さは90cmである。底面に遺構はない。覆土は黄褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 土師器の小片が少量出土したが図示できない。覆土や北側で接続するSR2の出土遺物から平安時代末以降か。

遺構外出土遺物(第42・43図、図版25)

出土遺物のうち13点を図示した。5～15は土師器である。5は古墳時代の壺である。6～8は甲斐型土師器の初期段階の坏である。6・7は外面下位をヘラケズリし、底部は静止糸切りする。8は見込み内に暗文が施される。9は坏で、10～12は皿である。いずれも口縁部が直線的に立ち上がるものである。10は内面に粉痕が残る。煤も付着しており、灯明皿として使用されたものとみられる。12は底部が台状に厚くなり、内外面には煤が付着する。13～15は甕である。13は厚口口縁で14・15は口縁部がゆるく外反する。16・17は須恵器で、16は蓋である。17は壺とみられるが、外底面の高台内に平滑面があり、墨痕様のしみも付着することから、転用して礎として使用した可能性が高い。

TR3

TR2の北側に位置する。トレンチ規模は23.5m×5.0mである。現況地盤から80cmほどで氾濫堆積層のSR2～4を検出した。さらに全面を掘り下げてSD4を検出している。トレンチの西半部では礫層の地山まで掘り下げたが遺構は検出できなかった。

SD4(第7・43図、図版3・25)

[位置・重複] TR3の東側で検出した。SR2と重複し、先行する。

[検出状況] TR3で検出したのは流路の南肩のみである。南東から北西方向に走り、トレンチ外へ延びる。上層の氾濫堆積層に攪乱されている。隣接するTR4～6でも方向や覆土、出土遺物が類似する流路を検出したため、同一遺構と判断し全てSD4としている。

[覆土] 検出範囲ではにぶい黄褐色細砂を基調とし、遺物が混入する。覆土上面部分に相当する層とみられる。

[遺物出土状況] 覆土上面部分で遺物が出土する。

[出土遺物] 出土遺物のうち5点の土師器を図示した。18は高坏の脚柱部で透孔が三方に施される。19～21は壺である。19は口縁が短く外方に折れ、20は大きく外反する。21は底部である。上層のSR2で出土した23と胎土が類似しており同一個体の可能性があるが接合しなかった。22は甕か。

[時期] 古墳時代前期とみられる。

SR2(第7・43図、図版3・25)

[位置・重複] TR3の東側に位置する。SD4の上層に重なって検出した。

[検出状況] 氾濫堆積層の範囲である。北西から南東方向へ走る。南側はTR2のSR1につながると推測する。底面に遺構はない。

[覆土] 上層では灰白色粗砂に灰色砂が薄く互層状に堆積する層が基調となる。下層は小礫を多く含む粗砂で、強い水勢で短期間に堆積したものとみられる。

[出土遺物] 出土遺物のうち4点の土師器を図示した。23は壺、24は甕でいずれも古墳時代か。25は坏、26は皿である。いずれもロクロナデ成形で、26は口径7.2cmと小形である。

[時期] 出土遺物から平安時代末を上限として、中世としておきたい。

SR3 (第7・44図、図版3・25)

[位置・重複] TR3の中央部に位置する沓蓋堆積層の範囲である。重複する遺構はない。

[検出状況] 南側はトレンチ外へ延びる。範囲は分かれるが、覆土が類似しておりSR2・4と同時期に堆積した沓蓋堆積層と推測する。底面に遺構はない。

[出土遺物] 出土遺物のうち5点の土師器を図示した。27は器台、28は台付甕の脚台部でそれぞれ古墳時代か。29は坏で、口縁端部が玉縁状を呈す。30・31は皿である。外面下半はヘラケズリし、見込内に同心円状暗文を施す。

[時期] 古墳時代と平安時代(9・10世紀代)の遺物が出土するが、覆土からSR2と同じ中世としておきたい。

SR4 (第7図、図版3)

[位置・重複] TR3の中央部に位置する沓蓋堆積層の範囲である。重複する遺構はない。

[検出状況] 北側はトレンチ外へ延びるため平面形の全容は不明である。覆土が類似しており、SR2・4と同時期に堆積した沓蓋堆積層と推測する。

[覆土] 上層では灰白色粗砂に灰色砂が薄く互層状に堆積する。下層は小礫を多く含む粗砂である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はないが、覆土から中世としておきたい。

遺構外出土遺物 (第44図・図版25)

5点の土師器を図示した。32は蓋のつまみ部か。33は器台である。34は壺で端部を外に折り返す口縁である。35は台付甕の脚台部で裾を内側に折り返す。36は坏で、外面下半はヘラケズリし、口縁は玉縁状を呈す。

TR4

TR3の北側に位置する。トレンチ規模は23.5m×5.0mである。東端部は現況地盤から50cmほどが現耕作土のI層で、その直下が礫層の地山となる。西半部では現況地盤から約1m掘り下げたところで土坑4基と溝状遺構1条、沓蓋堆積の範囲を検出し、上層遺構面として調査した。上層の調査終了後、さらに全体を掘り下げて下層遺構面で古墳時代前期の流路SD4を検出した。

SK3 (第8・50図、図版4・29)

[位置・重複] TR4の西側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況・覆土] トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長径92cm、深さ20cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物] 出土遺物は1点である。94は土師器の坏である。外面はロクロナデ後、ヘラミガキする。内面に斜格子状暗文を施し、見込境は区画し、見込内には放射状暗文を施す。底部は静止糸切り後、ヘラミガキする。内外面に煤が付着する。全体的に丁寧なつくりで甲斐型土器の初期段階のものと考えられる。

[時期] 出土遺物から奈良時代とみられる。

SK4 (第8図)

[位置・重複] TR4の西側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況・覆土] 平面形は不整形で長軸68cm、短軸50cm、深さ18cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物] 土師器小片がわずかに出土したが、図示できない。

[時期] 覆土と検出状況からSK3と同じ奈良時代と推定する。

SK5 (第8図、図版4)

[位置・重複] TR4の西側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況・覆土] 平面形は楕円形を呈し、長径74cm、短径52cm、深さ36cmを測る。覆土は灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 上面で土師器の盤状環(No.120)が出土した。SK5に帰属する遺物の可能性もあり、時期は奈良時代としたい。

SK6 (第8図、図版4)

[位置・重複] TR4の西側の上層遺構面で検出した。SK7と重複し、切り合いでは新しい。

[検出状況] 平面形は楕円形を呈す。長径90cm、短径48cm、深さ28cmを測る。

[覆土] 灰黄褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はなく、時期は不明である。

SK7 (第8図、図版4)

[位置・重複] TR4の西側の上層遺構面で検出した。SK6と重複し、切り合いでは先行する。

[検出状況] 平面形の全容は不明である。検出部分の長径35cm、深さ20cmを測る。

[覆土] 黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。覆土はSK3・5と類似するため、奈良時代としておきたい。

SD2 (第8図)

[位置・重複] TR4の西側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況・覆土] 南北方向に走り、トレンチ外へ延びる。幅1.5m、深さ30cmを測る。覆土は灰黄褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 土師器や須臾器の小片が出土したが、図示できない。覆土から中世としておきたい。

SR5 (第4・50図、図版4・29)

[位置・重複] TR4の東側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況] トレンチ外へ延びており、平面形の全容は不明である。沓蓋堆積層の範囲である。

[覆土] 図示していないが、灰黄褐色粗砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 土師器が数点出土している。そのうち1点を図示した。95は土師器の鉢か。口縁端部は外方につまみ出す。覆土から中世としておきたい。

SR6 (第8図、図版4)

[位置・重複] TR4の西側に位置する。上層遺構面で検出した。重複はない。

[検出状況] トレンチ外へ延びており、平面形の全容は不明である。沓蓋堆積層の範囲である。

[覆土] 灰黄褐色の細砂やシルトが互層状に積み重なる。最下層は径1cmの礫を多量に含む灰黄褐色粗砂である。水勢を得て短期間で堆積したとみられる。

[出土遺物・時期] 土師器が数点出土したが図示できない。覆土から中世としておきたい。

SD4 (第9～11・44～50図、図版5・6・26～28)

[位置・重複] TR4に位置する。下層遺構面で検出した。

[検出状況] 南東から北西方向へ走り、両端はトレンチ外へ延びる。南東方向ではTR3・5・6で遺構のつながりを確認した。幅8.0m、遺構検出面からの深さ88cmを測る。断面形状は碗状で、北肩側はテラス状のゆるやかな段となっている。

[覆土] 最下層は径5～10mmの礫を含む暗灰黄色粗砂(16層)である。下位から中位にかけては黄色や灰色の粗砂や細砂(8～15層)が入り替わりに堆積する。上面付近では土器を多量に含む黒褐色粘土質シルト(7層)が堆積し、最上層は黄灰色シルトやにぶい黄色細砂などの細かい粒子の土層(5・6層)が堆積する。最下層から中位にかけては水勢がある時期と弱い時期を繰り返しながら埋没していき、上面近くで水勢をなくし

て土壌化していく過程で多量の土器が混入したようである。また北側では径5～50cmの礫を含んだ砂礫層(1層)が覆いかぶさり、ここからも一定量の土器が出土した。

[遺物出土状況] 遺物の多くが流路上面付近で出土しており、それに比すると覆土中位から下位の遺物は少ない。特に流路の北肩では多量の土器が、大小様々な大きさの礫と混じり合うような状況で局所的に出土している。覆土の観察からは水勢が少ない様子が看取できるので、埋没しつつある流路の北側の岸から、人為的に土器と礫が投棄された状況を推定する。また、遺構外出土遺物に含めて図示したが、SD4上面に相当する位置で管玉(№123・第10図)も1点出土している。

[出土遺物] 層位を分け、溝状遺構の上面付近で出土したものをSD4上面、覆土の中位から下位をSD4砂層とし、合わせて57点を図示した。85を除いてすべて土師器である。

37～81はSD4上面として取り上げた遺物である。37は高環とした。坯部の下位から脚部にかけて鋭角の段を有する。遺存状況が悪く、透孔の痕跡はかろうじて2カ所残存するが、全体の透孔の数や脚部の形状は不明である。坯部中央の貫通孔は確認できず高環としたが、いわゆる北陸系の裝飾器台やそれに類似する資料と考えたい。38～42は高環である。内外面はヘラミガキする。脚柱部の三方に透孔を持つものが多い。40・41は口径22cmとやや大形である。43は小形器台で、口縁部は外反する。44は小形丸底壺とした。45～53は鉢である。45・46は小形丸底鉢、47・48は丸底鉢とした。45～48はいずれも体部の径より口径が大きい。47は口径16.0cmに比して器高が4.2cmと極めて扁平な器形である。51は片口鉢である。上面からみた口縁の形状は円形より隅丸方形に近く、その一方が注口となる。52・53は有孔鉢で、平底の中央に孔が施される。52は折り返し口縁である。54～69は壺である。55は直口壺で、口縁部は内外面とも丁寧へラミガキする。56は折り返し口縁、57～59は有段口縁で、その他はゆるく外反する単純口縁である。64は外面に赤彩を施す。70～79は台付甕である。70～73は口縁から体部が残る資料で、肩部に縦位のハケ調整を施す。また70・71はS字口縁の端部を長く拡張したもので、71では短く終わったS字口縁にさらに粘土を接合して長く拡張した痕跡が明瞭に残る。76～79は脚台部で、76を除いて裾部を内側に折り返す。80・81はゆるく外反する単純口縁の甕である。

82～92はSD4覆土の中位から下位の砂礫層として取り上げた遺物である。82・83は高環である。82は脚柱部の透孔を三方に、83は三方の透孔を上下二段に施し、赤彩する。84は小形丸底壺である。85～88は壺で、85は弥生土器か。口縁端部に刻目、口縁部から頸部にかけて櫛描き波状文と簾状文を施す。86は折り返し口縁である。88は底部を木葉痕の上からヘラミガキする。89・90は台付甕で、90は口縁の屈曲はゆるい。91～93は甕で、92の底はやや尖底となっている。

[時期] SD4の上面付近と覆土の中位・下位では堆積の様相が異なっており、多少の時期差を想定したが、概ね古墳時代前期の時期幅に取まっており、ほぼ重複している。SD4は古墳時代前期を通して機能し、中期に至る時期には埋没したと推定する。

砂礫層(第50図、図版29)

[出土遺物] 遺構外出土遺物のうち、SD4の上を覆っていた砂礫層から出土したもので、層位的にはSD4上面の直上となる。12点図示した。すべて土師器である。96～98は高環である。98は脚柱部が柱状を呈する。99は丸底鉢である。100・101は小形器台で、坯部外面はヘラケズリ、内面には放射状のヘラミガキを施す。102は壺の肩部か。結節縄文を施した上に円形浮文を貼り付ける。103は底部穿孔の壺か。底部の孔内壁には管錐状の回転擦痕がみられる。土器焼成後に穿孔されている。104～107は台付甕である。105～107は脚台部で、106・107は裾部を内面に折り返す。

[時期] 出土遺物から古墳時代前期の堆積層とみられる。

遺構外出土遺物(第51図、図版29)

17点を図示した。108～122は土師器である。108は高環の脚柱部である。柱状を呈し、上位には段を施す。109は蓋である。110～112は小形器台で、坯部の口縁が外反するものである。113～118は壺の肩部

である。113は上位から縞書き直線文、斜列点文、波状文を施す。114は有段口縁で、内外面へラミガキする。外面に赤彩が残る。115の口縁端部は面取りする。116は外面肩部に木葉状のへら描きが施されており、その背面の外面にも線状のへら描きがある。119は甕である。120は盤状環で外面はへらミガキし、底面は静止糸切り後へらミガキする。121も環で、外面をへらミガキし、見込に放射状暗文を施す。底面もへらミガキする。122は羽釜の鋳部である。123は管玉で、滑石裂か。孔の径は2.5mmで、孔内面に管簍状の擦痕がみられる。124は打製石器で、縦型の石匙か。遺物の中程から先端部にかけては欠損している。

TR5 (第12図、図版7)

TR2の東側に位置する。トレンチ規模は5.0m×5.0mである。現況はTR2より40cmほど高い耕作地である。現況地盤より90cmほど掘り下げたところで、灰黄色砂を基調とする汎濘堆積層を検出した。さらに礫層の地山まで掘り下げて確認したが、人為的な遺構はない。地山面は北東部に向かってやや低い地形となっており、TR3・4へ向かって延びるSD4によるものと考えられる。出土遺物は図示できないが古墳時代とみられる土師器片が数点出土している。

TR6

TR3の東側に位置する。トレンチ規模は5.0m×5.0mである。現況はTR3より40cmほど高い耕作地である。現況地盤から1mがI・II層とした現耕作土・水田層で、さらに1mほどがIII～V層とした水平堆積の遺物包含層となる。これらを掘り下げた地山のVI層上面で、古墳時代前期の流路SD4を検出した。

SD4 (第12・52図、図版7・30)

[位置・重複] トレンチの南半部に位置する。重複はない。

[検出状況] VI層上面で検出した。トレンチ内を南東から北西方向へ走る。北西側はさらに伸びてTR4のSD4につながる。

[覆土] 上層に暗褐色シルト、中層に灰黄褐色粗砂、下層に黒褐色砂質シルトが堆積する。

[出土遺物・時期] 3点の土師器を図示した。125は高環で、坏部の口縁は直線的に伸びる。126は台付甕、127は甕である。出土遺物から古墳時代前期と考える。

遺構外出土遺物 (第52図、図版30)

4点の土師器を図示した。128は高環である。129は直口壺で内外面をへらミガキし、口縁端部を外方につまみ出す。130は壺、131は甕である。

TR7

TR4の東側に位置する。トレンチ規模は南北17m、東西19mのT字形である。遺構検出面はほぼ平坦で、II・III層を削いだVI層上面で、竪穴建物1軒、土坑3基、Pit7基、溝状遺構4条を検出した。土坑・Pitは散在しており、建物を構成すると推定できるものはない。なお、地山のVI層の標高は隣接するTR4・6に比して1m近く高くなっていて、旧地形はTR7付近を境として、南西方向が谷状に大きく傾斜しているとみられる。

SI2 (第13・52図、図版8・30)

[位置・重複] 東端部に位置する。遺構の重複はない。

[検出状況・遺物出土状況] トレンチ外に延びており平面形の全容は不明だが方形を呈すとみられる。規模は検出部分で南北4.1m、東西3.7mを測る。焼土・炭化物などの炉の痕跡や硬化面、貼床などは確認できなかった。遺物も少なく根拠に乏しいが、床面とみられる位置でほぼ完形の環が正位の状態出土しており、竪穴建

物としておきたい。

[覆土] 黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 2点の土師器を図示した。132 は坏で、ほぼ完形である。底部は平底で、塊形の器形である。133 は台付甕である。出土遺物はわずかだが古墳時代と推定する。

SK 21 (第 13 図、図版 8)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.0m、短径 60cm、深さ 25cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。土師器の小片が5点ほど出土したが、図示できない。時期は不明である。

SK 22 (第 13 図、図版 8)

トレンチ中央部に位置する。切り合いでは Pit89 に先行する。平面形は不整形で、長軸 1.4m、短軸 1.2m、深さ 14cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。土師器の小片が5点出土したが、図示できるものはない。時期は不明である。

SK 23 (第 13 図)

トレンチ中央部に位置する。トレンチ外に延びるため平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は 80cmで、深さ 22cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。土師器小片が1点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit86 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置し、Pit87 と隣接する。平面形は円形で径 17cm、深さ 8cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit87 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置し、Pit86 と隣接する。平面形は円形で、径 16cm、深さ 14cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit88 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形で、径 30cm、深さ 20cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit89 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置する。切り合いでは SK 12 より新しい。平面形は円形で径 24cm、深さ 19cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit90 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置し、Pit91 と隣接する。平面形は円形で径 22cm、深さ 14cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit91 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置し、Pit90 と隣接する。平面形は円形で径 24cm、深さ 20cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit92 (第 13・14 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形で径 30cm、深さ 12cmを測る。覆土は暗褐色砂質シルトである。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD6 (第 13・14 図)

トレンチ西側に位置する。弧状に走り、両端を SD7・8 に切られて短く終わる溝状遺構である。幅 40cm、深さ 10cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物は土師器の小片が2点あるが、図示できない。時期は不明だが切り合いから中世以前の遺構と推定する。

SD7 (第13・14図)

トレンチ西側に位置する。北西から南東方向に走る溝状遺構である。北西部はSD8に切られ、南東部は途切れて終わる。切り合いではSD8に先行し、SD6より新しい。出土遺物は土師器の小片が5点あるが、図示できない。時期は不明だが切り合いから中世以前の遺構と推定する。

SD8 (第13・14・52図、図版8・9・30)

[位置・重複] トレンチ西側に位置する。切り合いではSD6・7より新しい。

[検出状況・遺物出土状況] 北東から南西方向へ走り、両端はトレンチ外へ延びる溝状遺構である。南東肩部のみ検出したため、規模は不明である。深さは90cmを測る。肩部で比較的遺存状態の良い中世遺物が出土している。

[覆土] 灰黄褐色砂質シルトを基調とし、径10～50cmの礫を含む。

[出土遺物] 出土遺物のうち7点を図示した。134は古墳時代の土師器の甕である。135は坏で、見込内に放射状の暗文を施す。136は土器である。掘目は確認できないため控鉢とした。口縁端部は内面側を上方につまみ上げる。137～140は瓦質土器の播鉢である。137は注口部分で、140は体部内面と見込みに九条一単位位の掘目を施す。136～140は中世(15世紀以降)の遺物とみている。

[時期] 出土遺物から中世の遺構である。

SD9 (第13・53図、図版9・30)

[位置・重複] トレンチ東側に位置する。重複はない。

[検出状況・覆土] 湾曲しながら北から南へ走る溝状遺構である。両端はトレンチ外へ延びる。幅2.8m、深さ20cmを測る。覆土は褐灰色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物] 出土遺物のうち6点を図示した。141は古墳時代の土師器の壺である。頸部に粘土紐を貼り付け、その上から刺突文を施す。142は坏で、内外面の調整はロクロナデのみである。143・144は瓦質土器の播鉢である。143は外面に煤が付着する。144は見込みに六条一単位位の掘目を施す。145・146は土器である。145は鉢とした。外面に煤が付着する。146は内耳土器である。内面に把手部の痕跡が残る。外面に煤が付着し、口縁端部は面取りして平坦である。143～146は中世(15世紀以降)の遺物とみている。

[時期] 出土遺物から中世の遺構である。

遺構外出土遺物 (第54図、図版30)

6点を図示した。147は手捏土器である。148～150は土師器である。148は壺で口縁端部は上方につまみ上げ、体部外面には縦位の沈線の上から横位の沈線を施す。149は直口壺である。150は坏で、外面はヘラミガキする。内面は見込内まで放射状暗文を施し、見込み境は区画する。151は内耳土器で、外面に炭化物が付着する。152は陶器の甕である。口縁部の形状から14世紀代の常滑焼と考える。

TR8

調査範囲の最西端に位置する。トレンチ規模は14m×8.5mである。Ⅱ・Ⅲ層を剥いだⅥ層上面で遺構検出を行った。遺構検出面はほぼ平坦で、溝状遺構を4条検出した。

SD12 (第15・54図、図版10・31)

トレンチ北半部に位置する。切り合いではSD13より新しい。東西方向に走り、両端はトレンチ外に延びる。幅8.0m、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色砂ににぶい黄橙色細砂をマーブル状に含む水成堆積である。

[出土遺物] 5点の土師器を図示した。153は高環で、脚柱部の三方に透孔を施す。154は器台、155は鉢である。156は壺で、頸部に粘土紐を貼り付け、その上から刺突文を施す。157は甕である。外底面の外周を厚く盛り上げており、中央部は凹む。出土遺物はいずれも古墳時代に帰属するものだが、覆土と切り合いから中世の遺

構と推定する。

SD 13 (第15・54図、図版10・31)

トレンチ南側に位置する。切り合いではSD 12に先行し、SD 14より新しい。南東から北西方向へ走る溝状遺構で、両端はトレンチ外へ延びる。幅3.0m、深さ80cmを測る。断面形の形状は皿状を呈す。覆土は灰黄褐色細砂などを基調とし、粗砂や礫が混じる水成堆積である。土師器片が数点出土しており、1点を図示した。158は蓋で、内外面とも放射状にヘラミガキする。古墳時代の土師器も出土しているが、覆土から平安から中世の遺構と推定する。

SD 14 (第15・54図、図版10・31)

トレンチ南側に位置する。切り合いではSD 13に先行する。南東から北西方向へ走る溝状遺構で、両端と南肩はトレンチ外へ延びる。幅は不明で、深さは65cmを測る。断面形の形状は皿状を呈す。覆土は上層に褐灰色砂質シルト、中層に灰黄褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂が堆積する。上層・中層には細砂が混じる水成堆積である。土師器片がわずかに出土しており、1点を図示した。159は土師器の壺の底部で、体部外面はヘラミガキする。覆土から平安から中世の遺構と推定する。

SD 15 (第15・54図、図版31)

トレンチの北端部に位置する。切り合いではSD 12より新しい。東西方向に走る溝状遺構で、遺構の南肩のみ検出した。両端と北肩はトレンチ外へ延びる。幅は不明で、深さ40cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とする。出土遺物は土師器3点で、そのうち1点を図示した。160は丸底鉢の口縁部である。遺構の時期は覆土と切り合いから中世以降と推定する。

遺構外出土遺物 (第54図、図版31)

161は土師器の羽釜で、162が灰釉陶器の碗である。

TR 9

調査範囲の最北端に位置する。トレンチ規模は22m×21mである。遺構検出面としたVI層上面はほぼ平坦で、掘立柱建物1軒、土坑4基、Pitが35基、溝状遺構3条を検出した。Pitはトレンチの南半部に集中する。出土遺物がわずかでほとんどのPitの時期は不明だが、覆土や遺構外出土遺物から奈良・平安時代から中世に帰属する遺構の可能性はある。

SB 1 (第16図、図版12)

トレンチ南側に位置する。Pit10・12・15・18を柱穴とする1間×1間の掘立柱建物であった可能性がある。1間の長軸は3.0m、短軸が2.3mである。主軸方向はN-23°-Wである。Pit10・18からそれぞれ土師器小片が1点出土したが図示できない。詳細な時期は不明だが、覆土などから中世としておく。

SK 11 (第16・17図)

トレンチ北東部に位置する。切り合いではSD 16より新しい。平面形は楕円形を呈し、長径90cm、短径70cmで、深さは20cmを測る。覆土は灰黄褐色砂を基調とする。出土遺物は図示していないが、土師器製の破片が1点である。時期は不明である。

SK 12 (第16・17・55図、図版12・31)

トレンチ北東部に位置する。切り合いではSD 16より新しい。平面形は楕円形を呈し、長径106cm、短径84cm、深さ30cmを測る。覆土は灰黄褐色砂を基調とする。出土遺物は土師器の甕と高杯の破片がそれぞれ1点である。うち1点を図示した。163は土師器の高杯で、内外面へラミガキする。時期は不明である。

SK 13 (第16・17図)

トレンチ中央部に位置する。切り合いではSD 10に先行する。平面形は楕円形を呈し、長径2.4m、短径1.6m、

深さ 50cmを測る。覆土は上層に暗褐色砂、下層に黒色砂が堆積する。出土遺物は土師器片が7点出土したが図示できない。切り合いと覆土から中世以前の遺構と推定する。

SK 14 (第 16・17 図、図版 12)

トレンチ中央部に位置する。東側が攪乱されており、平面形の全容は不明だが、検出部分で幅 1.4m、深さ 45cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とし、地山の砂がマーブル状に混じる。土師器製の破片が少量出土したが図示できない。時期は不明である。

Pit 4 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 42cm、短径 30cm、深さ 50cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 5 (第 16・18 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 45cm、深さ 15cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。土師器片が2点出土したが、時期は不明である。

Pit 6 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 58cm、深さ 40cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。土師器片が3点出土したが、時期は不明である。

Pit 7 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 92cm、短径 70cm、深さ 40cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。柱痕が遺存するが、建物の柱穴となるか不明である。土師器の坏と甕の破片が計9点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit 8 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ南側に位置し、Pit 7に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長径 48cm、短径 40cm、深さ 34cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 9 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 35cm、深さ 28cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 10 (第 16・18 図)

トレンチ南側に位置する。SB1の柱穴と推定する。平面形は円形を呈し、径 55cm、深さ 50cmを測る。覆土は暗褐色砂にぶい黄褐色砂がブロック状に含まれている。出土遺物は土師器坏の小片1点である。詳細な時期は不明だが、覆土から中世としておきたい。

Pit 11 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 32cm、深さ 35cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 12 (第 16・18 図、図版 11)

トレンチ南側に位置する。SB1の柱穴と推定する。平面形は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 45cm、深さ 58cmを測る。覆土はぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物がなく詳細な時期は不明だが、覆土から中世としておきたい。

Pit 13 (第 16・18 図)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 46cm、短径 40cm、深さ 10cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 14 (第 16・18 図、図版 12)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 44cm、短径 36cm、深さ 30cmを測る。覆土は暗褐色

色砂を基調とする。柱痕が遺存する。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit15 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。SB1の柱穴と推定する。平面形は円形を呈し、径50cm、深さ44cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、詳細な時期は不明だが、覆土から中世としておく。

Pit16 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径60cm、短径54cm、深さ30cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。土師器の甕の破片が数点出土したが、時期は不明である。

Pit17 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径68cm、短径60cm、深さ24cmを測る。覆土は灰黄褐色砂である。Pit16・20との芯々距離は3.0mで、現場調査時に掘立柱建物を想定したが、北西部の柱穴となるPitは検出できなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit18 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。SB1の柱穴と推定する。平面形はやや不整形な楕円形を呈し、長径56cm、短径40cm、深さ62cmを測る。覆土は灰黄褐色砂を基調とし、締まりのゆるい柱痕とみられる部分が遺存する。土師器甕の小片が1点出土したが、詳細な時期は不明である。覆土から中世としておきたい。

Pit19 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は円形を呈し、径56cm、深さ30cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit20 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は円形を呈し、径52cm、深さ26cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit22 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は円形を呈し、径42cm、深さ68cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit23 (第16・19図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径80cm、短径66cm、深さ48cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物は土師器の坏・甕の小片が7点で、時期は不明である。

Pit24 (第16・19図)

トレンチ南側に位置する。平面形は円形を呈し、長径66cm、短径55cm、深さ26cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit25 (第16・20図)

トレンチ東側に位置する。SD16と重複するが、切り合い不明である。平面形は楕円形を呈し、長径50cm、短径32cm、深さ20cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit26 (第16・20図)

トレンチ東側に位置する。トレンチ外に延びており、全容は不明だが、径55cm、深さ45cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。土師器の甕の小片が1点出土したが、時期は不明である。

Pit27 (第16・20・55図、図版12・31)

トレンチ東側に位置する。SD16と重複するが、切り合い不明である。平面形は楕円形を呈し、長径50cm、短径40cm、深さ26cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。覆土上面で土師器の小形丸底壺と甕の破片が出土しており、そのうち164の小形丸底壺を図示した。内外面に密にヘラミガキを施した丁寧なつくりである。小形丸底壺の遺存状態が良く、古墳前期の遺構としておく。

Pit28 (第16・20図)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径56cm、短径46cm、深さ36cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物は、土師器の坏、甕、高環などの小片が計8点あるが、図示できない。時期は不明である。

Pit29 (第16・20図)

トレンチ南側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径50cm、短径40cm、深さ16cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit31 (第16・20図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径36cm、短径30cm、深さ32cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit32 (第16・20図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径60cm、深さ20cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物は土師器の甕の小片が2点である。時期は不明である。

Pit33 (第16・20図)

トレンチ西側に位置する。トレンチ外に延びるため全容は不明だが、円形を呈すと推測する。径30cm、深さ50cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit35 (第16・20図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径46cm、短径40cm、深さ16cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit36 (第16・20図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径50cm、短径40cm、深さ20cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とし、柱痕が遺存する。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit38 (第16・20図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径54cm、短径45cm、深さ26cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD 10 (第21・22・55図、図版12・13・31)

[位置・重複] トレンチの西側に位置する。切り合いではSK13・SD16より新しい。

[検出状況・覆土] 北から南方向へ直線的に走る溝状遺構である。幅7.0m、深さ50cmを測る。覆土は上層では灰黄褐色砂を基調とし、下層では粗砂や径1～10cmの礫が混入する水成堆積である。

[出土遺物] 出土遺物のうち16点を図示した。165～168は古墳時代の土師器である。165は高環で、残存部分では脚柱部に透孔はない。166は鉢で、外面はヘラケズリする。167は折り返し口縁の壺である。168は台付甕である。外面に炭化物が付着する。169・170は土師器の坏である。169の底部は台状にやや厚く、外底面には半円状のヘラ描きがある。171は土器の鍋である。172・173は灰釉陶器の皿である。174は青磁の碗で、高台皿付とその内側は無釉である。内面に劃花文を施す。龍泉窯系か。175～180は陶器である。175は鉢または皿、176は播鉢で口縁端部の内側をつまみ上げたものである。177は常滑の甕、178は瀬戸美濃の鉢か。179・180は播鉢で、それぞれ八条一単位の播目を施す。

[時期] 出土遺物から15世紀代まで存続した中世の遺構と推定する。

SD 11 (第21・22・55図、図版31)

トレンチの西側に位置する。北端は途切れて終わり、南端はトレンチ外へ延びる溝状遺構である。幅70cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色砂質シルトを基調とする。出土遺物のうち2点の土師器を図示した。181は有段口縁壺で、口縁外面に二条一対の粘土紐を貼り付ける。182は坏である。内外面へラミガキし、見込み

には放射状暗文を施す。底面には「×」の線刻がある。出土遺物には古墳時代と奈良・平安時代の遺物が混入するが、遺構外出土遺物とした 203 の高台環や 205 の須恵器の短頸壺蓋は SD 11 の上面で出土しており、奈良・平安時代の遺構としておきたい。

SD 16 (第 21・22・56 図、図版 13・31)

[位置・重複] トレンチの北側に位置する。切り合いでは SD 10 に先行する。東端部分で Pit25・27・30 と重複するが切り合い不明である。

[検出状況・覆土] 検出時の平面形は不明瞭であった。また、不整形であることから浅く窪地となっていた微地形を溝状に検出したものとする。東西方向に走り、両端はトレンチ外へ延びる。幅 7.5m、深さ 55cm を測る。覆土は褐色色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物] 10 点を図示した。183 は手捏土器で、内外面に指押さえた痕跡が残る。184～192 は古墳時代の土師器である。184 は高環で、脚柱部の三方に透孔を施す。185・186 は器台か。185 は環部の中位に透孔を三方に施し、口縁は大きく外反する。186 は小形だが、口縁部は短く内湾し器厚も厚い。187 は丸底鉢である。188・189 は有段口縁壺である。189 の口縁部下端には斜列点文を施す。190～192 は台付甕である。190 の口縁部の S 字は形骸化しており、体部の器壁もやや厚い。

[時期] 出土遺物の時期は概ね古墳時代前期におさまる。切り合いも SD 10 に先行するとしたが、覆土の様相は SD 10 に類似していた。SD 10 と同時期か、その少し以前に埋没したと推定する。

遺構外出土遺物 (第 56・57 図、図版 32)

14 点を図示した。193～202 は古墳時代の土師器である。193～195 は高環である。193 の口縁端部が欠損するが、短く外方に屈曲する。194 は脚裾部に四方の透孔を施す。195 は口縁部が大きく開く。196・197 は鉢である。196 は口縁端部が外方に短く屈曲する。197 は口縁端部に折り返しがみられる。198 は直口壺、199 は有段口縁壺である。200～202 は台付甕である。203 は土師器の高台環である。外面はヘラミガキし、内面は見込内まで放射状暗文を施し、見込境を区画する丁寧なつくりである。204 は土師器の羽釜の口縁部である。鈿部より下位に煤が付着する。205 は須恵器の短頸壺蓋で、漆附着土器である。つまみは欠損する。出土時点では内面の天井部全体に茶色被膜が遺存していた(巻頭図版 4)。整理作業の過程で被膜は剥落したが、その下の器面は滑らかな平滑面となっていた。被膜片を分析したところ漆であることが判明した(第 4 章第 1 節)。蓋を転用して漆パレットとして使用されたものとみられる。206 は陶器の鉦耳である。

TR 10

TR 9 の南側に位置する。トレンチ規模は幅 2m、総延長が 29m で、へんの字状に屈曲する。VI 層上面で、Pit 2 基、溝状遺構 3 条を検出した。

Pit 39 (第 23・24 図)

トレンチの南端部で Pit 40 に隣接する。平面形は円形を呈し、径 50cm、深さ 14cm を測る。覆土にはぶい黄褐色シルトを基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit 40 (第 23・24 図)

トレンチの南端部で Pit 39 に隣接する。平面形は円形を呈し、径 60cm、深さ 14cm を測る。覆土にはぶい黄褐色シルトを基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD 17 (第 23・24・57・58 図、図版 14・32)

[位置・重複] トレンチの南半部に位置する。切り合いでは SD 19 より新しい。

[検出状況・覆土] 東西方向に走り、両端はトレンチ外へ延びる。検出部分で幅 10m、深さ 1m を測る。覆土は灰白色の砂礫層や細砂が幾重にも重なる互層となっており、氾濫堆積とみられる。

〔出土遺物〕 比較的出土量が多く 27 点を図示した。207～221 は古墳時代の土師器である。207・208 は高坏で、207 は脚柱部の三方に透孔を施す。208 は透孔がないが赤彩されていたとみられる。209 は器台である。210・211 は鉢とした。210 は外面にハケを綾杉状に施し、浮文を貼り付け、さらに穿孔を加えている。211 は口縁端部を内側に折り返し、上方につまみ上げる。212 は有孔鉢で、底部中央を穿孔する。213 は小形丸底壺である。214～218 は壺である。215 は外面に櫛描き文と竹管文を施す。216 は有段口縁壺か。217 は底面に種子状の圧痕があり、218 は内外面を赤彩する。219・220 は台付甕である。220 の脚台部外面のハケは一定間隔に施されており、文様を意図したものか。裾部は内側に折り返す。221 は口縁部が大きく外反する甕である。222～226 は土師器である。222・223 は、盤状坏である。222 は外面下半にヘラケズリとヘラミガキを施し、内面もヘラミガキする。見込と外底面の両方に線刻がみられる。223 には内面には褐色の塗布物がみられる。224 は皿、225 は坏、226 は皿である。いずれもロクロナデ成形で、口縁部が短く直線的に立ち上がる器形である。227 は須恵器の長頸壺である。228 は土師器の羽釜で、銜部は欠損するがその接合痕が残る。229 は土器で脚付の鉢の脚部か。230・231 はフイゴ羽口である。230 の先端部には煤と溶融物が付着する。232・233 は鉄滓である。232 は碗形滓で、磁石に強く反応することから鉄分が多く遺存するものとみられる。

〔時期〕 出土遺物の時期は古墳前期、奈良時代、平安末から中世である。平安末から中世のある時期の氾濫により埋没したと推定する。

SD 19 (第 23・24 図)

トレンチの南端部に位置する。切り合いでは SD 17 に先行する。東西方向に走り、両端はトレンチ外へ延びる。検出部分で幅 4.3m、深さ 20cm を測る。覆土は褐色細砂を基調とする。出土遺物は土師器の小片が 8 点あるが、図示できない。時期は SD 17 に先行することから中世以前と推定する。

遺構外出土遺物 (第 58 図、図版 33)

2 点を図示した。234 は土師器の壺である。235 は青磁の碗で、外面に蓮弁文を施す。

TR 11

調査範囲の北側を総延長 120m にわたって横断するトレンチである。トレンチ幅は 2m で、張り出し部が 5 か所ある。竪穴建物または竪穴状遺構が 5 軒、不明遺構 1 基、土坑 5 基、Pit が 44 基、溝状遺構 9 条を検出した。トレンチ中央の地山面は黄褐色砂の安定した地盤となっており、そこに遺構が集中する。Pit もこの範囲で多く検出した。覆土は大きく分けて褐色細砂を基調とするものと、黒褐色砂を基調とするものがある。それぞれ中世と古墳時代に帰属するものと推定するが、出土遺物が少なく確定できない。またトレンチ幅が狭く、Pit が建物や柱穴列となるかは不明である。トレンチ全体にわたって、氾濫堆積を確認している。

S 13 (第 27 図、図版 15)

〔位置〕 トレンチ中央部に位置する。

〔検出状況・覆土〕 大部分がトレンチ外に延びるため平面形の全容は不明だが、北東隅部と北西隅部を検出した。検出部分の長軸は 2.6m で、深さ 26cm を測る。覆土は褐色細砂を基調とする。出土遺物がわずかで、焼土・炭化物や床面の痕跡もなく、竪穴状遺構としておく。底面で SK 15・16・20、Pit 62・67 を検出している。

〔出土遺物・時期〕 土師器甕の小片が 2 点出土したが、図示できない。時期は不明である。

S 14 (第 27・59 図、図版 15・33)

〔位置・重複〕 トレンチ中央部に位置する。

〔検出状況〕 大部分がトレンチ外に延びるため、平面形の全容は不明だが、北東隅部と北西隅部を検出した。検出部分の長軸は 2.7m で、深さ 22cm を測る。覆土は褐色細砂を基調とする。出土遺物は 1 点のみで、焼土・

炭化物や床面の痕跡もなく竪穴状遺構としておく。底面でPit58を検出している。

[出土遺物・時期] 出土遺物は1点である。236は土師器の環で、体部の調整はロクロナデのみである。

S15 (第25・28・59図、図版15・16・33)

[位置・重複] トレンチ中央部に位置する。切り合いではPit83に先行する。

[検出状況] 南側がトレンチ外へ延びていたためトレンチを拡張し、全体を検出した。平面形が隅丸方形の竪穴建物である。長軸3.3m、短軸2.8mで、深さ30cmを測る。焼土・炭化物をわずかに確認したが、炉・カマドの痕跡は検出できなかった。床面で検出したPit72・85は、覆土から建物より新しい時期と推測する。

[覆土] 上層は褐灰色砂、下層は黒褐色砂を基調とする。貼床や硬化面は確認できない。

[遺物出土状況] 建物北側の床面とみられる位置に集中して出土した。遺存状態が良好でほぼ原位置を保っていたと推定する。

[出土遺物] 図示した遺物は9点で、すべて古墳時代の土師器である。237・238は高環である。239～243は壺で、外面はヘラミガキする。239は有段口縁壺で、口縁部下端が下方に突き出す。内外面ともに丁寧にヘラミガキし、外面には二条の平行沈線を描く。244・245は甕で、外面はハケ調整である。遺存状態の良い壺・甕が出土する中で台付甕は破片も出土していないが、237～239の高環・壺の器形から古墳時代前期の遺物と考える。

[時期] 出土遺物から古墳時代前期と推定する。

S16 (第29・59図、図版16・17・33)

[位置・重複] トレンチ中央部に位置する。切り合いではSD33に先行する。

[検出状況・覆土] 北東隅部を検出した。トレンチ外へ延びるため平面形の全容は不明だが、隅丸方形の竪穴建物と推定する。規模は検出部分で長軸5.5m、短軸2.5m、深さ20cmを測る。南側で炭化物範囲を検出し、その周辺で硬化面を確認した。北側では礫が多く混入する土坑状の不明遺構SX1を検出している。竪穴の覆土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物] 土師器が少量出土している。そのうち3点を図示した。246は小形丸底鉢である。遺存状態が良く内外面ともヘラミガキする。247は壺で、口縁部が大きく外反する。248は台付甕の口縁部である。

[時期] 出土遺物から古墳時代前期と推定する。

S17 (第30図、図版17)

[位置・重複] トレンチ中央部に位置する。

[検出状況] トレンチ外に延びており平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は3.0mで、深さは30cmを測る。底面でSK19、Pit81・82を検出した。覆土は黒褐色砂を基調とする。焼土・炭化物や床面の痕跡もなく、竪穴状遺構としておく。

[出土遺物・時期] 出土遺物がなく、時期は不明である。

SX1 (第29・59図、図版16・33)

[位置・検出状況] S16の床面で検出した。建物の北東隅部に位置し、平面形は楕円形を呈す。長径1.5m、短径1.1m、深さ20cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とし、特に南半部では径5～10cmの礫を多量に含む。礫は川原石のような角の取れた石ばかりで、加工痕や被熱痕跡は確認できない。多くはないが一定量の遺物が混入しており、何らかの理由で意図的に礫を投棄した土坑と考える。

[出土遺物] 2点の土師器を図示した。249は壺、250は台付甕の口縁部である。

[時期] 検出状況からS16に帰属する遺構と考える。出土遺物からも古墳時代前期と推定する。

SK15 (第25・27図)

S13の底面で検出した。トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は60cmで、深さ26cmを測る。覆土は褐灰色砂である。出土遺物はなく、時期は不明である。

SK 16 (第 25・27 図)

S13の底面で検出した。トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は55cmで、深さ20cmを測る。覆土は褐灰色砂にぶい黄褐色砂を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

SK 17 (第 31 図)

トレンチ東側に位置する。トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は1.5mで、深さ50cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

SK 18 (第 31 図)

トレンチ東側に位置する。トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は2.0mで、深さ20cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

SK 19 (第 30 図)

S17の底面で検出した。トレンチ外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分の長軸は90cmで、深さ15cmを測る。覆土は黒褐色砂にぶい黄褐色砂が薄く層状に入る。出土遺物はなく、時期は不明である。

SK 20 (第 25・27 図)

S13の底面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長径70cm、短径30cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色砂である。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit42 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径45cm、短径40cm、深さ10cmを測る。覆土は灰黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit43 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径35cm、短径28cm、深さ10cmを測る。覆土はぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit44 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径34cm、短径28cm、深さ46cmを測る。覆土は上層に褐灰色砂質シルト、中層に灰黄褐色砂、下層に暗褐色砂質シルトが堆積し、下層は硬く締まる。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit45 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径30cm、短径22cm、深さ10cmを測る。覆土はぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit46 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径26cm、深さ6cmを測る。覆土はぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit47 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。一部トレンチ外に延びるが平面形は円形を呈すとみられる。径35cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物は土師器の小片が1点あるが図示できない。時期は不明である。

Pit48 (第 25・31 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径35cm、短径28cm、深さ10cmを測る。覆土はぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit49 (第 25・32 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径24cm、短径20cm、深さ5cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物粒を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit50 (第25・32図、図版17)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径30cm、短径26cm、深さ12cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit51 (第25・32図、図版17)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径30cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物粒を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit52 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径60cm、短径46cm、深さ8cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物粒を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit53 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径30cm、短径25cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物粒を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit54 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径25cm、深さ8cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit55 (第25・32図、図版17)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径35cm、短径28cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit56 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径50cm、短径42cm、深さ30cmを測る。覆土は上層ににぶい黄褐色砂、下層に暗褐色砂が堆積する。土師器片が1点出土したが、実測できない。時期は不明である。

Pit57 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径40cm、短径36cm、深さ34cmを測る。覆土は上層に褐灰色砂、下層に暗褐色砂が堆積する。土師器の甕の小片が1点出土した。時期は不明である。

Pit58 (第25・27図)

S14の底面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長径25cm、短径22cm、深さ15cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit59 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径47cm、深さ10cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。土師器の甕・壺などの小片が4点出土したが、実測できない。時期は不明である。

Pit60 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径36cm、短径30cm、深さ12cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。土師器の甕の小片が1点出土した。時期は不明である。

Pit61 (第25・32図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径60cm、短径52cm、深さ16cmを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。土師器甕などの小片が3点出土したが、実測できない。時期は不明である。

Pit62 (第25・27図)

S13の底面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長径34cm、短径15cm、深さ12cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit63 (第 25・32 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 44cm、短径 34cm、深さ 18cm を測る。覆土は上層に褐灰色砂、下層に暗褐色砂が堆積する。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit64 (第 25・32 図、図版 18)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 24cm、深さ 10cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit65 (第 25・32 図、図版 18)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 28cm、短径 24cm、深さ 8cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit66 (第 25・32 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 50cm、短径 36cm、深さ 16cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とする。土師器の坏の小片が 1 点出土した。時期は不明である。

Pit67 (第 25・27 図)

S13 の底面で検出した。平面形の全容は不明だが、検出部分で径 20cm、深さ 10cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit68 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 20cm、深さ 11cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit69 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 32cm、深さ 8cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。土師器の甕の小片が 1 点出土した。時期は不明である。

Pit70 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、長径 20cm、短径 16cm、深さ 8cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit71 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 52cm、短径 40cm、深さ 15cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit72 (第 28・59 図、図版 33)

S15 の床面で検出した。切り合いでは S15 より新しい。平面形は楕円形を呈し、長径 35cm、短径 30cm、深さ 30cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物は土師器 1 点である。251 は高環で、透孔を三方に施す。古墳時代の土師器が出土したが、切り合いと覆土から平安から中世の遺構と推定する。

Pit73 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 30cm、深さ 10cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit74 (第 25・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 25cm、短径 22cm、深さ 8cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit75 (第 25・28・33 図)

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径 20cm、深さ 11cm を測る。覆土は褐灰色砂を基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit76 (第26・33図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径42cm、短径36cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit77 (第26・33図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径38cm、短径32cm、深さ34cmを測る。覆土は上層に暗褐色砂、下層の黒褐色砂が堆積する。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit78 (第26・33図)

トレンチ東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径38cm、短径32cm、深さ14cmを測る。覆土は暗褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit79 (第30図)

トレンチ東側のS17の北側に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長径40cm、短径35cm、深さ14cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit80 (第30・33・59図、図版18・33)

トレンチ東側に位置する。平面形は円形を呈し、径74cm、深さ20cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。土師器が1点出土した。252は台付甕の脚台部である。台部分のみではあるが比較的遺存状態が良好であった点と覆土から、古墳時代前期の遺構と推定する。

Pit81 (第30図)

トレンチ東側のS17の底面で検出した。平面形の全容は不明だが、検出部分の長径は70cm、深さ40cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。性格不明だが、覆土からS17に属する遺構とみている。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit82 (第30図)

トレンチ東側のS17の底面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長径40cm、短径30cm、深さ30cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。性格不明だが、覆土からS17に属する遺構とみている。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit83 (第28・33図)

トレンチ中央部に位置する。S15と重複し、切り合いは確認できなかったが、覆土からS15より新しいと推定する。平面形の全容は不明だが、長径35cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色粘土質シルトを基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit84 (第28・33図)

S15の南側に位置する。平面形は円形を呈し、径30cm、深さ10cmを測る。覆土は褐灰色粘土質シルトを基調とし、炭化物を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit85 (第28図)

S15の底面で検出した。切り合いは確認できなかったが覆土からS15より新しいと推定している。平面形は円形を呈し、径20cm、深さ14cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD 27 (第35・60図、図版18・33・34)

[位置・重複] トレンチ西側に位置する。切り合いではSD 29・31より新しく、SD 32に先行する。

[検出状況・覆土] II層下で検出した。トレンチ内では遺構の北肩は検出できなかった。平面形の全容は不明だが、不整形に東西方向に範囲が広がっており、湾曲してトレンチ外に延びる。深さは40cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調として下層では粗砂や砂礫が堆積する氾濫堆積の様相を示す。遺物は全体的に散らばって一定量出土している。

[出土遺物] 26点を図示した。253は手握土器である。254～269は古墳時代の土師器である。254～258

は高環である。254は脚部の可能性もあるが、内面がヘラミガキされるため環部とした。口縁端部が膨らみ稜を持つ。258は脚柱部の透孔が二方に施されるが、孔の位置は正対しない。259は裝飾器台である。環部の下位に稜を持ち、透孔は環部で七方に施される。脚柱部でも1カ所の透孔を確認した。260は有孔鉢で、底面中央に孔を穿つ。261～265は壺である。261は口縁端部に櫛状工具による刻目と斜列点文を施し、頸部は鋸歯状にヘラミガキする。265の外底面には木葉痕が残るが、葉脈が2枚分みとめられる。266～269は台付甕である。266の肩部のハケ調整は縦位のみで、269の裾部には折り返しがある。270は土師器の皿である。内外面の調整はロクロナデのみで、底部は回転糸切り後、周辺部をヘラケズリする。271は土師器の羽釜である。272は灰軸陶器の環か。273～275は青磁の碗で、外面に蓮弁文を施す。276は土器の火鉢か。外面に渦巻き状の押印文様を施す。277は瓦質土器である。残存部に描目は確認できないが描鉢とみられる。278は砥石である。基底部を除く全面に使用痕がみとめられ磨り減っている。

〔時期〕古墳前期の遺物が多く出土したが、平安や中世の遺物も混入しており、中世段階の氾濫により埋没したと推定する。

SD 28 (第34・35図)

〔位置・重複〕トレンチ西側に位置する。切り合いではSD 30に先行する。また、トレンチの北壁土層の観察ではSD 29に先行する。

〔検出状況・覆土〕Ⅱ層下で検出した溝状遺構である。北東から南西方向にSD 29と併走し、両端はトレンチ外へ延びる。幅1.4mで、深さは40cmである。断面形状は皿状である。SD 29との併走間隔は芯々距離で1.5mである。覆土は黒褐色砂ににぶい黄褐色砂を含む。出土遺物はSD 29に比べると少ない。土師器の小片が7点あるが、図示できない。

〔時期〕SD 29と併走することから、古墳時代前期の同時期の遺構と推定する。

SD 29 (第34・35・61図、図版19・34)

〔位置・重複〕トレンチ西側に位置する。切り合いではSD 27に先行する。

〔検出状況・覆土〕Ⅱ層下で検出した溝状遺構である。北東から南西方向にSD 28と併走し、両端はトレンチ外へ延びる。幅1.2mで、深さは50cmを測る。断面形状は皿状である。覆土は黒褐色砂を基調とする。土器と入り混じって礫が混入する。

〔遺物出土状況〕底面部分を中心として、まとまった量の土器が礫と一緒に入り混じって出土した。礫が川原石のような丸みを帯びたものであるのに対し、土器はほとんどが破片資料だが、あまり摩耗していない。礫と土器が同時に投棄され、その状態のまま埋没したものと推定する。

〔出土遺物〕11点を図示した。すべて古墳時代のもので、279は手捏土器とした。不整形な器形で、口縁部と体部の接合痕が明瞭である。280～289は土師器で、280～282は高環である。280・281の脚柱部には規則的に三方の透孔が施されていたとみられるが、282は2カ所で不規則な配置となっている。283は鉢か。口縁部は厚みがあり、端部は平坦である。284は有孔鉢である。285・286は壺である。口縁部は大きく外反し、口縁端部は斜め上方につまみ出される。287・288は台付甕、289は甕である。

〔時期〕出土遺物から古墳時代前期の遺構である。

SD 30 (第34・35・61図、図版34)

〔位置・重複〕トレンチ西端部に位置する。切り合いではSD 28より新しい。

〔検出状況・覆土〕Ⅱ層下で検出した溝状遺構である。南北方向に走り、両端はトレンチ外へ延びる。東肩のみ検出したため平面規模は不明で、深さは50cmを測る。覆土は褐灰色砂を基調とする。上面は径20～50cmの礫が覆っており、人為的に埋め戻されている。

〔出土遺物・時期〕4点の土師器を図示した。290は小形丸底鉢である。291は台付甕、292・293は甕である。また図示していないが、瓦質土器とみられる小片も出土している。覆土と出土遺物から中世の遺構と推定する。

SD 31 (第 35・61・62 図、図版 18・34)

[位置・重複] トレンチ西側に位置する。切り合いでは SD 27・32 に先行する。

[検出状況・覆土] SD 27 の底面で検出した溝状遺構である。北東から南西方向に走り、両端はトレンチ外へ延びる。幅 60cm で、深さは 10cm を測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物] 9 点を図示した。294～296 は古墳時代の土師器である。294 は高坏である。295・296 は壺である。295 は口縁端部に櫛状工具で刻目と斜列点文を施す。頸部はヘラミガキする。297～299 は土師器の坏で、内外面の調整はロクロナデのみである。300 は土器である。残存部では描目はないが播鉢か。301・302 は瓦質土器の播鉢である。302 の内面には七条一単位の描目を施す。

[時期] 出土遺物から中世の遺構である。

SD 32 (第 36・62 図、図版 20・34)

[位置・重複] トレンチ中央部に位置する。切り合いでは SD 27・31 より新しい。

[検出状況・覆土] 南北方向に直線的に走り、トレンチ外に延びる。幅 2.1m、深さ 70cm を測る。断面形状は逆台形状で、人為的に掘削されたとみられる溝状遺構である。また覆土は上面全体を径 10～30cm の礫が覆う。その下にふい黄褐色砂、褐灰色粘土質シルト、褐灰色砂などがレンズ状に堆積する。水勢がある時期と淀んだ時期があり、最終的に礫で覆って人為的に埋め戻しを行ったと推定する。トレンチ内の近接する位置に建物と断定できる遺構はないが、溝の東側に Pit 群が広がっており、屋敷地の区画溝を想定しておきたい。

[出土遺物] 4 点を図示した。303 は古墳時代の土師器で甕である。304 は器種・部位不明の破片である。櫛描き波状文が二段施される。305 は土師器の羽釜で、鈎部は口縁端部に接近して位置し、張り出しは短い。306 は土器の播鉢で、描目は九条一単位である。

[時期] 出土遺物と覆土から中世の遺構である。

SD 33 (第 37・62 図、図版 20・35)

[位置・重複] トレンチ西側に位置する。切り合いでは S16 より新しい。

[検出状況・覆土] II 層下で検出した。東西方向に走る溝状遺構で、トレンチ外へ延びる。溝の方向や覆土の類似から、西側は SD 35、東側は SD 36 につながっていた可能性がある。底面から北肩にかけて検出しており、南肩はトレンチ外である。平面規模は不明で、深さは 25cm を測る。覆土は褐灰色砂に粗砂や砂礫が混入する氾濫堆積である。

[出土遺物・時期] 5 点を図示した。307 は古墳時代の土師器で台付甕である。肩部は縦ハケの上から横ハケが施される。308 は坏である。盤状坏に近い器形である。309 は柱状高台皿の高台部か。310 は須恵器の蓋である。311 は灰軸陶器の長頸壺である。出土遺物から中世に埋没した遺構である。

SD 34 (第 37・62 図、図版 20・35)

[位置] トレンチ東側に位置する。

[検出状況・覆土] I 層直下で検出した。南東から北西方向に走る溝状遺構で、トレンチ外へ延びる。覆土や溝の方向から、南東側は SD 35 へつながる可能性がある。幅 4.5m、深さは 50cm を測る。覆土は上層が灰黄褐色砂、下層は灰白色粗砂を基調とする砂礫層で、氾濫堆積である。

[出土遺物・時期] 5 点を図示した。312 は古墳時代の土師器の甕である。313 は土師器の高台坏、314 は柱状高台坏である。315 は青磁の碗で、外面に蓮弁文を施す。316 は土器の捏鉢である。口縁端部は外方につまみ出し、内面は横ハケする。出土遺物より中世に埋没した遺構である。

SD 35 (第 37・62 図、図版 20・35)

[位置] トレンチ東側に位置する。

[検出状況・覆土] II 層下で検出した。東西方向へ走る溝状遺構で、トレンチ外へ延びる。覆土や溝の方向から、西側は SD 34、東側は SD 33 につながっていた可能性がある。平面規模は不明だが深さ 70cm を測る。覆土の新旧で新しい部分を SD 35a、古い部分を SD 35b とした。SD 35b は平面形が不整形で、窪地状の微地

形を検出したと考える。SD 35aの覆土の上層は褐灰色砂、下層に灰白色砂を基調とする砂礫層で、氾濫堆積である。

[出土遺物・時期] 4点を図示した。すべて古墳時代の土師器である。317は丸底鉢である。内面のヘラミガキは格子目状に施される。318は有段口縁壺か。319は台付甕で、320は甕である。図示した出土遺物は古墳時代に帰属するが、覆土から中世に埋没した遺構と推定する。

SD 36 (第38図、図版21)

[位置] トレンチ東側の張り出し部分に位置する。

[検出状況・覆土] II層下で検出した。東西方向へ走る溝状遺構で、トレンチ外へ延びる。覆土や溝の方向から西側はSD 33、東側はSD 38につながっていた可能性がある。平面規模は不明だが、深さ1.1mを測る。覆土の新旧で新しい部分をSD 36a、古い部分をSD 36bとした。覆土はSD 36aの上層が灰黄褐色砂、中層と下層は黒褐色砂を基調とする。SD 36bは上層が暗褐色砂、下層に黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はほとんどなく、土師器の甕とみられる小片が1点である。覆土から中世に埋没した遺構と推定する。

SD 37 (第38・63図、図版21・35)

[位置] トレンチ東側に位置する。

[検出状況・覆土] I層直下で検出した。トレンチ内で屈曲しており、方向は不明である。幅2.5mで、深さ65cmを測る。覆土は褐灰色砂や灰白色粗砂を基調とする氾濫堆積である。

[出土遺物・時期] 1点図示した。321は軸受石とした。片面に煤が付着する。他に土師器の小片が3点出土したが図示できない。覆土から中世に埋没した遺構と推定する。

SD 38 (第38・63図、図版35)

[位置] トレンチ東端部に位置する。

[検出状況・覆土] II層下で検出した。東西方向に走るとみられ、トレンチ外に延びる。北肩部分のみ検出できたため、平面規模は不明で、深さは25cmを測る。溝の方向から西側はSD 36につながっていた可能性もあるが、覆土は礫を含む暗灰褐色砂を基調としており、やや様相が異なる。

[出土遺物・時期] 1点図示した。322は土器の鍋か。図示した他に土師器・須恵器・灰軸陶器とみられる小片が出土しており、中世に埋没した遺構である。

遺構外出土遺物 (第63図、図版35)

11点を図示した。323～328は土師器である。323～326は環で、内外面の成形はロクロナデのみである。327・328は甕である。327は口縁部が短く外反し、328は口縁部が大きく開いて鉢形となる器形である。329は土製品の碁石、330・331は石製品の碁石である。332・333は砥石である。332は上端と下端を除く全面で使用痕がある。333は一面に線状の刃物痕が残る。

TR 12

調査範囲全体のほぼ中央に位置する。トレンチ規模は8.0m×6.0mである。現況地盤から50cm下で氾濫堆積層を検出した。この氾濫堆積層を掘り下げて溝状遺構4条とPitを1基検出した。

Pit41 (第39・64図、図版22・35)

トレンチ中央に位置する。平面形は楕円形で、長径80cm、短径70cm、深さは20cmを測る。覆土は灰白色粗砂を基調とし、小礫を含む。氾濫によって埋没したと推定できる。出土遺物は土師器小片が2点と灰軸陶器1点で灰軸陶器を図示した。334は灰軸陶器の鉢である。出土遺物から平安から中世の遺構と推定する。

SD 21 (第 39 図、図版 22)

トレンチ南側に位置する。東西方向に走り短く終わる溝状遺構である。長軸 1.3m、短軸 30cm、深さ 10cm を測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はない。覆土から平安から中世の遺構と推定する。

SD 22 (第 39・64 図、図版 35)

トレンチ南側を東西方向に走る。南肩はトレンチ外のため、平面規模は不明である。平面形も不整形で、窪地状の微地形を検出した可能性が高い。覆土は灰黄褐色砂を基調とし、下層には径 5cm の礫を含む。出土遺物のうち 4 点を図示した。335・336 は古墳時代の土師器である。335 は高坏で、脚柱部に三方の透孔を施す。336 は台付甕である。337 は土師器の羽釜で、338 は灰軸陶器の碗である。覆土と出土遺物から平安から中世のある時期の氾濫で、短期間で埋没したと推定する。

SD 23 (第 39 図)

トレンチ北側を南西から北東方向に走る。幅 2.5m を測る。平面形は不整形で、窪地状の微地形を検出した可能性が高い。覆土は礫を含む灰白色粗砂である。出土遺物はないが、SD 22 と同じ氾濫で、短期間で埋没したと推定する。

SD 24 (第 39・64 図、図版 35)

トレンチ北東部に位置する。大部分がトレンチ外のため、平面形状や規模は不明である。深さは 65cm で、トレンチの北東部で谷状に急激に落ち込む。覆土はⅡ・Ⅲ層が底面形状に沿って入り込んでおり、氾濫以前に埋没したものとみられる。出土遺物の 2 点を図示した。339 は土師器の羽釜で、340 は灰軸陶器の碗である。出土遺物から平安から中世の遺構と推定する。

遺構外出土遺物 (第 64 図・図版 35)

2 点を図示した。341 は中世須恵器の鉢か。ロクロナデ成形で、口縁端部は上方につまみ上げる。342 は陶器の裏で常滑焼とみられる。

TR 13

調査範囲全体の中央部に位置する。トレンチ規模は 10.0m × 5.0m である。現況地盤から 50cm でトレンチ全体を覆う氾濫堆積層を検出しており、これを掘り下げて遺構検出を試みた。検出した遺構を SD 25 としたが、窪地状の微地形を検出した可能性が高い。氾濫堆積層は TR 12 で検出したものと同じと推測する。出土遺物はわずかでトレンチ全体で土師器の小片が 4 点で、図示できなかった。

SD 25 (第 40 図、図版 23)

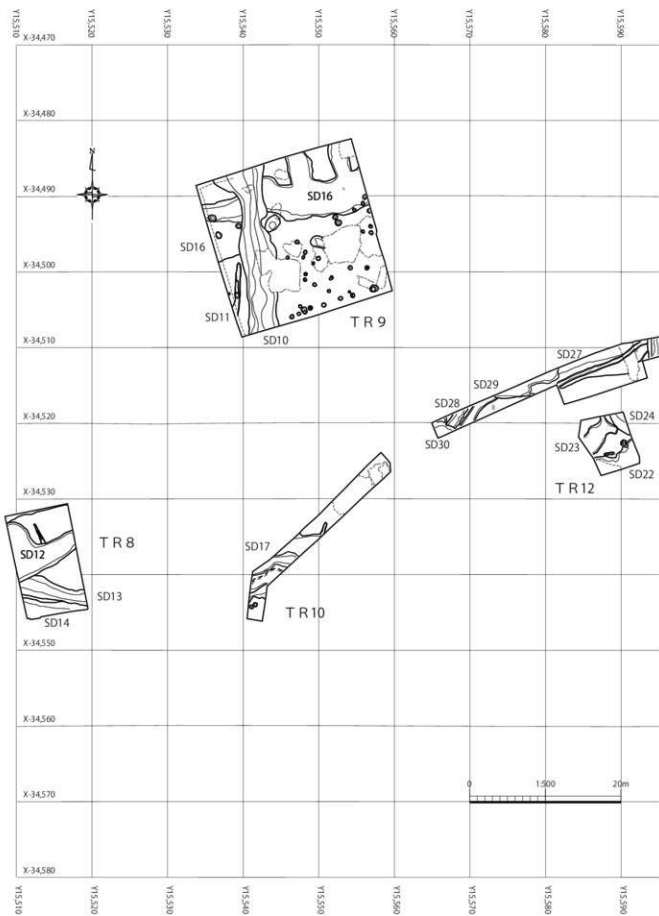
東西方向に走り、トレンチ外に延びる。幅 5.5m を測るが、平面形は不整形で、窪地状の微地形を検出した可能性が高い。覆土は灰黄褐色粗砂を基調とする砂礫層で、氾濫によって埋没したとみられる。出土遺物はないが中世に埋没したものと推定する。

TR 14

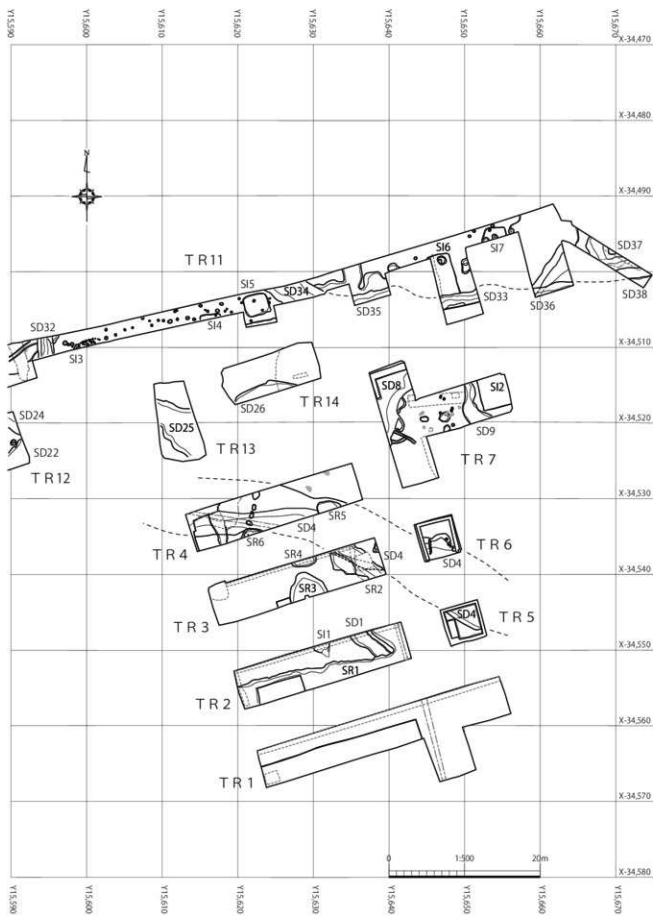
TR 13 の東側に位置する。トレンチ規模は 12.0m × 5.0m である。現況地盤から 60cm で、礫層の地山となった。トレンチの南側で氾濫堆積を検出し、これを SD 26 としている。トレンチ全体でも出土遺物はなかった。

SD 26 (第 41 図)

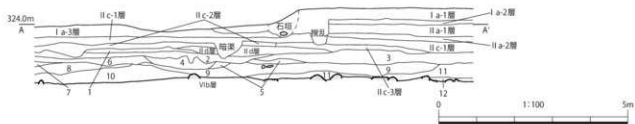
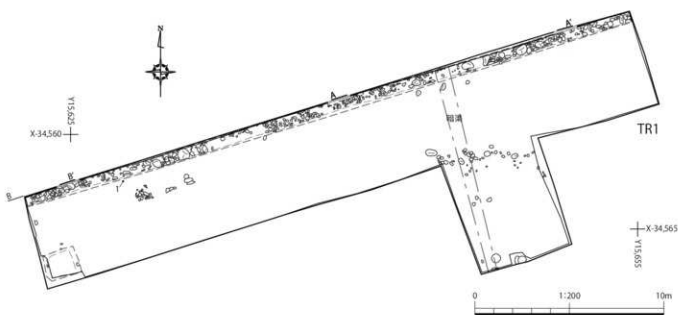
トレンチ南側を東西方向に走る。北肩のみ部分的に検出したため、平面規模は不明である。覆土は灰白色粗砂を基調とし、礫を含む。TR 12・13 などと同じ氾濫で埋没したものとみられ、時期は平安から中世と推定する。



第3図 遺構全体図(西半部)



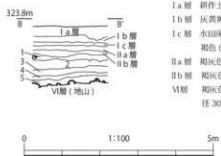
第4図 遺構全体図(東半部)



- Ia-1層 瓦研作土
 Ia-2層 水田床土 酸化鉄分多く含む
 Ia-3層 瓦研作土
 IIa-1層 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
 IIa-2層 水田床土 酸化鉄分多く含む
 IIc-1層 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
 IIc-2層 水田床土 酸化鉄分多く含む
 IIc-3層 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
 II d層 褐色(10YR4/1)粗砂
 ※I層：現代、II層：近世から近代
 Mb層 黄褐色(10YR5/6)粗砂
 径20～50cmの礫多く含む [地山]

1～12：水成堆積層

- 1 褐色(10YR4/1)砂質シルトに灰黄褐色(10YR5/2)砂を薄く互層状に30%含む
- 2 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
- 3 黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルトに灰黄褐色(10YR5/2)砂をマープル状に10%含む
- 4 灰白色(10YR7/1)粗砂に黄灰色(10YR4/1)砂を互層状に10%含む
- 5 黄灰色(10YR4/1)砂
- 6 褐色(10YR4/1)砂質シルトに灰黄褐色(10YR5/2)砂を10%含む
- 7 褐色(10YR4/1)砂質シルトに灰白色(10YR7/1)粗砂を互層状に30%含む 酸化鉄分5%含む
- 8 灰白色(10YR7/1)粗砂に褐色(10YR4/1)砂質シルトを薄く互層状に5%含む
- 9 黄灰色(2.5Y4/1)砂に灰白色(10YR7/1)粗砂を30%含む
径5～20cmの礫多量に含む 酸化鉄分多く含む
- 10 黄灰色(2.5Y4/1)砂に灰白色(10YR7/1)粗砂を互層状に30%含む
- 11 灰黄褐色(10YR6/2)砂
- 12 灰黄褐色(10YR5/2)砂

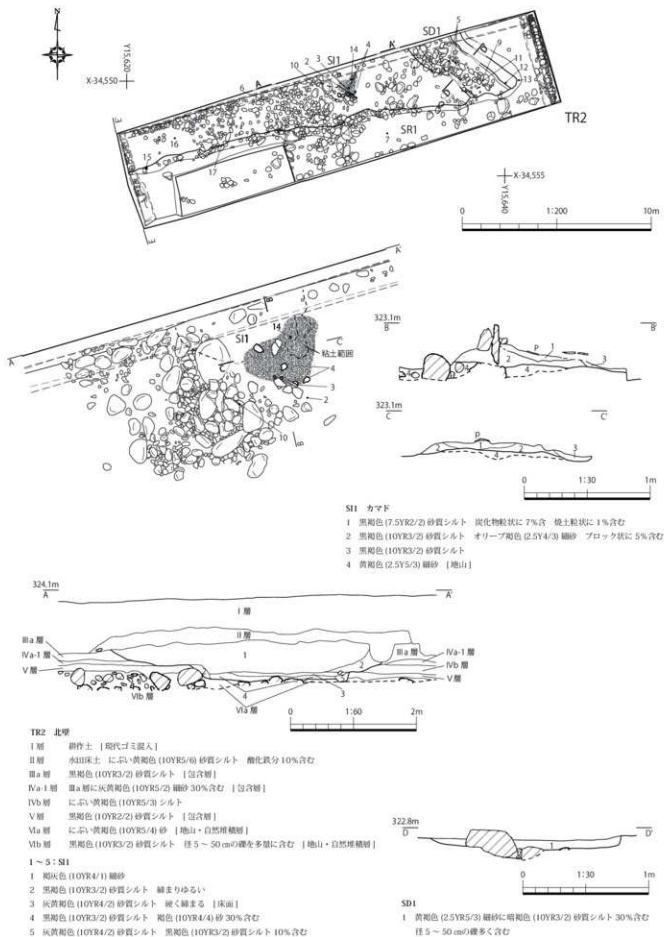


- Ia層 研作土 現代ゴミ混入
 Ib層 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
 Ic層 水田床土 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルトに褐色(10YR4/4)砂質シルト30%含む 酸化鉄分
 IIa層 褐色(10YR4/4)砂質シルト
 IIb層 褐色(10YR5/1)粗砂30%含む
 VI層 褐色(7.5YR4/1)粗砂
 径30～50cmの石多く含む 酸化鉄分多く含む [地山]

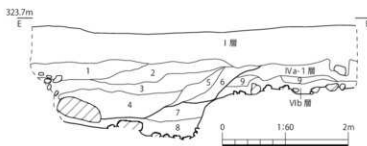
1～5：水成堆積層

- 1 褐色(10YR5/10)砂質シルトに褐色(10YR6/1)砂 薄く層状に10%含む
- 2 灰白色(10YR7/1)粗砂に褐色(10YR6/1)砂 薄く層状に10%含む
- 3 黄灰色(2.5Y4/1)砂に黄灰色(2.5Y5/1)砂 薄く層状に30%含む
- 4 黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト 黄灰色(2.5Y4/1)粗砂 薄く層状に30%含む
- 5 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂

第5図 TR1



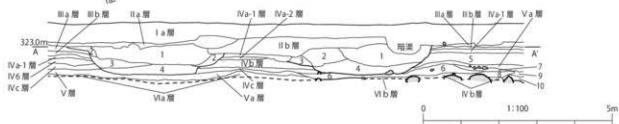
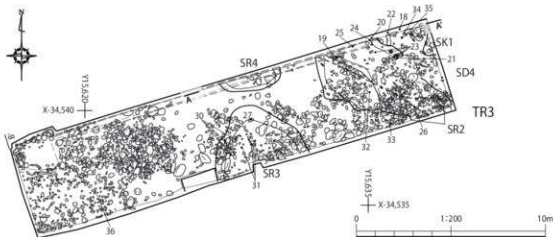
第6図 TR2(1)



TR2 西岸

1 ~ 6 : SR1 [水成堆積物]

- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
- 2 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂に1を30%含む
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
- 4 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂 酸化鉄分10%含む
- 5 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂30%含む
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂10%含む
- 7・8 : 1 ~ 6 以前の自然堆積物
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに黄褐色 (10YR5/6) 細砂マーブル状に10%含む
- 8 灰白色 (10YR7/1) 粗砂に灰黄褐色 (10YR5/2) 砂薄く層状に10%含む
- 9 黄褐色 (10YR5/6) 細砂にIva-1層を30%含む



TR3 北岸

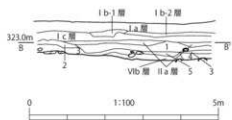
- Ia層 耕作土
- IIa層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質 酸化鉄分10%含む [水田床土]
- IIIa層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト
- IIIb層 褐色 (10YR4/6) 砂質シルト やや締まる
- Iva-1層 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに灰黄褐色 (10YR5/2) 砂30%含む
- Iva-2層 暗褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- Ivb層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルト
- Ivc層 褐色 (10YR4/6) シルト 遺物多く混入
- V層 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト
- Va層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト [地山]
- Vb層 褐色 (7.5YR4/3) 粗砂
- 径10 ~ 50 cmの礫多量に含む 酸化鉄分含む [地山]

1 ~ 4 : SR4・SR2

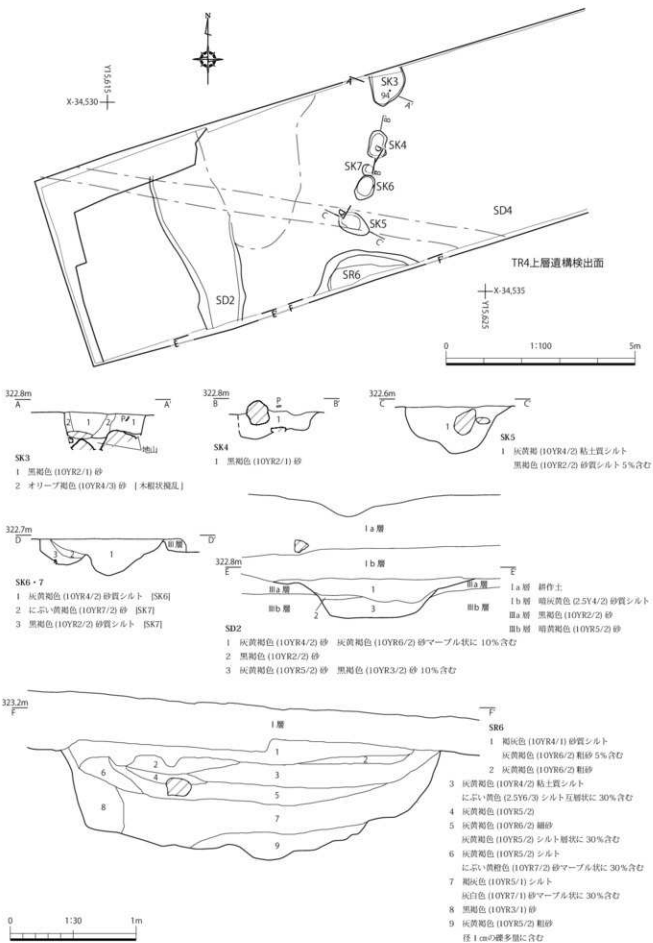
- 1 灰白色 (N8/) 粗砂 灰色 (N4/) 砂薄く互層状に10%含む
 - 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
 - 3 灰白色 (10YR7/1) 細砂 灰白色 (10YR8/1) 細砂を薄く互層状に30%含む
 - 4 灰白色 (N8/) 粗砂
- 径0.5 ~ 1 cmの小礫30%含む
- 5 灰白色 (2.5Y7/1) 砂
- 6 ~ 10 : SD4
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂 遺物多く混入
 - 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
 - 8 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
 - 9 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルトに黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂30%含む
 - 10 暗灰色 (10YR4/1) シルト

TR3 南岸

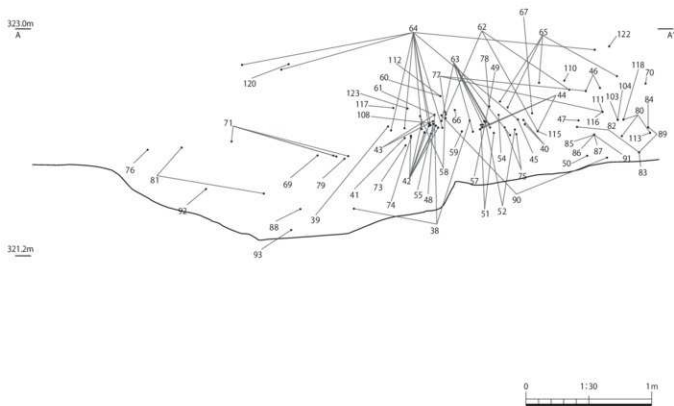
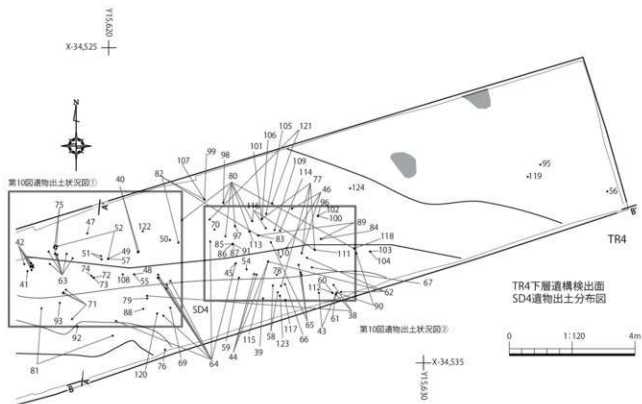
- Ia層 耕作土
- Ib-1層 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂 酸化鉄分5%含む [水田床土か]
- Ib-2層 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂質シルト 酸化鉄分5%含む [水田床土か]
- Ic層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト 現代ゴミ混入
- IIa層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト 酸化鉄分10%含む [水田床土]
- Vb層 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 径5 ~ 50 cmの礫を多量に含む [地山]
- 1 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
 - 2 灰白色 (10YR7/1) 粗砂 暗灰色 (10YR5/1) 砂30%含む
 - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
 - 5 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂



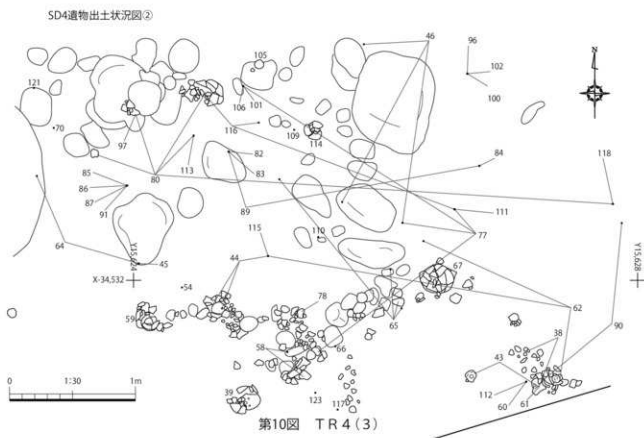
第7図 TR2(2)・TR3



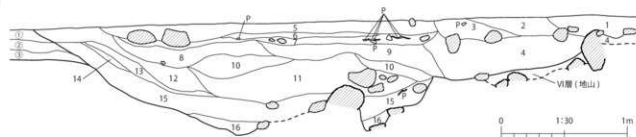
第8図 TR4(1)



第9図 TR4(2)



第10図 TR4(3)



- ① 灰色 (5Y6/1) シルト
 ② 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト
 ③ 黒褐色 (2.5Y4/1) シルト

SD4

- 1 褐色 (10YR4/6) 砂 径 5 ~ 50 cm 様多く含む
 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト
 3 2 に暗黄褐色 (2.5Y3/1) シルト 30% 含む
 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂
 5 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト
 6 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂
 7 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト 傘土層多量に含む
 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルトに灰黄色 (2.5Y7/2) 細砂 10% 含む
 9 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂

- 10 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂
 11 灰色 (5Y4/1) 粗砂 径 5 ~ 10 cm の礫 10% 含む
 12 浅黄色 (2.5Y7/3) シルト
 13 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
 14 暗黄褐色 (2.5Y5/2) シルト
 15 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂
 16 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 粗砂 径 5 ~ 10 cm の礫 30% 含む
 M層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂
 径 10 ~ 50 cm の礫多量含む 【地山】



- I層 耕作土
 Na層 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト
 Nb層 黒褐色 (10YR3/1) 砂
 Nc層 灰白色 (10YR7/1) 砂
 Nd層 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
 中遺物多く含む
 V層 黒色 (10YR2/1) シルト 【無遺物層】
 VI層 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 【地山】

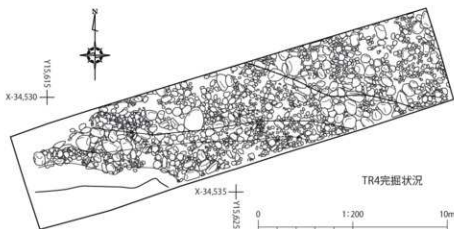
- 1 暗黄褐色 (2.5Y5/2) シルト
 2 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト
 3 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂
 3' にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂
 径 3 ~ 10 cm の礫含む
 4 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
 4' にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細砂
 5 黄褐色 (10YR5/2) シルト
 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3)
 径 3 ~ 10 cm の礫 30% 含む
 7 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂
 8 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂
 9 黄褐色 (10YR5/2) 粗砂

- 10 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂
 径 5 ~ 30 cm の礫 30% 含む
 11 灰黄褐色 (10YR6/2) 細砂
 12 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂
 13 暗褐色 (10YR5/3) 細砂
 14 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト
 15 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
 16 灰白色 (10YR7/1) 砂

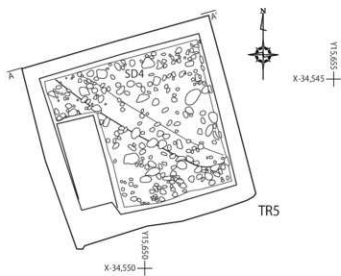
- 17 ~ 25 SR6
 17 灰褐色 (10YR4/1) 砂質シルト
 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂 5% 含む
 18 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂
 19 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト
 にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト互層状に 30% 含む
 20 灰黄褐色 (10YR5/2)
 灰黄褐色 (10YR6/2) 細砂
 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト層状に 30% 含む
 22 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト
 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂マーブル状に 30% 含む
 23 暗灰色 (10YR5/1) シルト
 灰白色 (10YR7/1) 砂マーブル状に 30% 含む
 24 黒褐色 (10YR3/1) 砂
 25 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂
 径 1 cm の礫多量に含む
 26 暗灰色 (10YR4/1) 砂
 27 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
 28 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂
 29 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト
 30 にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト

SD2

- 31 灰砂
 32 白砂に灰シルトマーブル
 33 木炭腐乱
 34 灰砂シルトに白砂マーブル 10% 含む
 35 黒粗砂

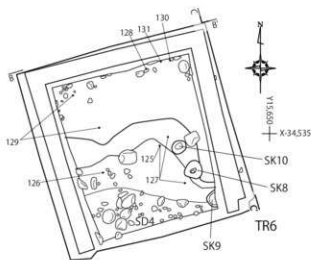
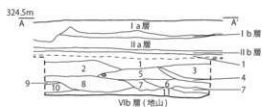


第11図 TR4(4)



- TR5 北壁**
- Ia層 現耕作土 現代ゴミ混入
 - Ib層 水田床土 酸化鉄分含む
 - IIa層 耕作土
 - IIb層 水田床土 酸化鉄分含む
 - Vb層 褐色(7.5YR4/3)粗砂 [地山]

- SD4**
- 1 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト
 - 2 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト
灰白色(2.5Y8/1)砂マール状に30%含む
 - 3 灰黄色(10YR6/2)砂質シルト
 - 4 灰黄色(10YR6/2)細砂
黄灰色(2.5Y5/1)細砂を薄く層状に5%含む
 - 5 黄灰色(10YR6/1)砂質シルト
灰黄色(10YR6/2)細砂マール状に10%含む
 - 6 灰黄色(10YR6/2)砂
黄灰色(2.5Y5/1)砂薄く層状に10%含む
 - 7 黄灰色(2.5Y4/1)粘土質シルト
 - 8 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂 黄灰色(2.5Y5/1)細砂薄く層状に10%含む
径5～10mmの礫層状に10%含む
 - 9 黄灰色(2.5Y4/1)粘土
 - 10 灰黄色(2.5Y6/2)砂に黄灰色(2.5Y5/1)細砂薄く層状に5%含む
 - 11 黄褐色(10YR5/6)粗砂 径5～10mmの礫30%含む

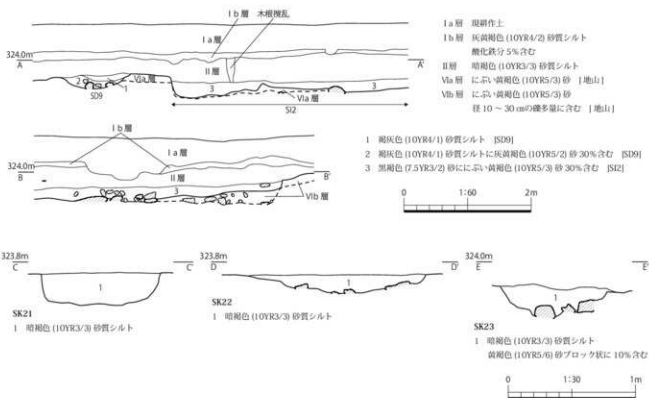
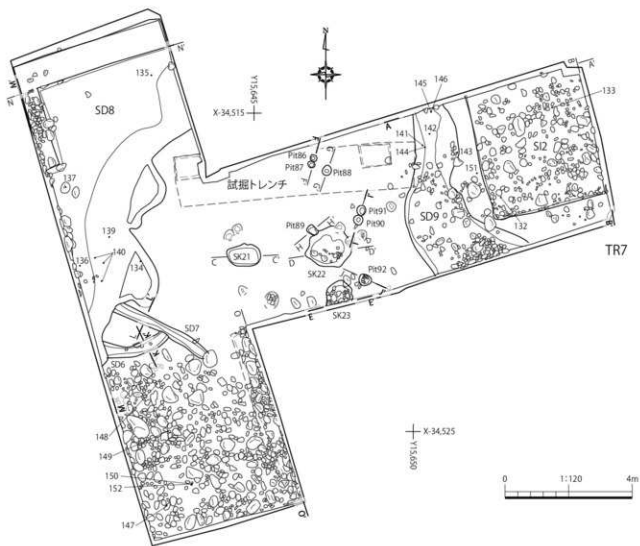


- TR6 北壁**
- Ia層 現耕作土
 - Ib層 褐色(10YR4/6)砂質シルト 酸化鉄分10%含む [水田床土]
 - IIa層 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト
 - IIb層 褐色(10YR4/6)砂質シルト 酸化鉄分10%含む [水田床土]
 - IIc層 灰・黄褐色(10YR5/3)砂
 - IIIa層 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト
 - IIIb層 灰・黄褐色(10YR6/4)細砂
 - IVa層 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
 - IVb層 灰黄褐色(10YR5/2)砂
 - V層 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 - VI層 褐色(7.5YR4/3)粗砂 [地山]

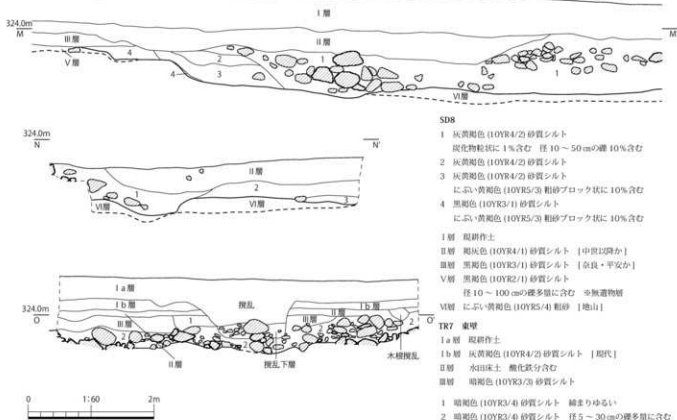
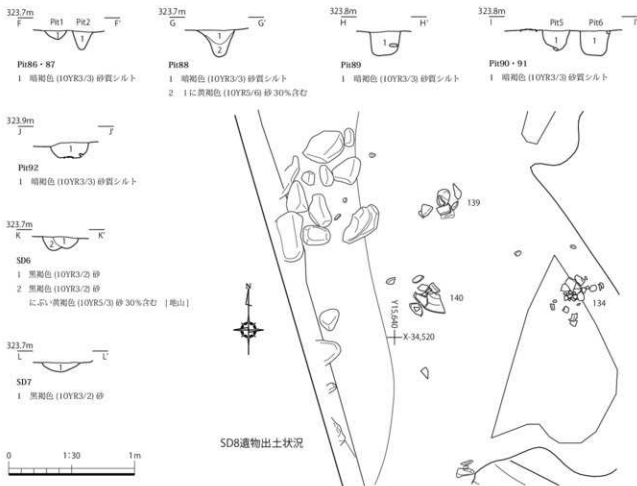
- SD4**
- 1 暗褐色(10YR3/4)シルト
 - 2 黒色(10YR2/1)砂質シルト
 - 3 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂
 - 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト



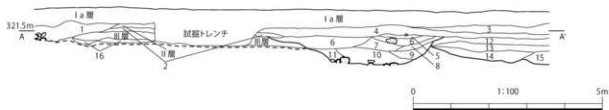
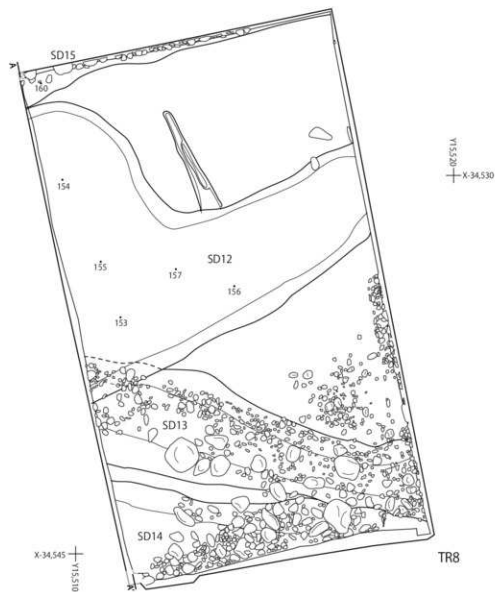
第12図 TR5・TR6



第13図 TR7(1)



第14図 TR7(2)



TR8

I a層 掘削作土

II層 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト

III層 灰黄褐色(10YR4/2)砂

IVa層 明黄褐色(10YR6/3)細砂

1 褐灰色(10YR5/1)砂 [SD15]

2 褐灰色(10YR5/1)砂に

にふい黄褐色(10YR7/2)細砂

マーブル状に30%含む [SD12]

3 褐灰色(10YR4/1)砂に

にふい黄褐色(10YR7/2)粗砂10%含む

4 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト

5 ~ 11 : SD13

5 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト 炭化物5%・焼土5%含む

6 褐灰色(10YR5/1)粘土質シルトににふい黄褐色(10YR7/2)砂3%含む

7 灰黄褐色(10YR4/2)細砂に灰黄褐色(10YR6/2)細砂マーブル状に30%含む

8 灰黄褐色(10YR6/2)細砂に灰白色(10YR7/1)粗砂30%含む

9 灰黄褐色(10YR5/2)細砂に灰黄褐色(10YR6/2)細砂薄く層状に5%含む

10 灰白色(10YR7/1)粗砂に灰黄褐色(10YR5/2)細砂層状に10% 径0.5~1cmの礫3%含む

11 灰黄褐色(10YR5/2)細砂

12 ~ 15 : SD14

12 褐灰色(10YR5/1)砂質シルトに灰白色(10YR7/1)細砂10%含む

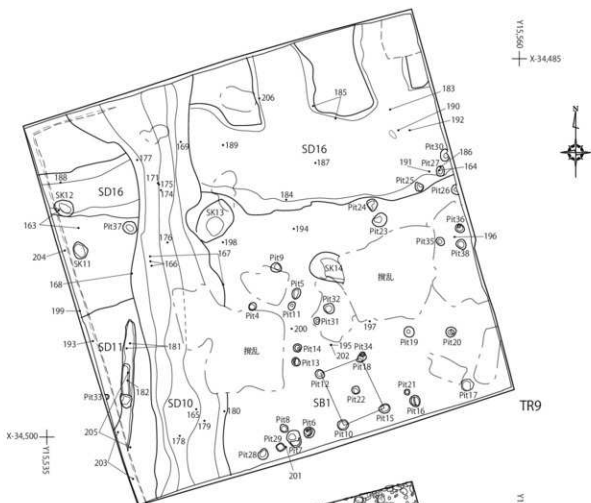
13 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルトに灰白色(10YR7/1)細砂マーブル状に5%含む

14 黒褐色(10YR3/2)砂

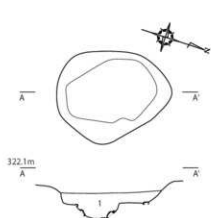
15 黒褐色(10YR3/3)粗砂 径0.5~1cmの礫30%含む

16 灰黄褐色(10YR4/2)砂に明黄褐色(10YR7/6)粗砂30%含む

第15図 TR8

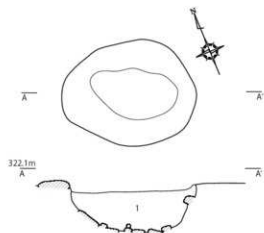


第16图 TR9(1)



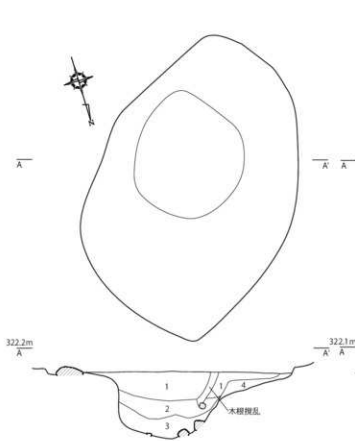
SK11

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂ブロック状に 10% 含む



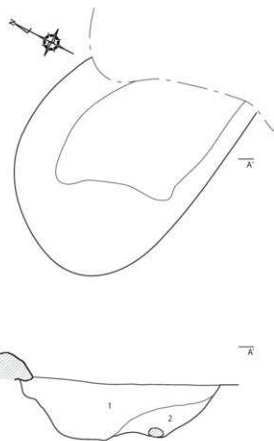
SK12

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂 10% 含む



SK13

- 1 暗褐色 (10YR3/2) 砂
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 締まりゆるい
3 黒色 (10YR2/1) 砂 締まりゆるい
4 暗褐色 (10YR3/3) 砂にふい黄褐色 (10YR5/4) 砂 30% 含む

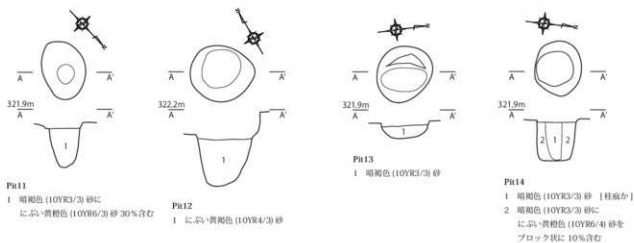
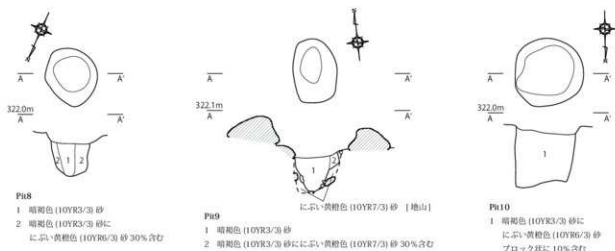
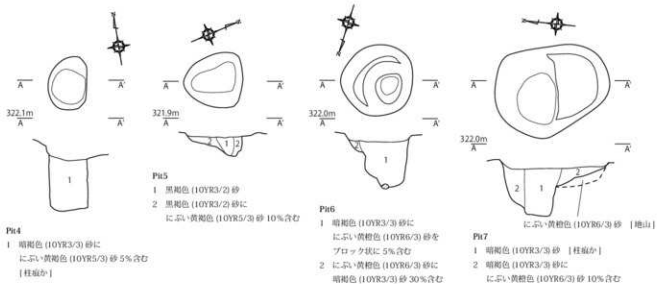


SK14

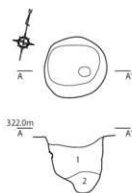
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
にふい黄褐色 (10YR5/4) 砂マーブル状に 10% 含む
黒褐色 (10YR3/1) 砂粒状に 3% 含む
2 にふい黄褐色 (10YR5/4) 砂
暗褐色 (10YR3/3) 砂 30% 含む



第17図 TR9(2)



第18図 TR9(3)



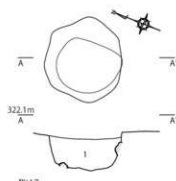
Pit 15

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR7/3) 砂 30%含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂



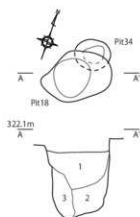
Pit 16

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂を
ブロック状に 5%含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂 30%含む



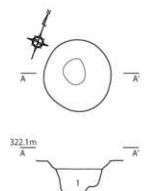
Pit 17

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂



Pit 18

- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂 30%含む
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
細まりゆい [柱痕か]



Pit 19

- 1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂に
にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂 10%含む



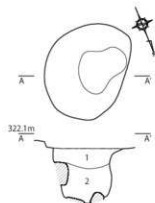
Pit 20

- 1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂に
にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂 3%含む



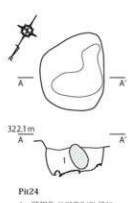
Pit 22

- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂に
灰黄褐色 (10YR4/2) 砂 10%含む



Pit 23

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 30%含む



Pit 24

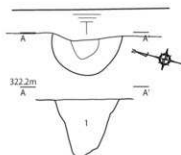
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 30%含む



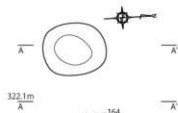
第19図 TR9(4)



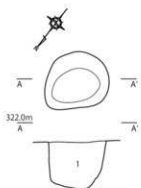
322.0m
A A
Pic25
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂



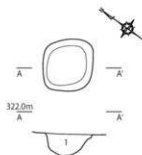
322.2m
A A
Pic26
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR6/3) 砂 10% 含む



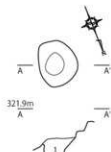
322.1m
A A
Pic27
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR6/3) 砂 30% 含む



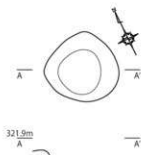
322.0m
A A
Pic28
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR6/3) 砂 10% 含む



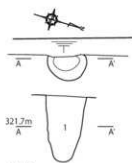
322.0m
A A
Pic29
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR6/3) 砂 30% 含む



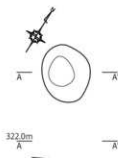
321.9m
A A
Pic31
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR6/3) 砂 10% 含む



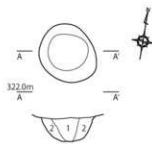
321.9m
A A
Pic32
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂



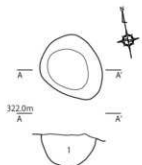
321.7m
A A
Pic33
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に
にふい・黄褐色 (10YR5/3) 砂 30% 含む



322.0m
A A
Pic35
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
2 にふい・黄褐色 (10YR6/4) 砂に
暗褐色 (10YR3/3) 砂 30% 含む



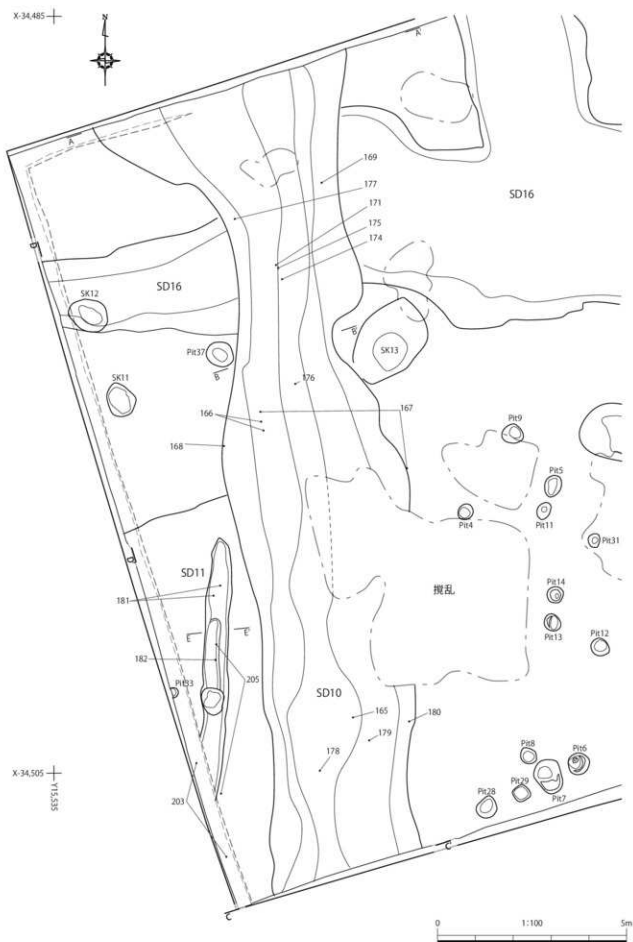
322.0m
A A
Pic36
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 [柱痕か]
2 にふい・黄褐色 (10YR6/4) 砂に
暗褐色 (10YR3/3) 砂ブロック状に 30% 含む



322.0m
A A
Pic38
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂



第20図 TR9(5)

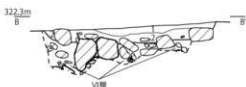


第21图 TR 9 (6)

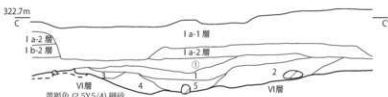


- Ia層 珪砂作土
 Ib-1層 造成土 硬く締まる
 II層 濃い黄褐色(10YR4/3)砂質シルト
 III層 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
 VI層 濃い黄褐色(10YR5/4)砂 径5～30cmの礫多く含む [地山]

- SD10
 1 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト
 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 30%含む

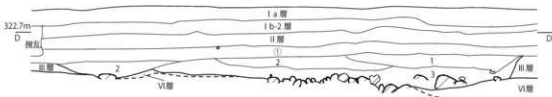


- SD10
 1 灰黄褐色(10YR5/2)細砂
 2 灰白色(10YR7/1)粗砂 径1～10cmの礫多量に含む
 VI層 濃い黄褐色(10YR5/4)砂質シルト
 径10～50cmの礫多量に含む



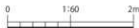
- Ia-1層 珪砂作土
 Ia-2層 珪砂作土
 Ib-2層 黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト 酸化鉄分10%含む
 ① 濃い黄褐色(10YR4/3)砂質シルト
 炭化物粒状に1%含む

- SD10
 1 灰黄褐色(10YR4/2)砂に
 灰白色(10YR7/2)粗砂層状に30%含む
 2 灰黄褐色(10YR4/2)砂に
 灰白色(10YR7/2)粗砂層状に30%含む
 径0.5～1cmの礫7%含む
 3 褐灰色(10YR6/1)粗砂
 4 黒褐色(10YR2/3)細砂
 5 褐色(10YR4/1)細砂

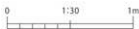


- Ia層 珪砂作土
 Ib-2層 黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト 酸化鉄分10%含む
 II層 褐灰色(10YR4/1)砂質シルト
 III層 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
 IV層 黄褐色(2.5Y5/4)細砂 [地山]
 VI層 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト

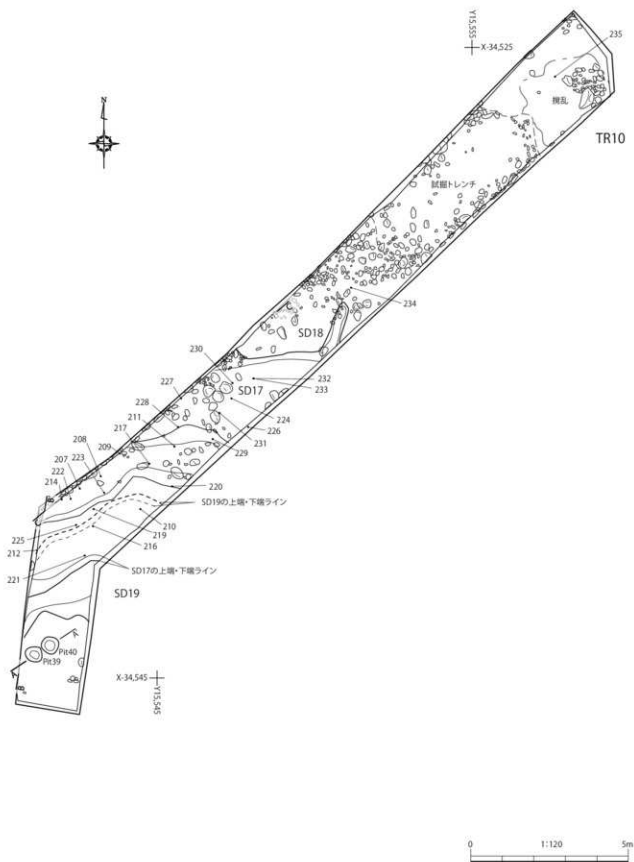
- SD16
 1 褐色(10YR4/1)砂質シルト
 2 褐色(10YR4/1)砂質シルトに
 褐色(10YR5/1)砂質シルト10%含む
 3 褐色(10YR5/1)砂質シルトに
 灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルト10%含む



- SD11
 I 褐色(10YR4/1)砂質シルトに
 濃い黄褐色(10YR4/3)砂質シルト30%含む



第22図 TR9(7)

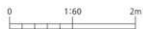
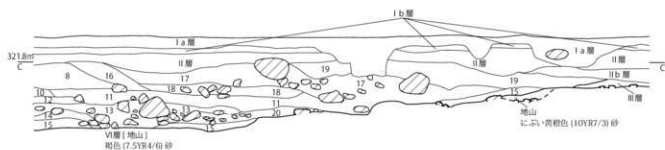
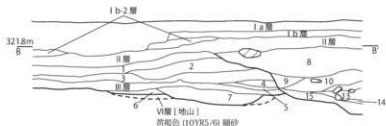


第23図 TR10(1)



Pit39・40

1 について黄褐色 (10YR5/4) シルトに
黒褐色 (10YR3/1) シルトブロック状に 30% 含む



- I a層 表土 耕作土
- I b層 褐色 (7.5YR6/4) 砂質シルト
酸化鉄分多く含む 硬く締まる [床土]
- I b-2層 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂 酸化鉄分 10% 含む
- II層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂 硬く締まる [中世包苜蓿]
- II b層 暗褐色 (10YR3/3) 砂
- III層 黒褐色 (10YR3/2) 細砂 [古墳包苜蓿]

- 1 褐灰色 (10YR5/1) 砂
- 2 褐灰色 (10YR5/1) 砂に灰白色 (10YR7/1) 砂 10% 含む
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
- 4 灰白色 (10YR7/1) 砂
- 5 について黄褐色 (10YR7/2) 砂

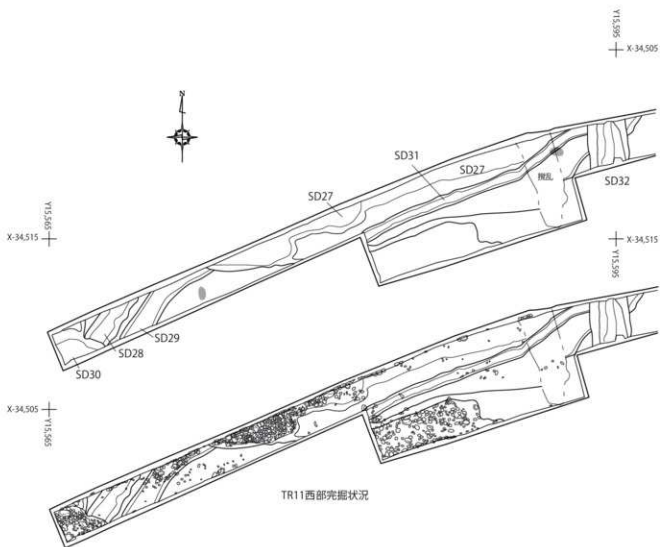
SD19

- 6 褐色 (10YR4/6) 細砂
- 7 黒色 (10YR2/1) 砂に
灰白色 (10YR7/1) 細砂薄く互層状に 30% 含む

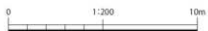
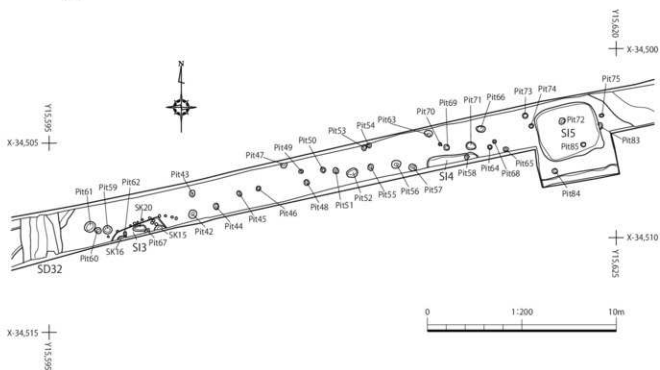
SD17

- 8 灰白色 (10YR8/1) 粗砂に
灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト薄く層状に 5% 含む
- 9 灰白色 (10YR8/1) 細砂
- 10 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂
径 0.5 ~ 1 cm の礫 30% 含む [砂礫層]
- 11 褐灰色 (10YR5/1) 細砂
- 12 褐灰色 (10YR4/1) 砂
- 13 浅黄褐色 (10YR8/3) 細砂
径 10 ~ 50 cm の礫 10% 含む
土層片比較的多く含む (主に古墳)
- 14 褐灰色 (10YR4/1) 細砂
- 15 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 16 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト
- 17 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
径 0.5 cm の礫
径 10 ~ 20 cm の礫 10% 含む [砂礫層]
- 18 褐灰色 (10YR6/1) 砂
径 20 cm の礫 5% 含む
- 19 について黄褐色 (10YR7/2) 砂に
褐灰色 (10YR6/1) 砂薄く層状に 10% 含む
- 20 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
径 0.5 ~ 10 cm の礫 30% 含む [砂礫層]

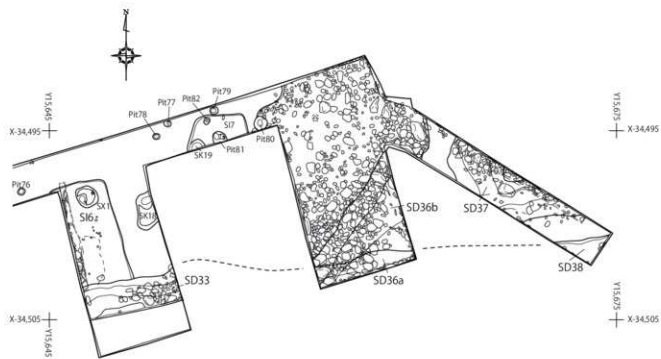
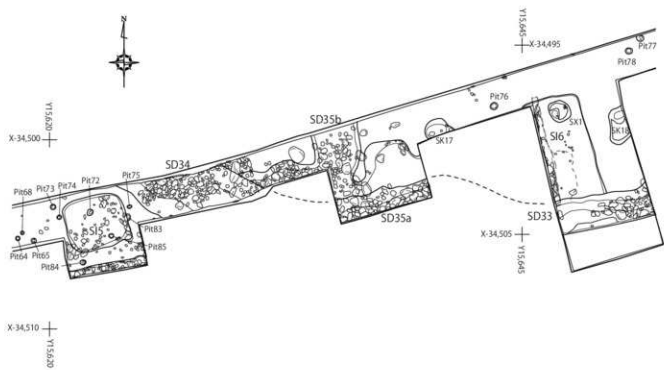
第24図 TR10(2)



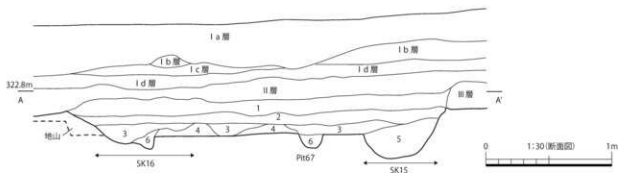
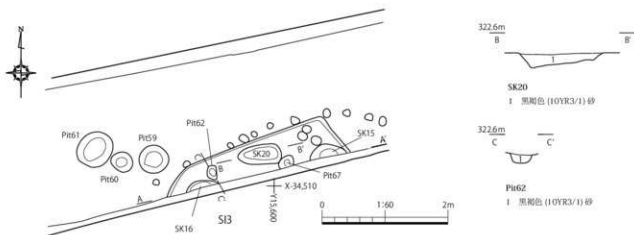
TR11西部发掘状况



第25图 TR11(1)



第26図 TR11(2)



I a 層 表土 耕作土

I b 層 赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルト

I c 層 褐色 (10YR6/1) 砂質シルト

I d 層 黄褐色 (10YR5/6) 砂 [水田床土]

II 層 褐色 (10YR5/1) 砂

III 層 炭化物較状に少量含む [平安末~中世包含層]

地山 黒褐色 (10YR3/2) 砂

赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂

SK13

1 褐色 (10YR4/1) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂 30% 含む

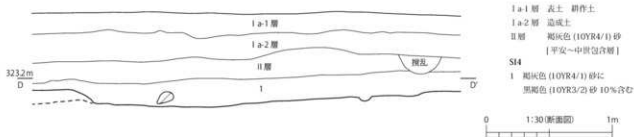
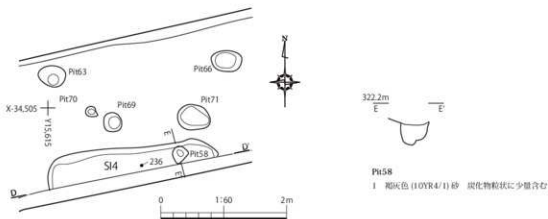
2 褐色 (10YR4/1) 砂に黒褐色 (10YR3/1) 砂 30% 含む

3 褐色 (10YR4/1) 砂に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂 30% 含む

4 赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂に褐色 (10YR4/1) 砂 10% 含む

5 褐色 (10YR5/1) 砂

6 褐色 (10YR5/1) 砂に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂 30% 含む



I a-1 層 表土 耕作土

I a-2 層 造成土

II 層 褐色 (10YR4/1) 砂

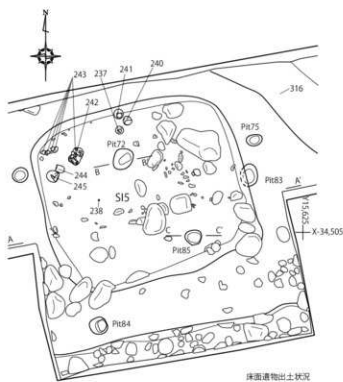
[平安末~中世包含層]

S14

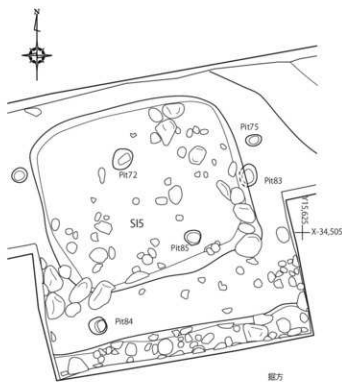
I 褐色 (10YR4/1) 砂に

黒褐色 (10YR3/2) 砂 10% 含む

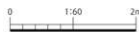
第27図 TR11(3)



平面遺物出土状況



縦方



I a-1層 表土 耕作土

I a-2層 造成土

II層 褐色(10YR4/1)砂 [平安~中世包含餅]

SIS

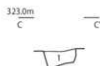
1 褐色(10YR4/1)砂に黒褐色(10YR3/2)砂30%含む

2 黒褐色(10YR3/2)砂



Pit72

1 褐色(10YR4/1)砂 炭化物粒状に少量含む

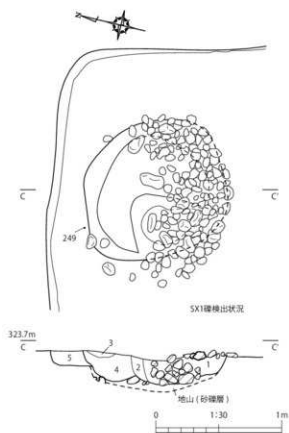
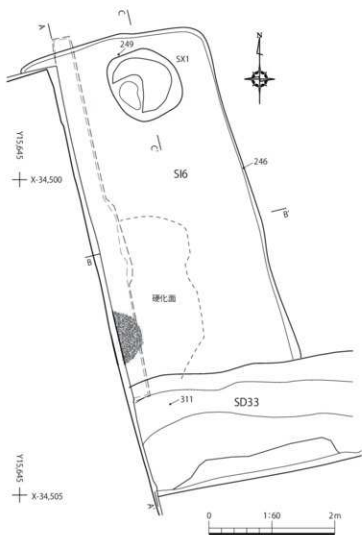


Pit85

1 褐色(10YR4/1)砂

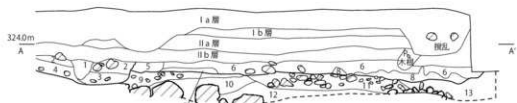


第28図 TR11(4)



SX1

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 ~ 10 cm の礫多量含む
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒灰色 (10YR4/1) 砂 30% 含む
- 3 腐乱
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂 30% 含む [S6 埋土]



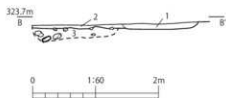
- I a 層 表土 耕作土
 I b 層 褐色 (7.5YR6/6) 砂 礫化鉄分多く含む | 水田床土 |
 II a 層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
 II b 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂

SD33

- 1 灰白色 (10YR7/1) 細砂に灰黄褐色 (10YR5/2) 砂を層状に 30% 含む
- 2 黒灰色 (10YR5/1) 砂
- 3 灰白色 (10YR7/1) 粗砂に黒灰色 (10YR5/1) 砂を層状に 10% 含む
- 4 黒灰色 (10YR5/1) 砂 径 0.5 cm の礫 1% 含む

S80

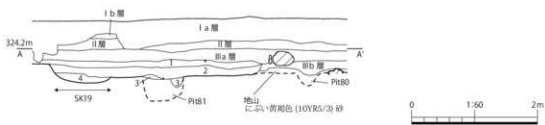
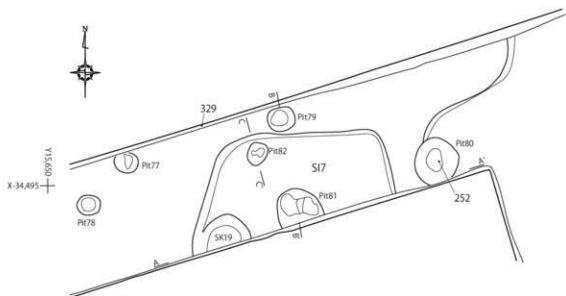
- 5 黒灰色 (10YR5/1) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂を 10% 含む
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物粒状に 1% 含む [炭化物層]
- 8 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂を 10% 含む
- 9 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 径 3 ~ 5 cm の礫 5% 含む [地山]
- 10 にぶい黄褐色 (10YR7/4) 砂 [地山]
- 11 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 径 1 ~ 20 cm の礫多量に含む [地山]
- 12 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粗砂 径 1 cm の礫 30% 含む [地山]
- 13 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 [地山]



S80

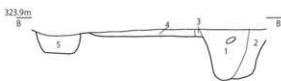
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂 30% 含む
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 3 灰白色 (10YR7/1) 粗砂 径 1 ~ 3 cm の礫 30% 含む [地山・砂礫層]

第29図 TR11(5)

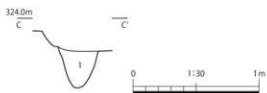


- 1a層 表土・耕作土
 1b層 黄褐色(10YR5/6)砂 [水田床土]
 1層 灰黄褐色(10YR5/2)砂
 2a層 黒褐色(10YR3/2)砂
 2b層 黒褐色(10YR2/3)砂

- SI7
 1 黒褐色(10YR3/1)砂
 2 黒褐色(10YR3/1)砂に灰黄褐色(10YR5/3)砂をブロック状に5%含む
 Pit81
 3 黒褐色(10YR3/1)砂に灰黄褐色(10YR5/3)砂10%含む
 SK19
 4 黒褐色(10YR3/1)砂に灰黄褐色(10YR5/3)砂を薄く層状に5%含む

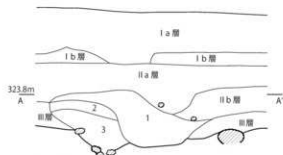
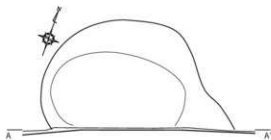


- Pit81
 1 黒褐色(10YR3/2)砂
 2 灰黄褐色(10YR5/3)砂に黒褐色(10YR3/2)砂10%含む
 SI7
 3 灰黄褐色(10YR5/3)砂のブロック
 4 暗褐色(10YR3/3)砂
 Pit79
 5 黒褐色(10YR3/2)砂

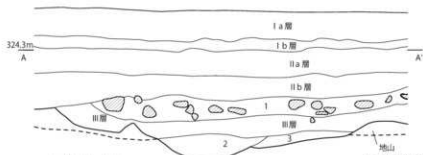
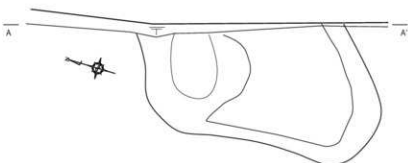


- Pit82
 1 黒褐色(10YR3/2)砂に灰黄褐色(10YR5/3)砂10%含む

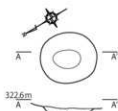
第30図 TR11(6)



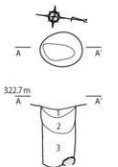
- Ia層 表土 耕作土
 Ib層 黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルト 酸化鉄分多く含む
 IIa層 褐色 (10YR4/1) 砂
 IIb層 黒褐色 (10YR3/2) 砂に褐色 (10YR4/1) 砂 30%含む
 III層 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- SK17
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
 2 褐色 (10YR4/1) 砂 木根残片含む
 3 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂 10% 径 10 cm の礫少量含む



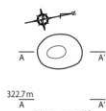
- Ia層 表土 耕作土
 Ib層 棕色 (7.5YR6/6) 砂 酸化鉄分多く含む [赤田床土]
 IIa層 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
 IIb層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
 III層 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 1 褐色 (10YR5/1) 砂 径 3 ~ 10 cm の礫 5% 含む [砂礫層]
 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂 [SK18]
 3 赤い黄褐色 (10YR4/3) 砂に黒褐色 (10YR3/1) 砂 30%含む [SK18]



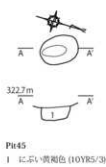
Pit42
 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂



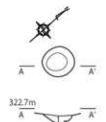
Pit44
 1 褐色 (10YR4/1) 砂質シルト
 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 硬く締まる



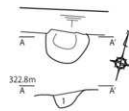
Pit43
 1 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂



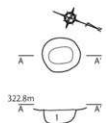
Pit45
 1 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂



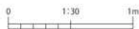
Pit46
 1 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂



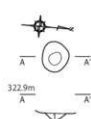
Pit47
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に
 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂 30%含む



Pit48
 1 赤い黄褐色 (10YR5/3) 砂

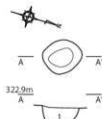


第31図 TR11(7)



Pit49

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂
炭化物粒状に少量含む



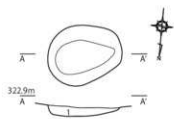
Pit50

- 1 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂



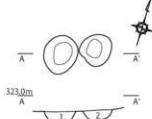
Pit51

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂
炭化物粒状に少量含む



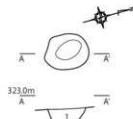
Pit52

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



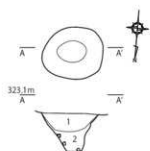
Pit53・54

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む
2 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂



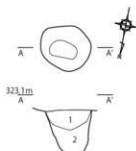
Pit55

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



Pit56

- 1 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂



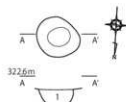
Pit57

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂



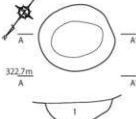
Pit59

- 1 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂



Pit60

- 1 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂



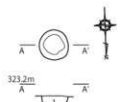
Pit61

- 1 に赤い・黄褐色 (10YR5/3) 砂



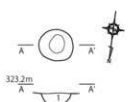
Pit63

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 締まりゆるい
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂



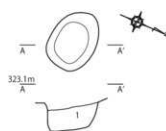
Pit64

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物少量含む



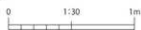
Pit65

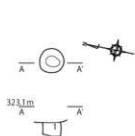
- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物少量含む



Pit66

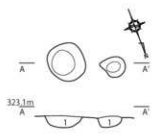
- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂





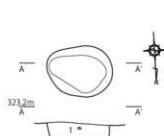
Ph68

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物少量含む



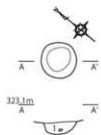
Ph69・70

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物少量含む



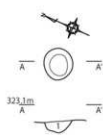
Ph71

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



Ph73

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



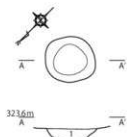
Ph74

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



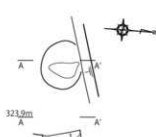
Ph75

1 潮灰色 (10YR4/1) 砂 炭化物粒状に少量含む



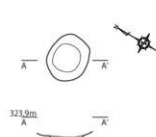
Ph76

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂に
にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂ブロック状に 30%含む



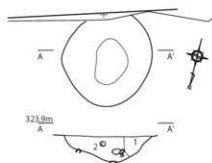
Ph77

1 暗褐色 (10YR3/4) 砂
2 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂のブロック
3 黒褐色 (10YR2/2) 砂



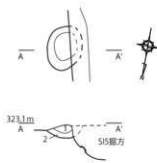
Ph78

1 暗褐色 (10YR3/4) 砂



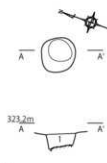
Ph80

1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂に
黒褐色 (10YR3/2) 砂 30%含む
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂



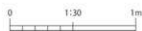
Ph83

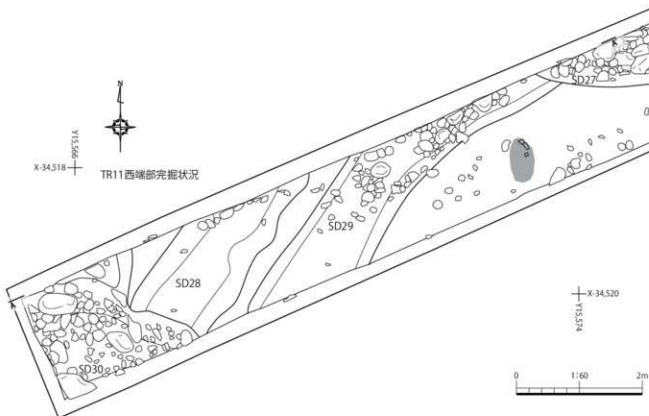
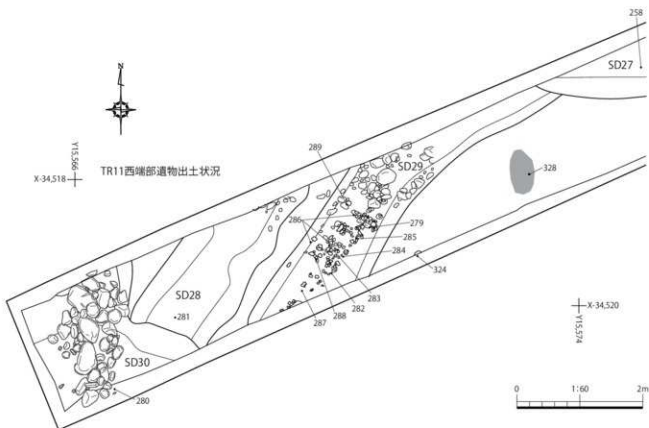
1 潮灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト 炭化物少量含む
2 潮灰色 (10YR4/1) 粘土質シルトに
にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂 30%含む



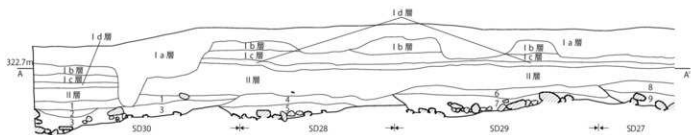
Ph84

1 潮灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト 炭化物少量含む





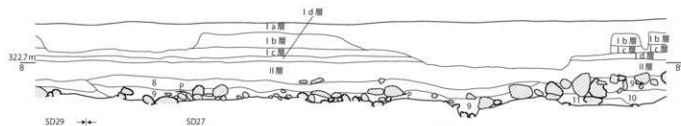
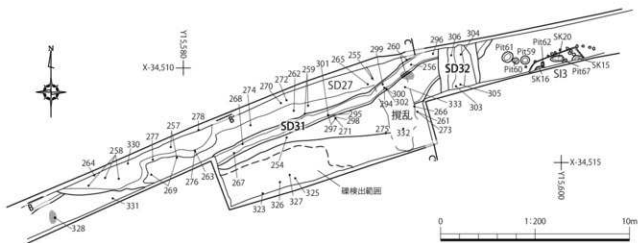
第34図 TR11(10)



- Ia層 表土 耕作土
 Ib層 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト
 Ic層 暗灰色(10YR6/1)砂質シルト
 Id層 黄褐色(10YR5/6)砂 [水田床土]
 II層 暗灰色(10YR5/1)砂 炭化物粒状に少量含む [平安末～中世包含層]
 III層

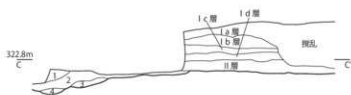
TR11 史跡

- 1 暗灰色(10YR4/1)砂 [SD30 中世か]
- 2 暗灰色(10YR5/1)粘土 [SD30 中世か]
- 3 暗灰色(10YR4/1)砂 径3～10cmの礫10%含む [SD30 中世か]
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂ににぶい黄褐色(10YR5/3)砂10%含む [SD28 古墳]
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂ににぶい黄褐色(10YR5/3)砂30%含む
 底面に径10～30cmの礫多量に含む 礫上に土層片多量 [SD28 古墳]
- 6 黒褐色(10YR2/2)砂に暗褐色(10YR3/3)砂10%含む [SD29 古墳]
- 7 黒褐色(10YR2/2)砂ににぶい黄褐色(10YR5/3)砂30%含む [SD29 古墳]
- 8 暗灰色(10YR6/1)砂
- 9 暗灰色(10YR6/1)砂 径0.5～3cmの砂礫30%含む



SD27

- 8 暗灰色(10YR6/1)砂
- 9 暗灰色(10YR6/1)砂 径0.5～3cmの砂礫30%含む
- 10 灰白色(10YR7/1)粗砂
- 11 暗褐色(10YR3/4)粗砂

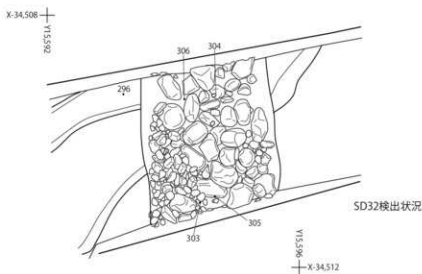


- Ia層 表土 耕作土
 Ib層 にぶい黄褐色(10YR6/3)砂質シルト [造成土か]
 Ic層 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 [耕作土]
 Id層 明褐色(7.5YR5/6)砂 炭化物粒分多く含む [水田床土]
 II層 灰黄褐色(10YR4/2)砂

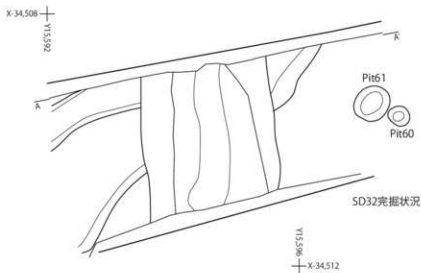
SD27

- 1 暗灰色(10YR4/1)砂質シルト 縦く縞まる 粘土・炭化物粒状に3%含む
- 2 黒褐色(10YR2/2)砂
- 3 暗褐色(10YR3/2)砂ににぶい黄褐色(10YR5/3)砂30%含む
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂ににぶい黄褐色(10YR5/3)砂30%含む

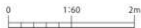
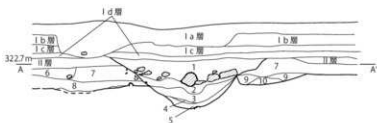
第35図 TR11(11)



SD32検出状況



SD32発掘状況

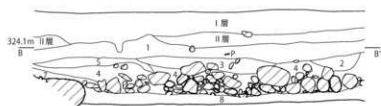
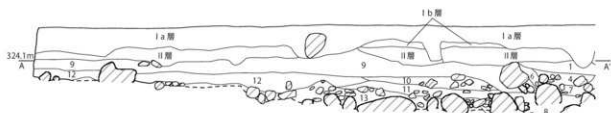
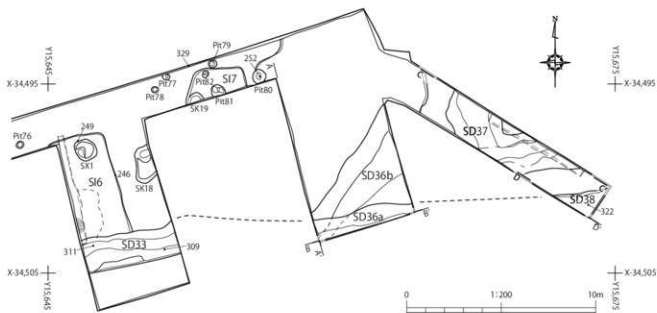


- I a層 表土 耕作土
 I b層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルト
 I c層 期灰色 (10YR6/1) 砂質シルト
 I d層 黄褐色 (10YR5/6) 砂 [水田床土]
 II層 期灰色 (10YR5/1) 砂 炭化物粒状に少量含む [平安末~中世包含層]

SD32

- 1 期灰色 (10YR5/1) 砂 炭化物・焼土粒状に1%含む
下位に径10~30cmの礫多量に含む [投擲か]
- 2 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂
- 3 期灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト 酸化鉄分5%含む
- 4 褐色 (10YR4/4) 砂
- 5 期灰色 (10YR4/1) 砂
- 6 期灰色 (10YR5/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒状に3%含む 硬く締まる
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂 [SD27]
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径3~5cmの礫5%含む [SD31]
- 9 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂30%含む [SD27]
- 10 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂30%含む [SD27]

第36図 T R11 (12)



- 地山
に赤い黄褐色(10YR5/4)砂 硬く締まる
- Ia層 表土 耕作土
Ib層 褐色(7.5YR6/6)砂
II層 潮灰色(10YR5/1)砂

SD36

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)砂
- 2 潮褐色(10YR3/3)砂
- 3 潮灰色(10YR5/1)砂
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂 径10~50cmの礫多量含む
- 5 潮灰色(10YR4/1)砂
- 6 赤い黄褐色(10YR6/3)砂
- 7 黒褐色(10YR3/1)砂 径5~10cmの礫30%含む
- 8 黒褐色(10YR2/2)砂
- 9 潮褐色(10YR3/4)砂
- 10 赤い黄褐色(10YR5/4)粗砂 径5~10cmの礫7%含む
- 11 黒褐色(10YR3/2)砂
- 12 黒褐色(10YR3/2)砂に赤い黄褐色(10YR5/3)砂30%含む
- 13 赤い黄褐色(10YR5/4)粗砂 径1~100cmの礫多量含む [地山]



- Ia層 表土 耕作土
Ib層 明黄褐色(10YR6/6)砂 [水田床土]
Ic層 潮灰黄色(2.5Y4/2)砂
II層 潮灰色(10YR4/1)砂
III層 潮褐色(10YR3/3)砂

SD37 此埋

- 1 潮灰色(10YR4/1)砂 径1~10cmの礫10%含む
- 2 灰白色(10YR7/1)粗砂 径10~30cmの礫5%含む
- 3 灰白色(10YR7/1)粗砂 [SD37]
- 4 黄褐色(10YR5/6)砂 [地山]
- 5 灰黄褐色(10YR5/2)砂 径5~30cmの礫多量含む [地山]



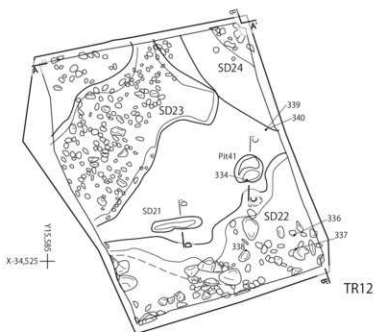
- I層 表土 耕作土
II層 灰黄褐色(10YR5/2)砂
III層 黒褐色(10YR3/2)砂

SD38

- 1 潮灰黄色(2.5Y4/2)砂 径1~10cmの礫30%含む 締まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂に赤い黄褐色(10YR5/3)砂のブロック含む



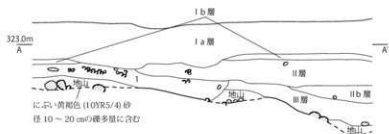
第38図 TR11(14)



Y-15,114
X-34,520

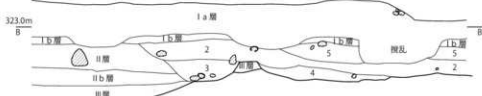
Y-15,114
X-34,525

TR12



- I a層 凝結作土
I b層 赤い赤褐色 (5YR4/6) 砂 炭化成分多く含む [床土]
II層 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト
II b層 赤い黄褐色 (10YR6/4) 砂 硬く締まる
III層 暗褐色 (10YR3/3) 砂

- SD23
1 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
径 1 ~ 5 cmの礫 30%含む [泥炭堆積層]



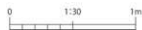
- SD22
2 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂に灰白色 (10YR7/1) 砂 10%含む
3 灰白色 (10YR5/1) 砂
4 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂 径 5 cmの礫 7%含む
5 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂に灰白色 (10YR7/1) 砂を層状に 30%含む



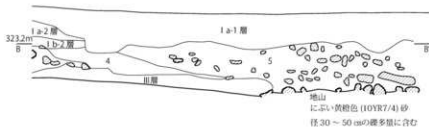
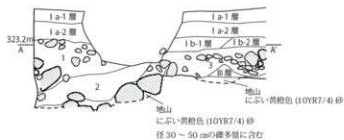
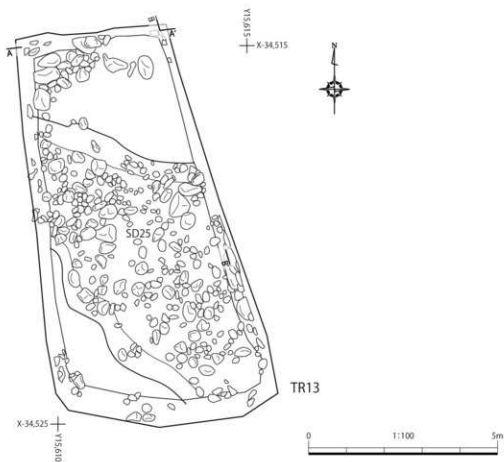
- Pit 41
1 灰白色 (10YR7/1) 粗砂
径 3 ~ 5 cmの礫 5%含む



- SD21
1 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト



第39図 TR12



1a-1層 表土 耕作土

1a-2層 耕作土

1b-1層 灰黄褐色 (10YR8/2) 砂 酸化鉄分7%含む 径1~3cmの礫3%含む

1b-2層 明黄褐色 (10YR6/6) 砂 酸化鉄分10%含む

Ⅲ層 暗褐色 (10YR3/3) 砂 ※無遺物

SD25

1 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂 径0.5~20cmの礫30%含む [砂礫層]

2 灰白色 (2.5Y8/1) 粗砂 礫まじりゆるい [砂層]

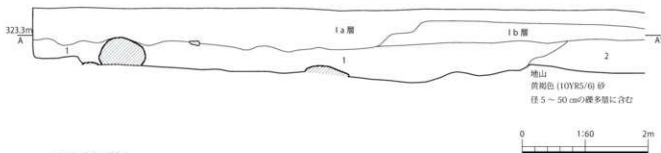
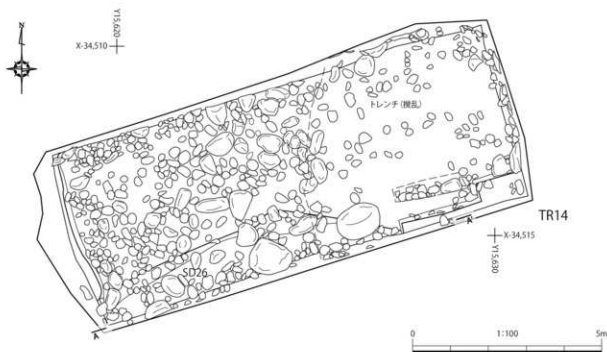
3 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂 径10~30cmの礫10%含む [砂礫層]

4 にふい・黄褐色 (10YR7/2) 砂 [砂層]

5 にふい・黄褐色 (10YR7/2) 粗砂 径1~5cmの礫多量に含む [砂礫層]

1~5 泥炭堆積層 ※無遺物

第40図 TR13



1a層 表土 耕作土

1b層 黄褐色 (10YR5/6) 砂 酸化鉄分多く含む [水田床土]

SD26

1 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂 径1~3cmの礫20%含む

2 暗褐色 (10YR3/4) 粗砂 径10~20cmの礫10%含む 締まりゆるい

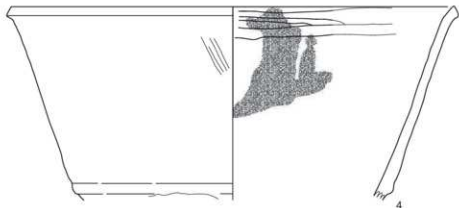
第41図 TR14

TR 1

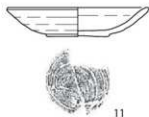
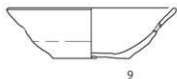
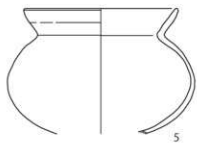


TR 2

S11

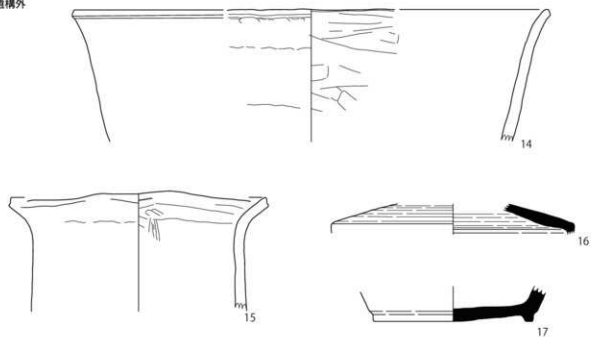


遺構外

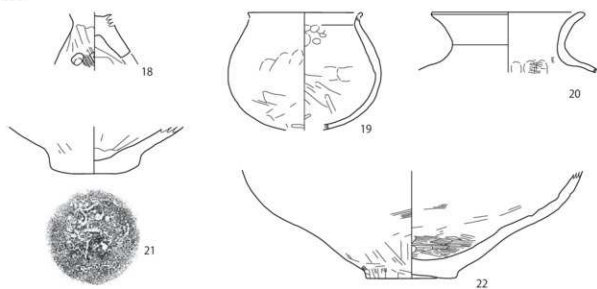


第42図 TR1・TR2(1)出土遺物

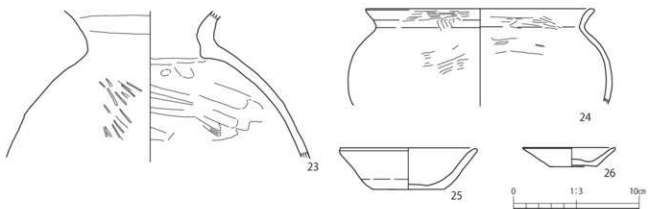
TR 2
遺構外



TR 3
SD4

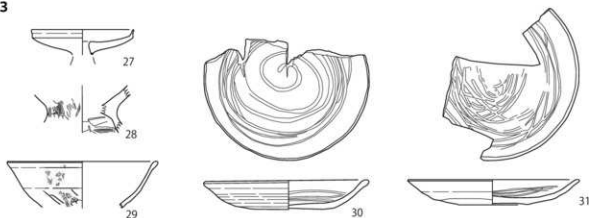


SR2

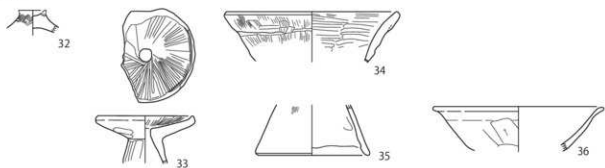


第 43 図 TR 2 (2)・TR 3 (1) 出土遺物

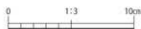
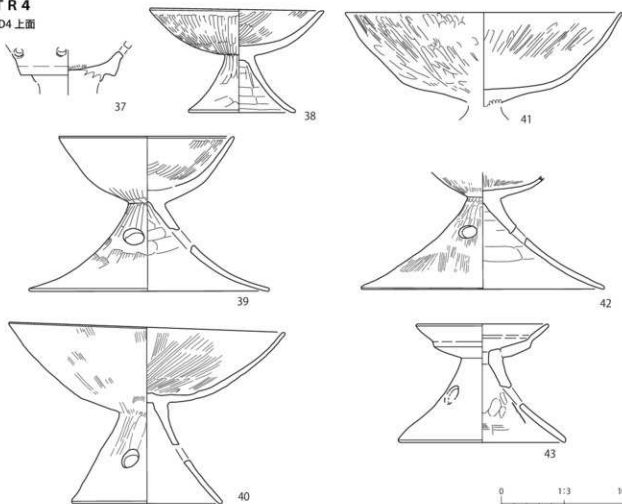
TR 3
SR3



遺構外



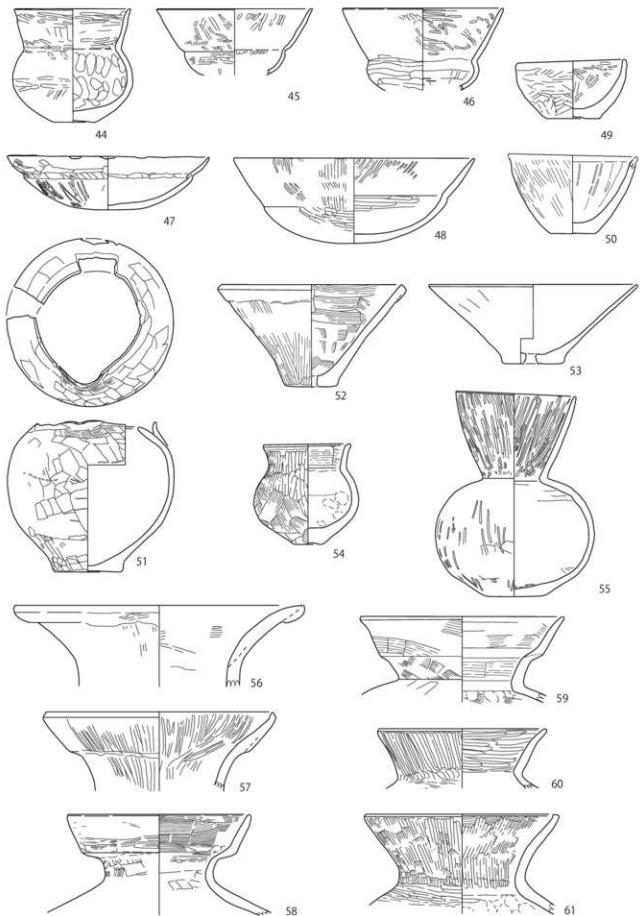
TR 4
SD4 上面



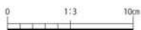
第44圖 TR 3 (2)・TR 4 (1) 出土遺物

TR 4

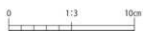
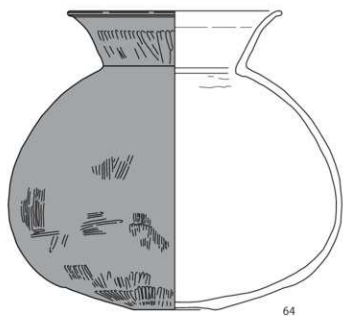
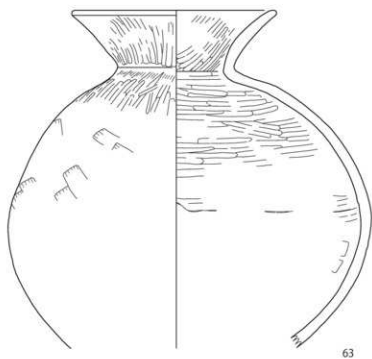
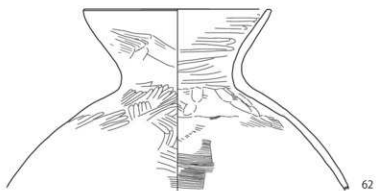
SD4 上面



第45图 TR 4 (2) 出土遗物

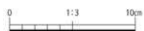
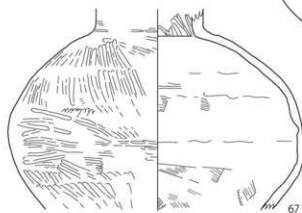
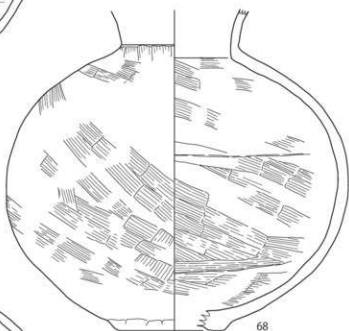
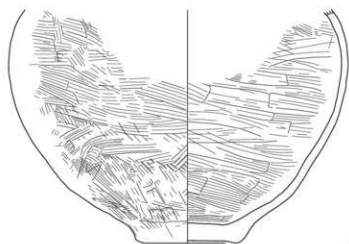
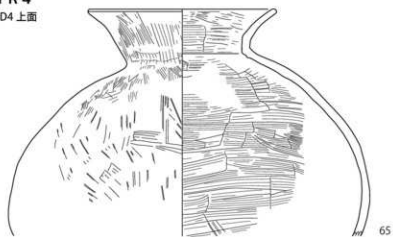


TR4
SD4上面



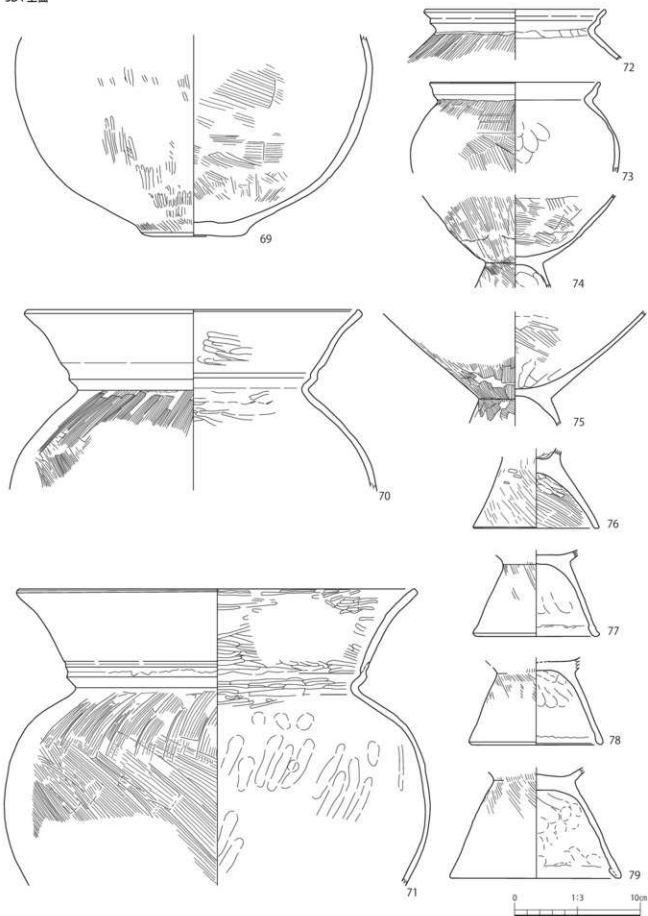
第46図 TR4 (3) 出土遺物

TR4
SD4上面



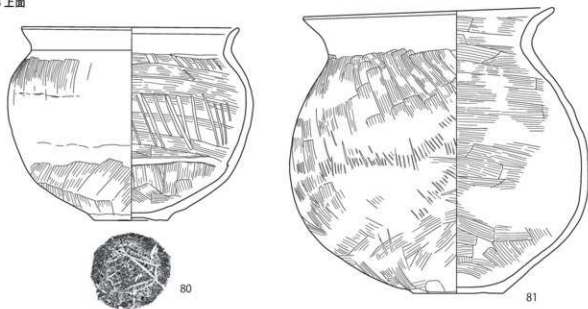
第47图 TR4 (4) 出土遗物

TR4
SD4 上面

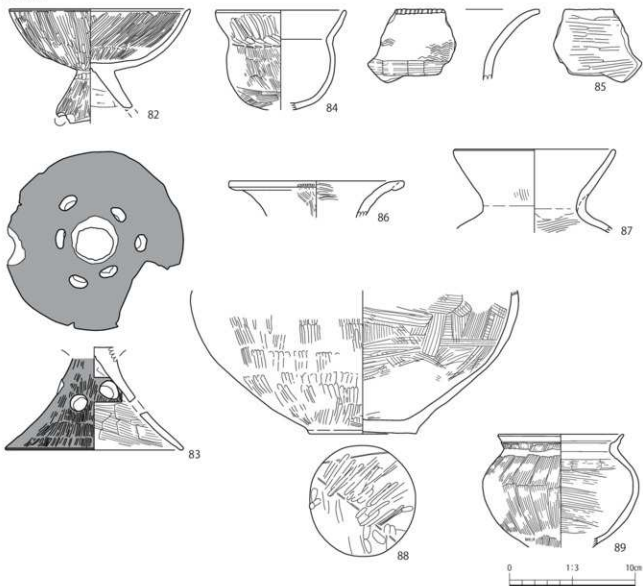


第48図 TR4 (5) 出土遺物

TR 4
SD4 上面

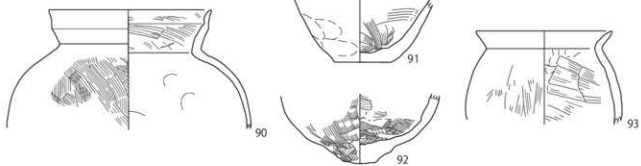


SD4 砂層

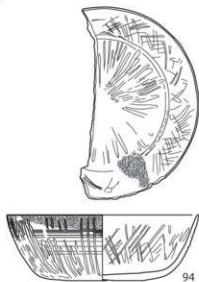


第49図 TR 4 (6) 出土遺物

TR 4
SD4 砂層



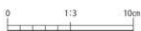
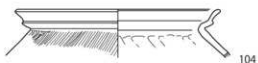
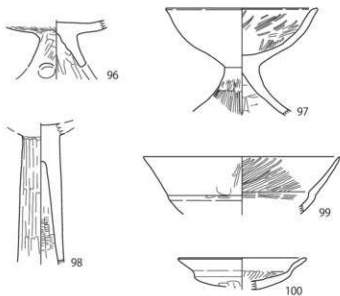
SK3



SR5

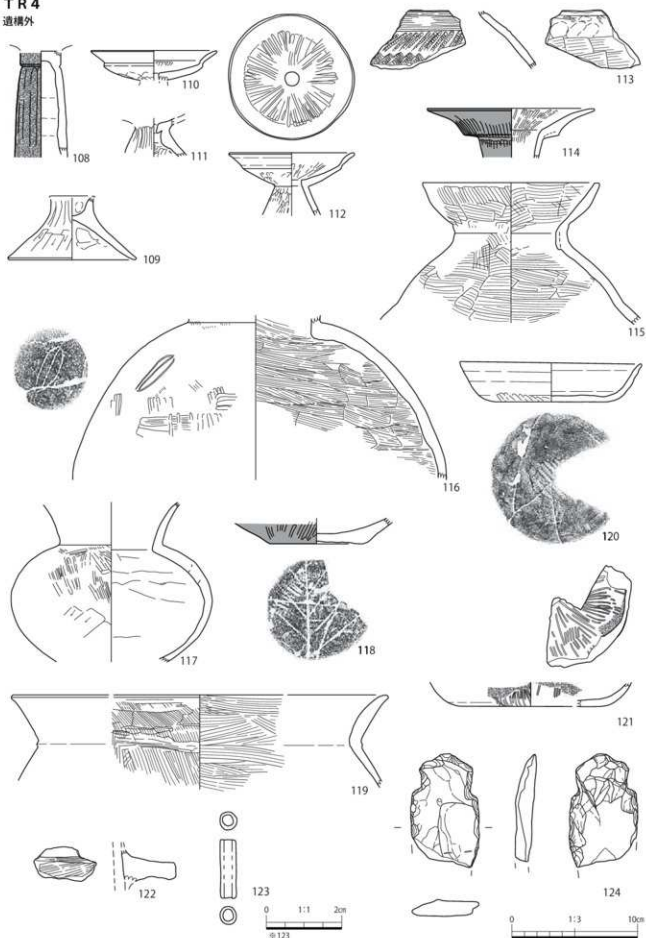


砂礫層



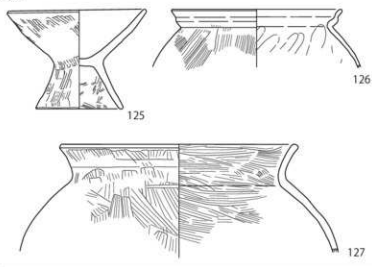
第 50 図 TR 4 (7) 出土遺物

TR4
遺構外

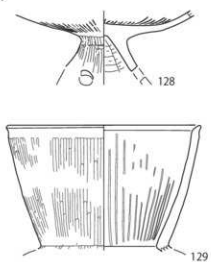


第51図 TR4(8)出土遺物

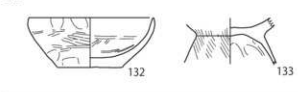
TR 6
SD4



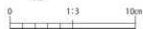
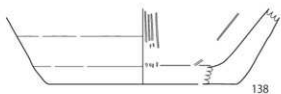
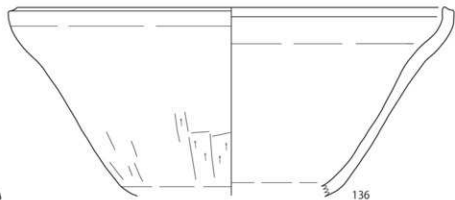
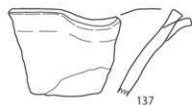
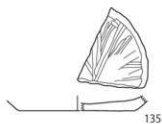
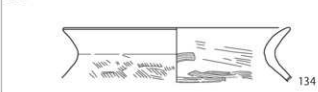
遺構外



TR 7
S12

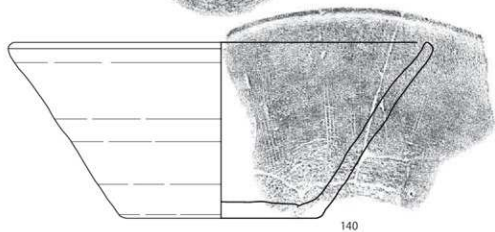
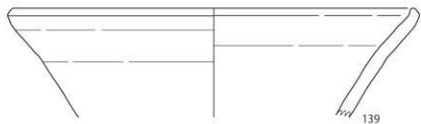


SD8

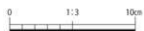
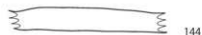
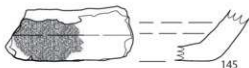
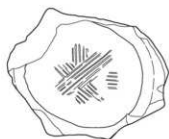
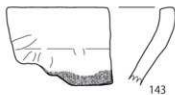
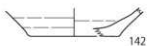


第52図 TR6・TR7(1)出土遺物

TR7
SD8

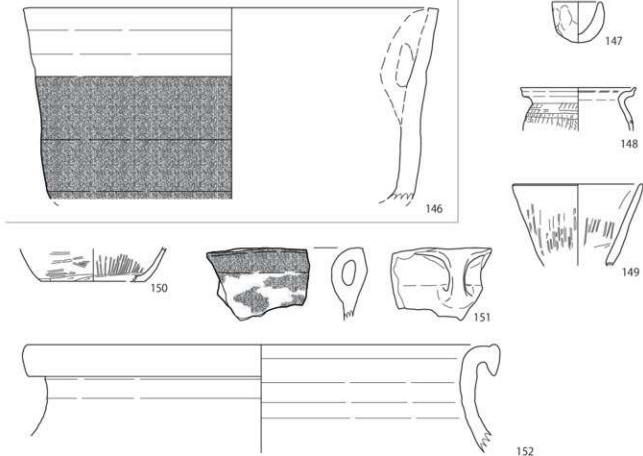


SD9

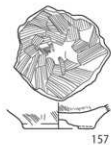


第53图 TR7(2)出土遺物

TR 7
SD9



TR 8
SD12 上面



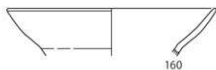
SD13



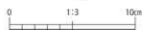
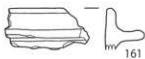
SD14



SD15



遺構外



第54図 TR 7 (3)・TR 8 出土遺物

TR9

SK12



163

Ph27



164

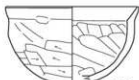


167

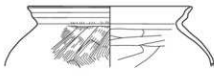
SD10



165



166



168



169



170



171



172



173



174



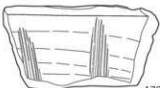
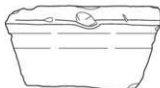
175



176



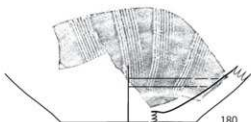
177



179



178



180



SD11



181



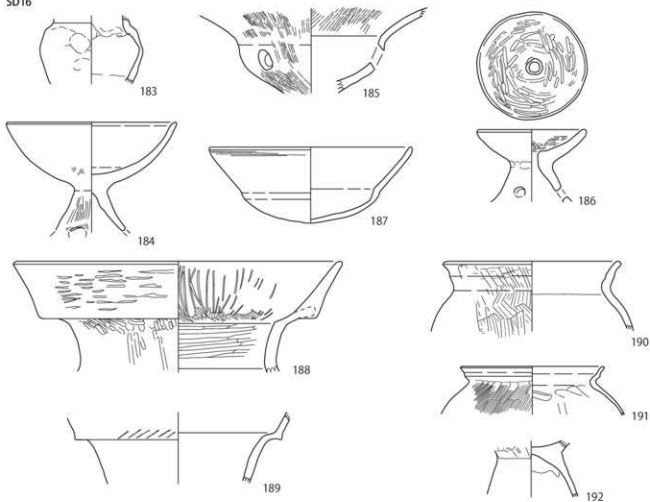
182



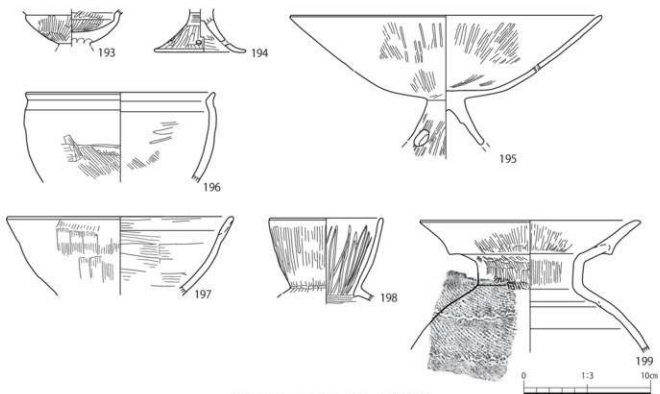
第55图 TR9 (1) 出土遗物

TR 9

SD16



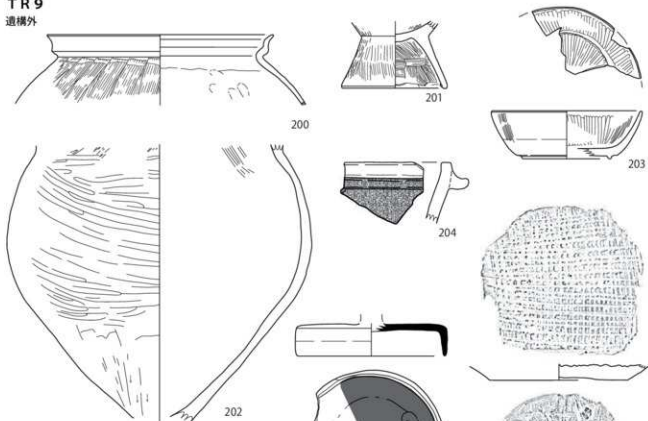
遺構外



第 56 図 TR 9 (2) 出土遺物

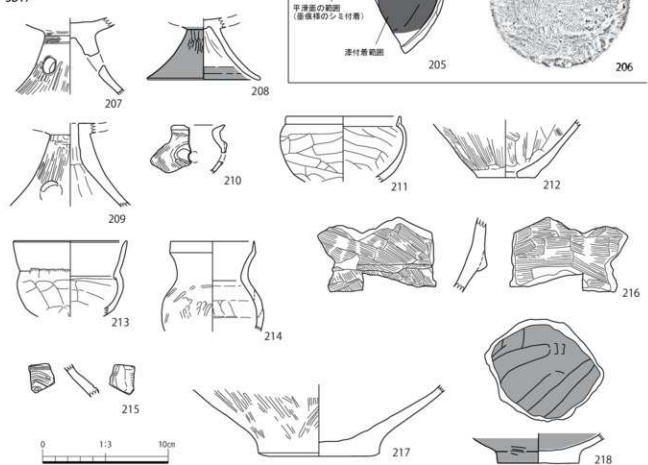
TR9

遺横外



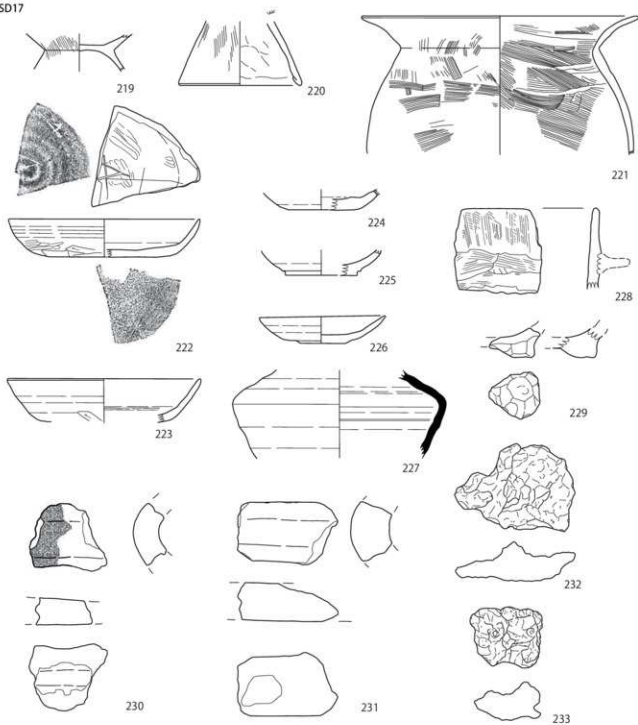
TR10

SD17

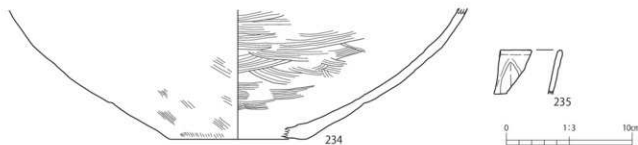


第57図 TR9(3)・TR10(1)出土遺物

T R 10
SD17

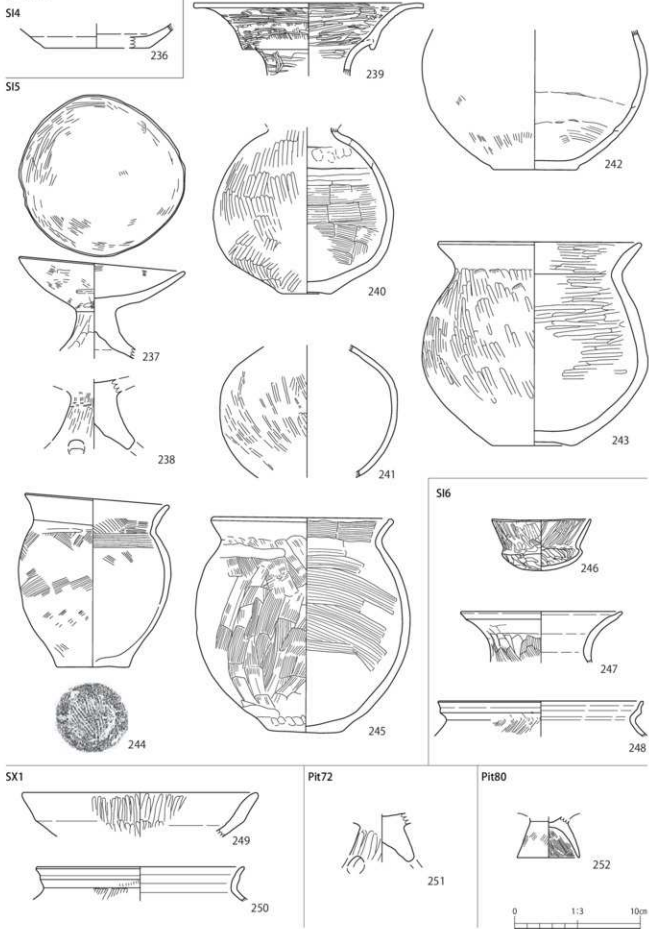


遺構外



第58図 T R 10 (2) 出土遺物

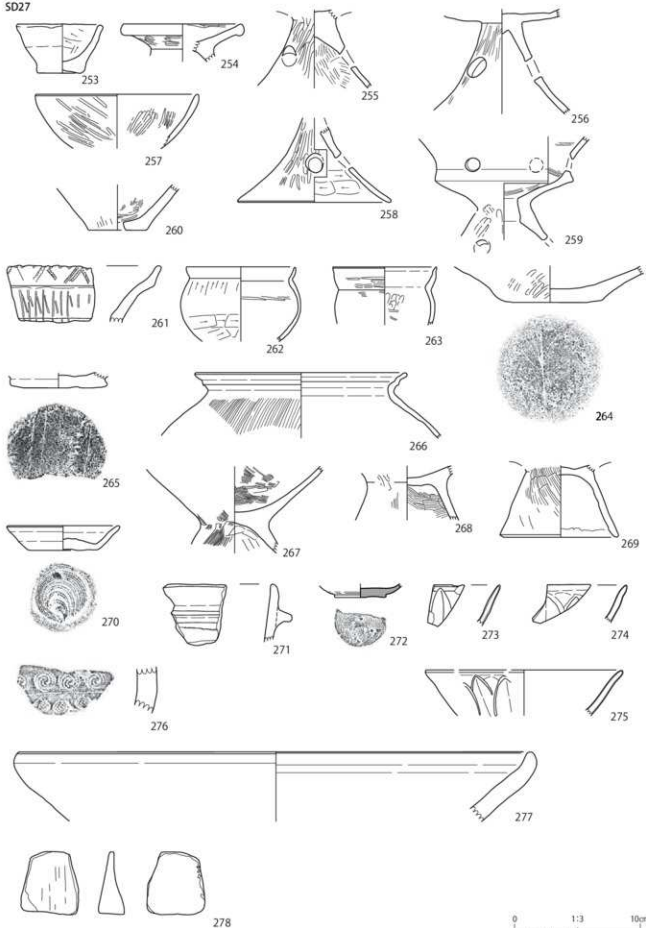
TR11



第59图 TR11(1)出土遗物

TR11

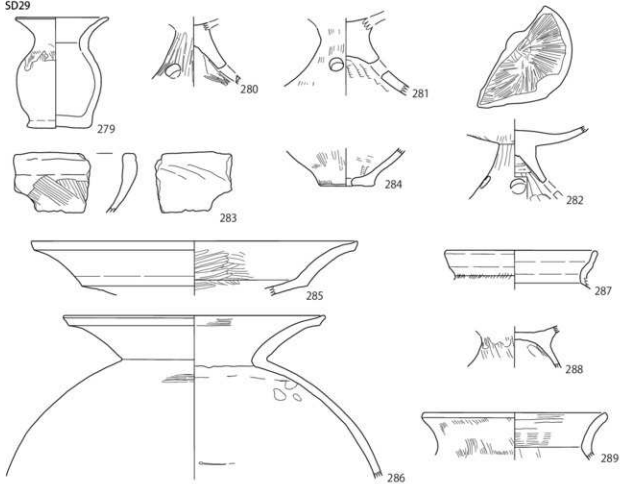
SD27



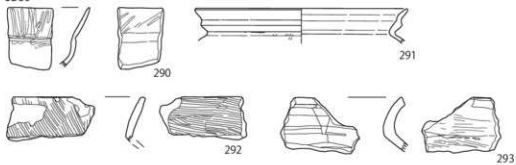
第60图 TR11(2)出土遗物

TR11

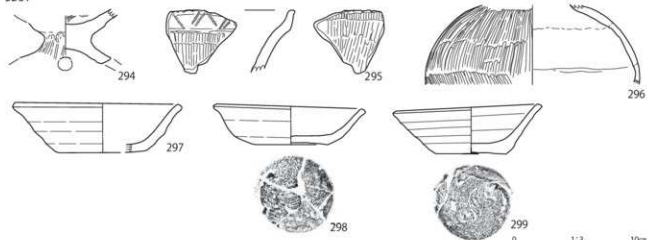
SD29



SD30



SD31

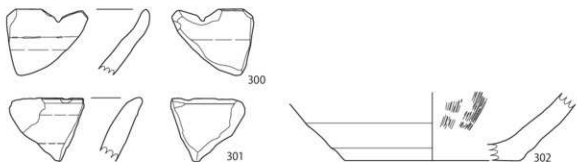


第61图 TR11(3) 出土遗物

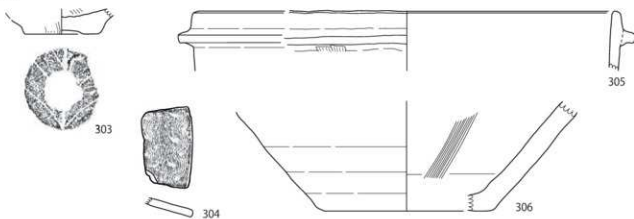


TR11

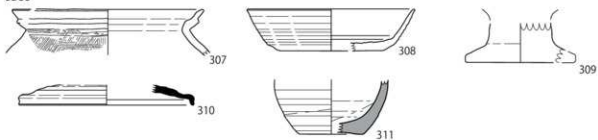
SD31



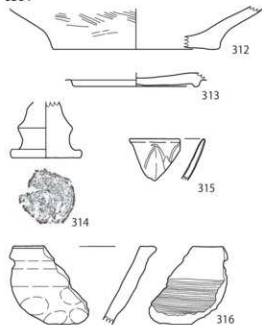
SD32



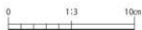
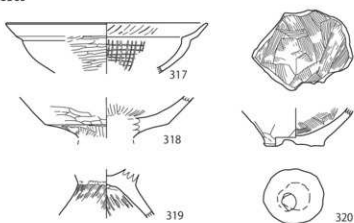
SD33



SD34

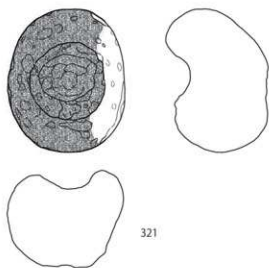


SD35



第62图 TR11(4)出土遗物

TR11
SD37



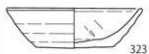
321

SD38



322

遺構外



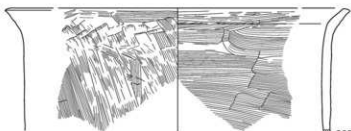
323



324



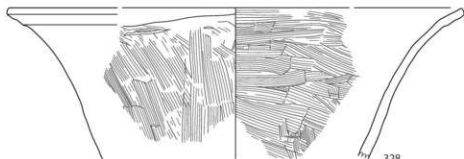
325



327



326



328



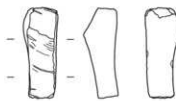
329



330



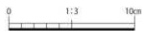
331



332



333



◎329-331

第63図 TR11 (5) 出土遺物

TR12

Pit41



334

SD22



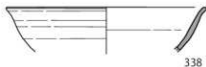
335



336



337



338

SD24



339



340

遺構外



341



342



第 64 図 TR12 出土遺物

第2表 足原川流域植物調査表(1)

調査年度	調査地	出土地点	種別	群種	変異率(%)	部位	色調	質感	触手	備考			
42	25	1781	上落葉樹	葉	(11.7)	0.58	2.5	口腔下小葉の裏面	好	緑褐色(心)色、赤褐色、赤色(口)色	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	1782	S1	上落葉樹	幹	0.7	4.7	樹皮	好	黒褐色	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	1783	S1	上落葉樹	幹	10.0	4.5	1.樹皮2.葉	好	黒褐色	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	4	1782	S1	上落葉樹	葉	(35.0)		好	黒褐色	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	5	1782	上落葉樹	葉	(12.0)	(3.5)	1.樹皮1.4-枝葉1/4	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	6	1782	上落葉樹	葉	-	(6.0)	樹皮	好	赤	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	7	1782	上落葉樹	葉	-	(8.0)	樹皮	好	赤	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	8	1782	落葉樹(自前)	葉	13.2	6.0	1.樹皮2.葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	10	1782	落葉樹	葉	9.4	4.2	2.葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
42	25	11	1782	落葉樹	葉	(11.0)	4.8	2.3	口腔下小葉の裏面	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
42	25	12	1782	落葉樹	葉	(9.2)	4.4	2.3	口腔下小葉の裏面	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
42	25	13	1782	落葉樹	葉	-	(4.7)	1.樹皮	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
43	25	14	1782	落葉樹(自前)	葉	(37.4)	(10.5)	1.樹皮	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
43	25	15	1782	落葉樹	葉	(30.2)	-	1.樹皮1/3	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
43	25	16	1782	落葉樹	葉	-	(2.5)	樹皮	好	赤	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
43	25	17	1782	落葉樹	葉	-	(1.6)	樹皮	好	赤	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
43	25	18	1783	S04	上落葉樹	葉	-	(1.0)	樹皮	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
43	25	19	1783	S04	上落葉樹	葉	(12.0)	-	4.4	1.樹皮	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
43	25	20	1783	S04	上落葉樹	葉	-	6.9	(3.7)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
43	25	21	1783	S04	上落葉樹	葉	-	7.1	(3.5)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
43	25	22	1783	S04	上落葉樹	葉	-	(12.2)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
43	25	24	1783	S82	上落葉樹	葉	(18.0)	-	(1.6)	1.樹皮1.4-枝葉1/2	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
43	25	25	1783	S82	上落葉樹	葉	(10.8)	-	(3.3)	1.樹皮1.4-枝葉1/2	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
43	25	26	1783	S82	上落葉樹	葉	7.2	3.6	1.5	口腔下小葉の裏面	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	27	1783	S83	上落葉樹	葉	-	(1.7)	杯部下小葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	28	1783	S83	上落葉樹	葉	-	(3.7)	杯部下小葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	29	1783	S83	上落葉樹	葉	(11.8)	-	(3.7)	杯部下小葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	30	1783	S83	上落葉樹	葉	12.7	5.0	(2.8)	杯部下小葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	31	1783	S83	上落葉樹	葉	(13.6)	5.5	2.0	口腔下小葉の裏面	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	32	1783	落葉樹	葉	-	(1.5)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色		
44	25	33	1783	落葉樹	葉	(7.5)	-	(1.0)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	34	1783	落葉樹	葉	(13.0)	-	(1.0)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	35	1783	落葉樹	葉	-	8.8	(4.0)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	36	1783	S04	上落葉樹	葉	(13.4)	-	(3.5)	1.樹皮	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	38	1784	S04	上落葉樹	葉	13.7	8.3	(3.5)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	40	1784	S04	上落葉樹	葉	(13.0)	11.9	12.3	1.樹皮1.4-枝葉1/2	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	41	1784	S04	上落葉樹	葉	22.0	(2.0)	(14.4)	1.樹皮1.4-枝葉1/2	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	42	1784	S04	上落葉樹	葉	-	(5.3)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色	
44	25	43	1784	S04	上落葉樹	葉	-	19.2	(3.5)	葉	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色
44	25	44	1784	S04	上落葉樹	葉	(10.6)	(3.0)	9.4	1.樹皮1.4-枝葉1/3	好	赤い葉柄	外・(内)幼芽 葉 黒い葉面切り / 根元葉面・平気葉面(口)色

※群種の記載は、原記載と異なり、本表は、川原川下流域の調査による。小株は、川原川下流域の調査による。小株は、川原川下流域の調査による。

第4章 総括

第1節 足原田遺跡出土須恵器に付着した茶色被膜の表面観察

山梨県立博物館 西順 麻以

1. はじめに

山梨市万力に所在する足原田遺跡の発掘調査で出土した須恵器（TR9遺構外出土：遺物番号205）に付着していた茶色被膜について、顕微鏡観察を行い、被膜物および須恵器の用途について検討した。

2. 資料と観察方法

観察対象は、須恵器1点（写真1）とその表面に付着していたと考えられる茶色被膜。観察は実体顕微鏡（顕微鏡：OLYMPUS製SZ61、カメラ：Nikon製DIGITAL SIGHT DS-U1）を用いた。

3. 結果

被膜は非常に薄く、脆く、色は濃い茶色である。被膜には、淡灰色の須恵器表面が剥がれた跡が確認され（写真3）、須恵器にも被膜が付着している様子が確認される（写真4）。淡灰色の跡と須恵器表面の剥がれた部位の観察から、もともと付着していた位置が推測された（写真2）。被膜層は、下から、①きめ細やかな茶色の層、②砂が含まれる層、③濃い茶色の三層構造が観察され、特に一番上の層は漆が硬化する際に起きる特有の「縮み」が観察された（写真5・6）。漆の乾燥を防ぐ蓋として紙や葉などが一緒に確認される例があるが、本資料では確認されなかった。

4. 考察

観察結果より、茶色被膜は漆であると推定される。被膜が付着していた部位は、本資料の全体ではなく、内面の天井部に集中していると考えられることから、器に漆を塗布したものではなく、須恵器を漆パレットとして使用していたと考えられる。また、資料の外面の天井部にはつまみがついていた跡がみられることから、本来は容器の蓋であったものをパレットに転用した様子が伺える。古代には、漆は漆器などの漆製品、武器、武具、装身具などの装飾、建造物の塗装、接着剤などに用いられていたことが知られており、転用漆パレットは各地から出土している。本遺跡からは、漆関係資料は本資料のみであり、漆工房があったかどうかは言及できないが、漆パレットが出土したことは、この地に漆が流通し、漆塗布作業が行われていたことを示唆する。



写真1 遺物写真（※茶色被膜剥落後）



写真2 茶色被膜付着推定位置

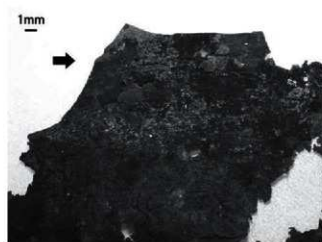


写真3 茶色被膜に見られる須恵器表面付着跡



写真4 須恵器表面の茶色被膜付着の様子



写真5 茶色被膜の三層構造



写真6 茶色の被膜表面にみられる縮み

第2節 漆付着土器（漆パレット）について

TR9の南西部で漆付着土器（遺物番号205）が出土した。器種は須恵器の短頸壺の蓋とみられ、包含層掘削を進めていた際に蓋の内面が上を向く状態で出土した。出土層位は1層の現耕作土の直下で、SD11とした溝状遺構より上位に位置し、遺構外出土遺物として取り上げた。出土時点では一見、枯葉のように見える茶色の付着物が内面に貼り付いた状態であったが、整理を進める過程で剥落した。剥落した切片は保管して山梨県立博物館に同定を依頼した。剥落後の内面の器面を観察したところ、硯面にみるような非常に滑らかな面と墨痕様のしみが認められた。また外面の天面のつまみは欠損したか、意図的に打ち欠いて、外面を底に据えて使用するのに好都合となっており、当初は転用硯と考えた。その後、山梨県立博物館によって付着物が漆であることが判明し、硯ではなく漆工の工具として漆パレットに転用された物とご教示いただいた。付着物の被膜は三層構造となっており、一番上の層は漆が硬化する際に生じる縮みが観察され、二番目の層には砂が含まれる。砂が何かは特定されていないが、漆塗りの下地の地の粉（鉱物粒子）の可能性を考えたい。

山梨県内の古代の漆関連遺物としては、笛吹市半行寺遺跡で漆パレットとされる土師器が出土している他、当遺跡の南約2kmに位置する山梨県高畑遺跡で出土した漆紙付着土器が目される。8世紀前半に位置づけられる土師器の環で、漆を一時的に利用する目的で使用され、反故紙がかけられたものと推定されている。また、韮崎市宮ノ前第3遺跡では、「奈」と判読できる文字が認められる漆紙が2枚付着した状態で出土した。漆紙が出土した建物の時期は9世紀前半である。

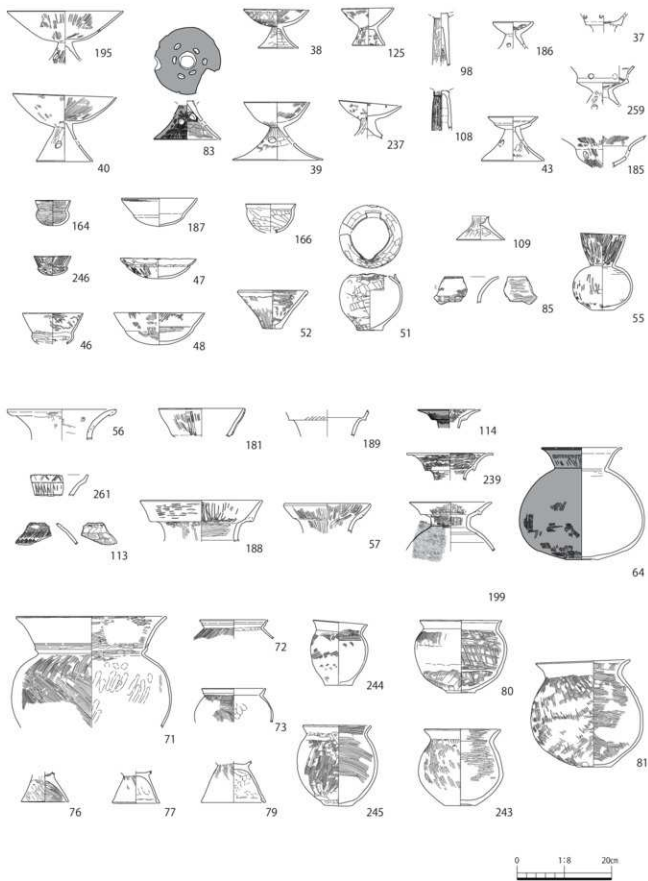
全国的には「7世紀は宮都や寺院建立に伴って漆の需要が増大した」（四柳2006）とみられ、前期難波宮、太宰府跡、明日香村の飛鳥池遺跡などで多数の漆関連遺物が出土している。また「8～9世紀ともなると平城京跡や平安京跡のほか各地の国衙や郡衙、寺院、在地豪族層の居館跡、祭祀遺跡などから漆器や漆工具の出土例が、枚挙に暇がないほど増加している」（同上）という。今回出土した漆付着土器はつまみ部が欠損するため、詳細時期は不明だが、近接する位置で奈良時代の遺物が複数出土しており（第21・66図：遺物番号182・203）、高畑遺跡や宮ノ前第3遺跡の資料と同様な時期に位置づけられるものと推測できる。漆工の工具である漆パレットの出土は当該期に在地で漆工を行う工房が存在したことを示唆するもので、今後は工房の性格を明らかにするような資料の出土も期待される。

第3節 各時期の様相（第65・66図）

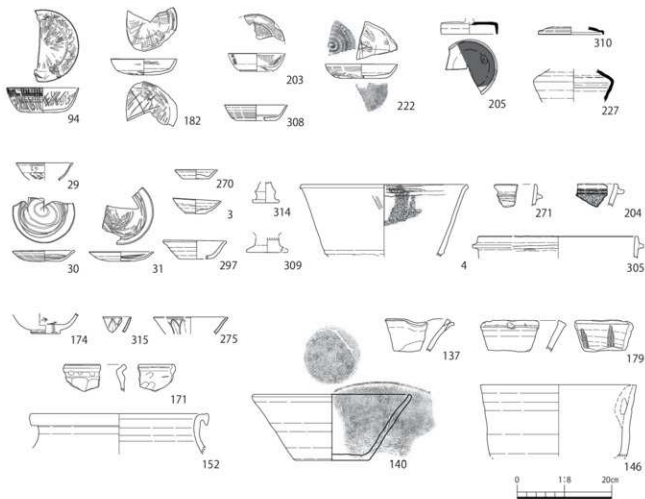
古墳時代では土師器が多量に出土した流路SD4を検出した。土師器の多くは流路上面でも出土しており、流路が埋没しつつある状態で礫と一緒に投棄されたとみられる。大形の高環や柱状の脚柱部の高環、丸底鉢、有段口縁壺や小形器台、台付甕などが出土しており、概ね古墳時代前期に位置づけられる。多量に投棄された土器に混じて1点ではあるが管玉も出土しており、祭祀行為に関連する遺物と考えられる。また足原田遺跡の古墳時代としては初めての竪穴建物を3軒検出した。

奈良・平安時代では検出できた遺構は少なかった。隣接地調査で比較的多く検出されてきた竪穴建物は今回の調査区では1軒のみの検出となった。遺物は一定量出土しており、平安末の柱状高台環や甕、羽釜などの出土はこれまでと同様だが、今回の調査では暗文が丁寧に施された甲斐型土器の初期段階に位置づけられる遺物が目立つ。特に漆付着土器（漆パレット）の出土は、当時の生業を考える上で貴重な資料である。

中世では溝状遺構・流路と掘立柱建物1軒、Pitなどを検出した。溝状遺構のSD8～10では瓦質土器・土器の摺鉢や内耳土器が出土した。SD32は、その近辺から多数のPitを検出し青磁なども出土したことから屋敷地の区画溝とも考えられるものである。SD17からはフイゴ羽口や鉄杵が出土した。隣接地調査でも確認されており、鍛冶遺構そのものは検出されないものの、鍛冶関連の生業が周辺地域で盛んに行われていたことを改めて示すこととなった。また調査区全体で主に中世とみられる氾濫堆積が確認できた。ただし笛吹川の扇状地に立地する当地においては、中世に限らず人々の生活はたびたび氾濫にさらされたと考えられ、これまで古墳時代の集落が検出されて来なかったのも氾濫によって多くを流し去られたためと推定する。



第 65 図 出土遺物の様相（古墳時代）



第 66 図 出土遺物の様相 (奈良・平安時代～中世)

引用・参考文献

- 阿部芳郎ほか 2018『地域資源を生かす 生活工芸双書 漆』農山漁村文化協会
- 猪股喜彦 2004『第五章第六節 国府と甲斐国分寺』『山梨県史 通史編1 原始・古代』
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1984『角川日本地名大辞典 19 山梨県』
- 小林健二 2010『古墳時代における甲斐の地域社会』『山梨県考古学協会誌第19号』
- 佐々木満 2004『山梨における中近世土器の様相』『山梨県考古学論集V』
- 佐々木満 2011『甲斐国における中世後半の土器様相』『山梨県考古学協会誌第20号』
- 葦崎市教育委員会・葦崎市遺跡調査会 1993『宮ノ前第3遺跡』
- 山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』
- 山梨県教育委員会・山梨県土木部 2005『足原田遺跡I』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書230集
- 山梨県教育委員会・山梨県土木部 2007『足原田遺跡II』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書246集
- 山梨市 2005『山梨市史 史料編 考古・古代・中世』
- 山梨市 2007『山梨市史 通史編上巻』
- 山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所ほか 2005『高畑遺跡』山梨市文化財調査報告書第8集
- 四柳嘉章 2006『漆1』法政大学出版局
- 四柳嘉章 2009『漆の文化史』岩波新書



調査区全景 (モザイク写真)



TR1 北壁土層 南東から



TR1 北壁土層 南西から



TR1 完掘 (モザイク写真)



TR2 SR1 検出状況 東から



TR2 SR1 完掘 南東から



TR2 S11 北壁 南から



TR2 S11 カマド検出状況 北から



TR2 S11 カマド検出状況 北東から



TR2 S11 カマド断削 北東から



TR2 完掘 (モザイク写真)



TR3 SR2 北壁 南から



TR3 SR3 完掘 北から



TR3 SR3 遺物検出状況 西から



TR3 SR3 遺物検出状況 西から



TR3 SD4 遺物出土状況 東から



TR3 SR4 北壁 南から



TR3 完掘 (モザイク写真)



TR4 SK3 遺物出土状況 西から



TR4 SK3 遺物出土状況 西から



TR4 遺構外 (SK5 上面) 遺物出土状況 北から



TR4 SK5 セクション 南から



TR4 SK6・7 完掘 (SK6 下層露出) 北西から



TR4 SR5 完掘 北から



TR4 SR6 完掘 北から



TR4 上層遺構完掘 西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 南東から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 南東から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 東から



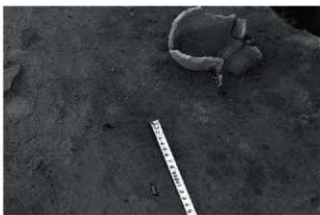
TR4 SD4 上面遺物出土状況 南西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 南西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 西から



TR4 SD4 上面管玉出土状況 西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 西から



TR4 SD4 上面遺物出土状況 西から



TR4 SD4 完掘状況 西から



TR4 完掘 (モザイク写真)



TR5 土層 南西から



TR5 完掘 (モザイク写真)



TR6 上層遺構検出状況 南から



TR6 上層遺構完掘 南から



TR6 遺構検出状況 南から



TR6 遺構外 (V層) 遺物出土状況 南東から



TR6 SD4 上面遺物出土状況 南西から



TR6 完掘 (モザイク写真)

図版 8



TR7 S12 検出状況 南西から



TR7 S12 セクション 南西から



TR7 S12 遺物出土状況 南から



TR7 S12 掘方確認 南西から



TR7 SK21 セクション 南から



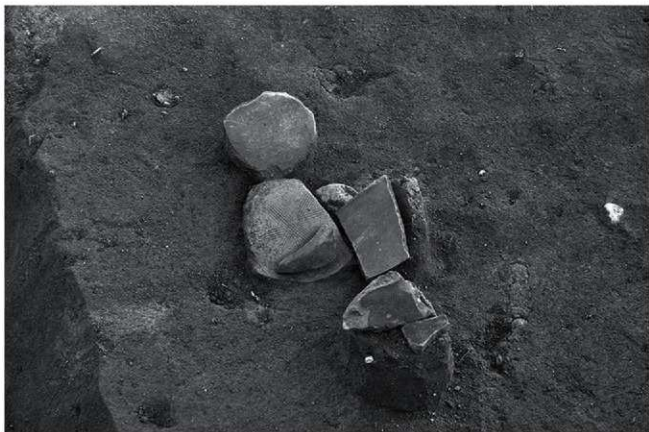
TR7 SK22 セクション 南から



TR7 SD8 遺物出土状況 西から



TR7 SD8 完掘 南東から



TR7 SD8 遺物出土状況 南西から



TR7 SD9 遺物出土状況 南から



TR7 SD9 遺物出土状況 東から



TR7 SD9 遺物出土状況 南東から



TR7 完瓶 (モザイク写真)

図版 10



TR8 遺構検出状況 東から



TR8 SD12 完掘 東から



TR8 SD13-14 西壁 南東から



TR8 SD13-14 完掘 西から



TR8 完掘 東から



TR8 完掘 南から



TR8 完掘 (モザイク写真)



TR9 遺構検出状況 南から



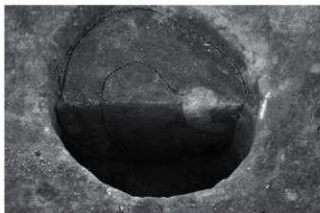
TR9 Pit4 セクション 南から



TR9 Pit6 セクション 北から



TR9 Pit7 セクション 西から



TR9 Pit8 セクション 南から



TR9 Pit9 セクション 南から



TR9 Pit11 セクション 東から



TR9 Pit12 セクション 南西から



TR9 Pit14 セクション 東から



TR9 Pit27 遺物出土状況 西から



TR9 SK12 セクション 南西から



TR9 SK14 セクション 西から



TR9 SB1 完掘 南東から



TR9 SD10 セクション 南東から



TR9 SD10 遺物出土状況 北西から



TR9 SD10 遺物出土状況 北西から



TR9 SD10 発掘 北から



TR9 SD10 発掘 南から



TR9 SD16 発掘 北西から



TR9 漆附着土器(漆パレット)出土状況 東から



TR9 発掘 (モザイク写真)



TR10 SD17 遺物出土状況 南東から



TR10 SD17 遺物出土状況 西から



TR10 SD17 遺物出土状況 南から



TR10 SD17 遺物出土状況 西から



TR10 SD17 フィゴ羽口出土状況 南から



TR10 SD17 鉄滓出土状況 南から



TR10 調査区全景 南西から



TR10 完照 (モザイク写真)



TR11 S13 セクション 北から



TR11 S13 完掘 北東から



TR11 S14 遺物出土状況 南から



TR11 S14 セクション 南から



TR11 S15 セクション 北西から



TR11 S15 検出状況 西から



TR11 S15 床面 北から



TR11 S15 遺物出土状況 北から



TR11 S15 掘方確認 北東から



TR11 S16 検出状況 北から



TR11 SX1(S16内)検出状況 北から



TR11 SX1(S16内)セクション 西から



TR11 S16 遺物出土状況 北から



TR11 S16 炭化物検出状況 東から



TR11 S16 床面検出状況 北から



TR11 S16 掘方確認 東から



TR11 S17 検出状況 北から



TR11 S17 床面 西から



TR11 Pit50 セクション 東から



TR11 Pit51 セクション 東から



TR11 Pit55 セクション 東から



TR11 Pit64 セクション 北から



TR11 Pit65 セクション 北から



TR11 Pit80 遺物出土状況 北から



TR11 中央部 Pit 群完掘 東から



TR11 SD27・31 遺物出土状況 東から



TR11 SD27 遺物出土状況 東から



TR11 SD27 上層遺物出土状況 東から



TR11 SD27・31 完掘 西から



TR11 SD29 遺物出土状況 北から



TR11 SD29 遺物出土状況 東から



TR11 SD29 遺物出土状況 西から



TR11 SD29 遺物出土状況 西から



TR11 SD29 完掘 南東から



TR11 SD32 礫検出状況 南から



TR11 SD32 遺物出土状況 南から



TR11 SD32 遺物出土状況 西から



TR11 SD32 完掘 南から



TR11 SD33 遺物出土状況 西から



TR11 SD33 完掘 西から



TR11 SD34 北壁 南から



TR11 SD35 南壁 北から



TR11 SD36 完壁状況 北東から



TR11 SD36 下層確認 北西から



TR11 SD37 完壁 南から



TR11 SD30 礫検出状況 南西から



TR11 遺構外遺物出土状況 南東から



TR11 遺構外遺物出土状況 西から



TR11 完壁 (モザイク写真)



TR12 遺構検出状況 北から



TR12 Pit41 セクション 西から



TR12 Pit41 遺物出土状況 西から



TR12 Pit41 完掘 西から



TR12 SD21 セクション 西から



TR12 SD21 完掘 西から



TR12 完掘 西から



TR12 完掘 (モザイク写真)



TR13 SD25 完掘 西から



TR13 完掘 西から



TR13 完掘 (モザイク写真)



TR13・TR14 完掘 西から



TR14 調査区南壁 北東から



TR14 完掘 北西から



TR14 完掘 (モザイク写真)



包含層掘削状況



遺構検出状況



遺構掘削状況



土層実測状況



ポール写真撮影



空中写真撮影



現場説明会(平成31年3月9日)



現場説明会(平成31年3月9日)

TR 1



1

TR 2



2



3



4

遺構外



5



6



7



8



9



10



11



12



13



16



17



14



15

TR 3

SD4



18



19



20

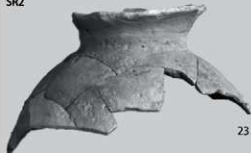


21



22

SR2



23



24



25



26

遺構外

SR3



27



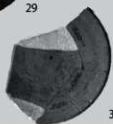
28



29



30



31



32



33



34



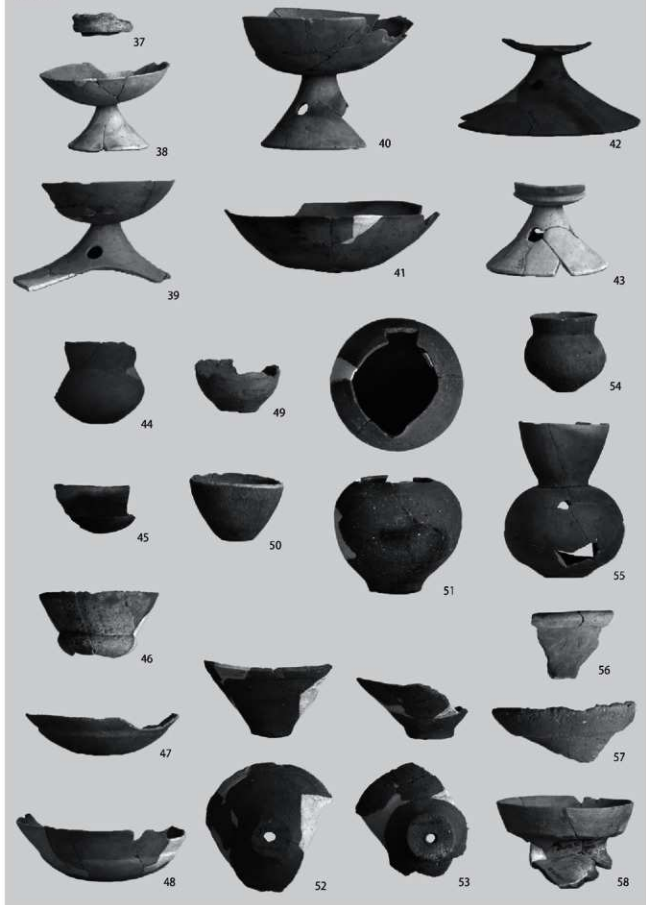
35



36

TR 4

SD4 上面



TR 4
SD4 上面

59



60



61



62



63



64



67



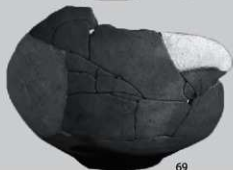
65



68



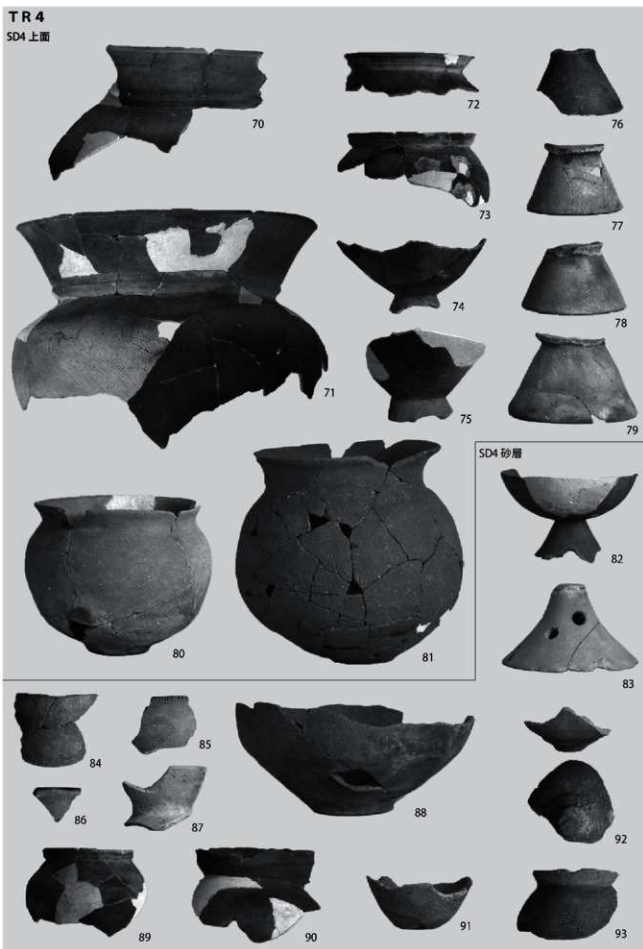
66



69

TR 4

SD4 上面



TR 4

SK3



94

SR5



95

砂礫層



96



97



98



100



101



103



102



104



99



105



106



107

遺構外



108



109



110



112



113



114



111



115



116



117



119



121



122



118



120



123



124

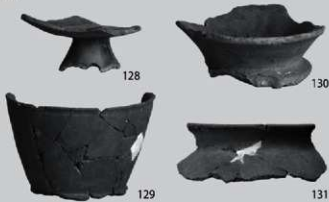


TR 6

SD4



遺構外

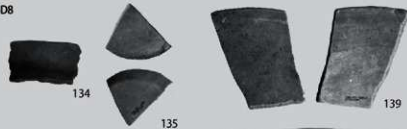


TR 7

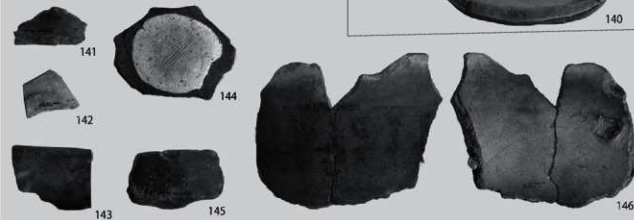
SD2



SD8

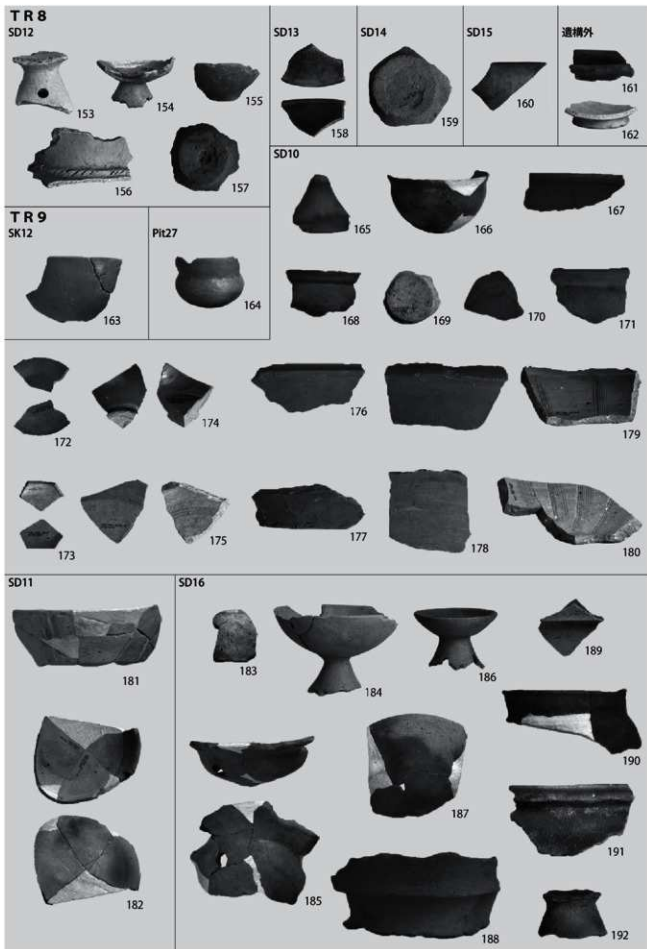


SD9



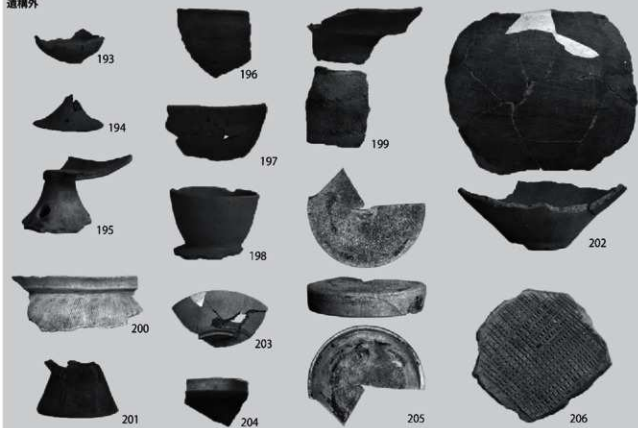
遺構外





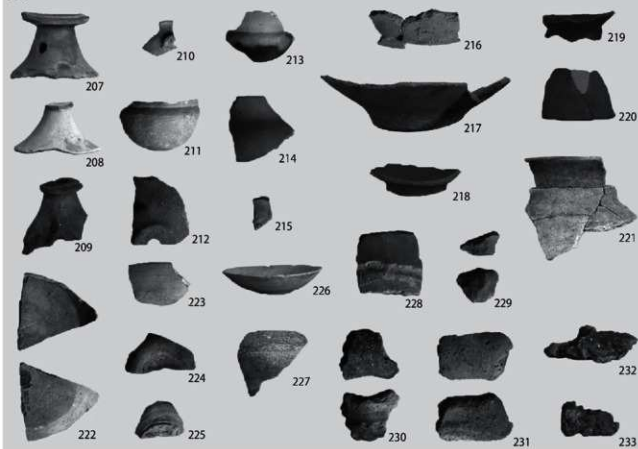
TR9

遺構外



TR10

SD17



TR10

遺構外



234

235

TR11

S14



236



238

S15



237



239



240



242



244



241



243



245

S16



246



247



248

SX1



249



250

Pit72



251

Pit80



252

SD27



253



254



259



262



266



255



257



260



263



267



256



258



261



264



268



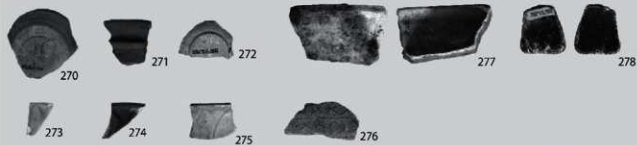
265



269

TR11

SD27



SD29



SD30



SD31



SD32



TR11

SD33



SD34



SD35



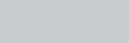
遺構外



SD37

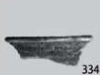


SD38



TR12

Pit41



SD22



SD24



遺構外



報告書抄録

ふりがな	いしはらだいせき
書名	足原田遺跡
副書名	コメリHC山梨万力店建設地点
巻次	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書
シリーズ番号	第34集
編著者	泉 英樹
編集機関	昭和測量株式会社
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号 TEL055-235-4448
発行年月日	令和元(2019)年10月31日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	道路番号	北緯東経			
いしはらだいせき	やまなし まんなき						
足原田遺跡	山梨市 万力	19205	05187	35° 41'19" 138° 40'20"	平成30年10月1日～ 平成31年3月15日	1,800㎡	コメリHC山梨万力店建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
足原田遺跡	集落	古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴建物4 掘立柱建物1 溝状遺構・流路	土師器・須臾器・灰釉陶器・ 青磁・瓦質土器・土師質土 器・土器・陶器・漆附着土器 (漆パレット)・フイゴ羽口・ 管玉・鉄滓など	古墳時代前期の流路に 投棄された土師器が多量 に出土した。奈良・平安 時代の漆附着土器が出土 した。

要約	<p>古墳時代前期では土師器が多量に出土する流路を検出した。土師器の多くは流路上面で出土しており、流路が埋没しつつある状態で投棄されたとみられる。土師器の他に管玉も1点出土しており、祭祀行為に関連する遺物とも考えられる。また足原田遺跡の古墳時代としては初めての竪穴建物を3軒検出した。</p> <p>奈良・平安時代では遺構の検出は少なく、竪穴建物は1軒のみである。遺物も多くはないが、一定量出土しており、甲斐型土器の初期段階に位置づけられる土器が目立つ。特に漆附着土器（漆パレット）の出土は当地としては希少なものである。</p> <p>中世では溝状遺構・流路と、中世と推定される掘立柱建物1軒・Pitなどを検出した。溝状遺構の一つは、その近辺から多数のPitを検出し青磁なども出土したことから屋敷地の区画溝とも考えられるものである。フイゴ羽口や鉄滓の出土は既往の隣接地調査でも確認されており、鍛冶関連の生業が当地で盛んに行われていたことを改めて示すこととなった。</p> <p>また今回の調査でも広い範囲で河川氾濫の痕跡を確認した。</p>
----	--

山梨市文化財調査報告書 第34集

足原田遺跡

ーコメリHC山梨万力店建設地点ー

令和元(2019)年10月31日 発行

発行 株式会社コメリ・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社

編集 昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号 TEL 055-235-4448

印刷 株式会社内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央2丁目10番18号 TEL 055-233-0188